

14. 21-801



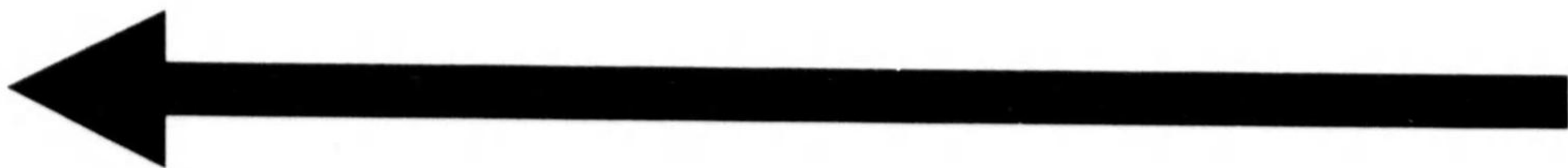
1200501163652

1

801



始



14.2

801

和十五年度

北海道農事試驗場業務概要

北海道農事試驗場

昭和十五年三月

北海道農事試験場



昭和十七年三月

本業務概要前編には北海道農事試験場本、支場、特定試験地、試作場、原種圃、採種圃、採種圃監督、原蠶種製造、模範果樹園、水稻新品種育成試験、小麥育種地方試験並に綠肥作物根瘤菌配付に於ける昭和十五年四月より同十六年三月に至る業務の概要を登載し、從來「試験及調査の成績に鑑み指導獎勵上注意すべき事項として」騰寫に代へ印刷に付せるものは本業務概要の後編として發表せ

北海道農事試験場



14 2A
801

昭和十五年度北海道農事試験場業務概要

目次

前編 昭和十五年度に於て施行せる業務一般

第一 氣象概況並に作況	一
一、氣 象	一
二、作 況	三
第二 試験及調査	三
一、種藝及園藝に関する試験及調査	三
甲、種藝に関する試験及調査	三
乙、園藝に関する試験及調査	三
二、土壤肥料に関する試験及調査	六
甲、土性及土地改良に関する試験及調査	六
乙、施肥標準に関する試験及調査	七

丙、一般土壤肥料に関する試験及調査	元
丁、特殊原野開發指導試験	美
三、病理及昆蟲に関する試験及調査	毛
甲、病理に関する試験及調査	毛
乙、昆蟲に関する試験及調査	元
丙、一般病害蟲に関する試験及調査	圓
四、蠶桑に関する試験及調査	圓
五、畜産に関する試験及調査	圓
六、農産加工に関する試験及調査	圓
七、農具に関する試験及調査	五
八、農業經營に関する試験及調査	五
第三 普及事業	五
一、教習生の養成	五
二、印刷物の刊行及配付	五
三、見本	美
四、種苗配付	毛

五、農事指導	元
六、質疑應答	元
七、依頼分析	元
八、參觀人	元
第四 其他	元
一、出張	元
二、文書の發送及接受	元
三、其他	元
原種圃	元
採種圃	元
採種圃監督	元
原蠶種製造	元
模範果樹園	元
水稻新品種育成試験	元
小麥育種地方試験	元
綠肥作物根瘤菌配付	元

後編 指導獎勵上參考に資すべき試験及調査成績

一、種藝及園藝に関する試験及調査成績……………

甲、種藝に関する試験及調査成績……………

(一) 水稻「石狩白毛」に関する試験成績(上川支場、その他)…………… 一五

(二) 水稻「水稻農林二十號」に関する試験成績(上川支場、その他)…………… 一六

(三) 水稻「水稻農林十九號」に関する試験成績(北見支場、美深試作場)…………… 一七

(四) 水稻「巴錦」に関する試験成績(渡島支場)…………… 一八

(五) 水稻「大野中稻」に関する試験成績(渡島支場)…………… 一九

(六) 温床苗栽培用品種適否試験成績(本場)…………… 二〇

(七) 水稻温床苗栽培用品種選抜試験成績(渡島支場)…………… 二一

(八) 水稻直播期節試験成績(美深試作場)…………… 二二

(九) 水稻直播栽培に於ける播種密度試験成績(美深試作場)…………… 二三

(一〇) 灌溉水の深淺に関する調査成績(美深試作場)…………… 二四

(一一) 綠肥大豆品種試験成績(十勝支場)…………… 二五

(三) 菜豆品種選抜試験成績(早來火山灰地試験地)…………… 二六

(四) 馬鈴薯品種選抜試験成績(美深試作場)…………… 二七

(五) 馬鈴薯品種選抜試験成績(早來火山灰地試験地)…………… 二八

(六) 馬鈴薯育成系統生産力檢定試験成績(美唄泥炭地試験地)…………… 二九

(七) 馬鈴薯培土時期試験成績(美深試作場)…………… 三〇

(八) 秋播菜種播種期節試験成績(日高試作場)…………… 三一

(九) 苧麻適否試験成績(美瑛試作場)…………… 三二

(一〇) 洋種薄荷植付時期試験成績(日高試作場)…………… 三三

(一一) 簡耕栽培に関する調査成績(十勝支場、幸震高丘地試験地)…………… 三四

乙、園藝に関する試験及調査成績……………

(一) セルリー栽植密度に関する試験成績(本場)…………… 三五

(二) 甘藷適否試験成績(早來火山灰地試験地その他)…………… 三六

二、土壤肥料に関する試験及調査成績……………

甲、土性及土地改良に関する試験及調査成績……………

(一) 後志國土壤三要素に関する試験成績(本場)…………… 三九

(二) 後志國土壤に對する肥料配合試験成績(本場)…………… 四〇

乙、肥料に関する試験成績……………

(一) 石灰對三要素天然供給量試験成績(本場)……………一〇

(二) 新壘火山灰地窒素用量試験成績(本場)……………一五

(三) 新壘火山灰地磷酸用量試験成績(本場)……………一八

(四) 火山灰地堆肥用量試験成績(本場)……………一九

(五) 作物種類對トーマス燐肥、過燐酸石灰肥比較試験成績(美唄泥炭地試験地)……………一九

(六) 綠肥作物根瘤菌接種試験成績(十勝支場、幸震高丘地試験地)……………一九

(七) ルーサン根瘤菌接種試験成績(渡島支場)……………一九

三、病理及昆蟲に関する試験成績……………

甲、病理に関する試験及調査成績……………

(一) 馬鈴薯疫病防除藥劑に関する調査成績(十勝支場)……………二〇

(二) 甜菜立枯病防除に関する試験及調査成績(本場)……………二〇

(三) 採種用甜菜蛇眼病に對する藥劑撒布時期及回数試験成績(本場)……………二〇

(四) 茄青枯病豫防試験成績(渡島支場)……………二四

(五) 線蟲根瘤病と輪作との關係試験成績(本場)……………二五

(六) ボルドウ液代用藥劑に関する調査成績(本場、十勝支場、美深試作場)……………二八

乙、昆蟲に関する試験及調査成績……………

(七) 昭和十五年本道に於て發生せる特に注意すべき病害に関する調査成績(本場)……………二六

乙、昆蟲に関する試験及調査成績……………

(一) 穀實量及時期の差異による燻蒸劑殺蟲效果試験成績(本場)……………二五

(二) 稻象鼻蟲成蟲加害期に於ける防除に関する試験及調査成績(本場)……………二五

(三) 稻葉潜蠅に對する各種藥劑の効果比較試験成績(本場)……………二四

(四) 黍に對する二化性螟蟲防除試験成績(十勝支場)……………二四

(五) アノメイガ防除法としての玉蜀黍雄穗早期切除試験成績(本場)……………二四

(六) 昭和十五年本道に於て發生せる特に注意すべき害蟲に関する調査成績(本場)……………二五

四、畜産に関する試験及調査成績……………

甲、飼料に関する試験及調査成績……………

(一) 瑞典蕪菁品種選抜試験成績(釧路試作場)……………二五

(二) 牧草アルサイクローパー、クサヨシに関する試験成績(釧路試作場)……………二五

(三) 飼料に供し得べき物料の組成成分分析成績(本場)……………二六

(四) 本道に於ける主要野草の飼料的成分に関する調査成績(本場)……………二六

乙、家畜飼育に関する試験及調査成績……………

(一) 冬季放牧地に於ける馬の採食量、排泄量並に笹の飼料的價值に関する調査成績(本場)……………二七

八

(一) 牛に於ける笹の實の消化試験成績(本場) 三六

(二) 稻熱病被害稻葉による家畜飼養試験成績(本場) 三六

(三) 農産加工に関する試験及調査成績 三三

五、農産加工に関する試験及調査成績 三三

(一) 乾蕨原料處理に関する試験成績(本場) 三五

(二) 蕨乾燥法に関する試験成績(本場) 三六

六、農具に関する試験及調査成績 三六

(一) 北農式馬鈴薯掘取機に関する試験成績(本場) 三六

本編に記載せる試験機關の名稱略稱、並にその所在地左の如し

北海道農事試験場	(本場又 は札幌)	石狩國札幌郡琴似村大字琴似
北海道農事試験場美唄泥炭地試験地	(美唄)	石狩國空知郡美唄町字茶志内原野
早來火山灰地試験地	(早來)	膽振國勇拂郡安平村字早來
上川支場	(上川)	石狩國上川郡永山村
十勝支場	(十勝)	十勝國帶廣市
幸震高丘地試験地	(幸震)	十勝國河西郡大正村字幸震
北見支場	(北見)	北見國常呂郡野付牛町
渡島支場	(渡島)	渡島國龜田郡大野村大字大野町
根室支場	(根室)	根室國標津郡標津村字中標津
檜山支場	(檜山)	渡島國檜山郡厚澤郡村大字俄虫村
俱知安支場	(俱知安)	膽振國虻田郡俱知安町字琴平
釧路支場	(釧路)	釧路國釧路郡鳥取村字種瀨平
美深支場	(美深)	天鹽國中川郡美深町字美深
天鹽支場	(天鹽)	天鹽國天鹽郡天鹽町字川口
天鹽支場	(天鹽)	後志國瀨棚郡利別村字神丘
日高支場	(日高)	日高國靜内郡靜内町
稚内支場	(稚内)	北見國宗谷郡稚内町大字聲間村字幕別
美瑛支場	(美瑛)	石狩國上川郡美瑛町字美瑛原野
和寒除蟲菊試驗地	(和寒)	天鹽國上川郡和寒村字菊野
島松馬鈴薯玉蜀黍試驗地	(島松)	石狩國千歲郡惠庭村字島松

前編

昭和十五年度に於て施行せる業務一般

第一 氣象概況竝に作況

各農事試験機關に於ける豊凶考照試験の成績を基礎とし、昭和十五年に於ける本道農業氣象の概況竝に作況の概要を記せば左の如し

一、氣 象

前年秋播作物播種後の天候を見るに、積雪前にありては各地を通じ概して高温に經過せるも十勝、稚内地方は十月始より、
網走、美唄、美瑛、美深地方は十月半より、檜山地方は同月末より低温を示せり。積雪後に於ては渡島、石狩(札幌)、早來
地方は十一月以降、氣候の變化稍多く稍低温を示し、渡島地方のみは二月末迄持續し、十二月末乃至一月以降に於て釧路地
方を除き孰れも概して低温に經過し、上川、美瑛、美深地方は一月後半より二月に互り氣温の低下甚しかりき。爾後は十勝
地方の稍低く、釧路地方の平年と大差なき以外は三月に入り各地共高温なりしも、檜山、倶知安、美唄、美瑛、上川、美
深、稚内の諸地方は四月に入り夫々稍低温を示したり。尙天鹽地方に於て十月上、中旬に兩度の強風ありし外特記すべき氣
象現象を認めざりき。



降水量は積雪前に於て、釧路、根室、稚内地方を除き、九月後半曇雨天の持續により多雨にして、十二月に入り好轉するに及び概して晴天の日多く、美唄、美瑛、上川地方は十月前半迄陰濕に經過せり。

根室は渡島、檜山、瀬棚の道南地方及北見、根室、稚内の諸地方を除きては各地共遅れ、積雪量に於ては十勝、北見、釧路、天鹽、稚内地方は概して少なきも、其の他の地方に於ては孰れも稍多く、早來地方に於ては昭和十四年に亞ぐ記録的大雪を見たり。爾後三月に入り各地を通じ高温に經過せるを以て融雪促進せられたるも、四月上旬檜山、瀬棚、俱知安、上川、北見、根室、稚内地方に於ては大雪を見るあり、爲に融雪の遅延せる所少なからざりき。融雪期は平年に比し十勝、釧路の兩地方は十餘日早く、渡島、早來、美深、天鹽、稚内地方は稍早きも、其の他の地方は孰れも稍遅く、瀬棚、日高、北見地方は約一週間の遅延を見たり。而して融雪後の天候を見るに渡島、檜山、日高地方を除きては概して順調にして、根釧原野の土壤凍結の融解も釧路地方に於ては低温の爲遅延せるも根室地方は順調なりき。

更に播種後の天候は五月中は気温の變動稍多きも概して高温寡雨多照にして順調に經過し、所により乾燥の嫌ありしも、六月に入り各地共気温の降下激しく多雨寡照陰濕なる天候持續せり。其の後六月下旬に於て各地共気温稍高く、早來、日高、釧路の多雨寡照なるを除きては各地共晴天多く適順に經過せり。然るに七月上旬に入り、全道的に気温の低下著しく寡照不順にして渡島地方は其の降水量平年の倍餘に及びり。其の後中旬に入り檜山地方の下旬に引續き降雨多く不順なりし外は前半恢復の徴を示せるも、後半に至り再び曇雨天多く著しく陰濕なる天候持續し、又、渡島、俱知安の兩地方に於て七月十五日に暴風の襲來等ありしも、爾後渡島、檜山、石狩(札幌)、日高、上川、美深、天鹽の諸地方は好轉し、高温多照に經過せり。其の他の地方は同月中旬に引續き概して低温、寡照、濕潤にして十勝地方は霖雨の襲來多く、又、釧路地方は海霧の襲來連日に互り、陰鬱なる天候持續し、八月上旬後半より中旬前半に互りては日高地方の下旬後半高温多照、稚内地方の平年と大差なき地方以外は全道的に低温不順の天候にして、十勝地方は八月七日多量の降雨を見たり。其の後同月中旬後半以降は概して高温多照に經過せるも、俱知安地方のみは低温にして日照少なく濕潤なりき。而して八月二十六日は各地に強

風あり、又翌二十七日には豪雨襲來し、爾後は全般的に気温の低下を示すに至れるも、美唄、美深地方のみは稍高温を示し、概して寡雨、寡照の地方多かりき。降水量は稚内地方は九月上旬皆無なりしも、十勝、美唄の兩地方は稍多く、日照時北見、美深、天鹽地方は稍多きを示せり。尙、瀬棚地方に九月五日暴風の襲來等ありて總じて低温不順の天候なりしも、九日に於て月上旬末より同月中旬始めに互り一時高温を示し、同期間早來、日高、美唄地方に於ては他地方に比し好晴の日多かりしも、其の他の地方に於ては低温にして曇天の持續を見、釧路地方も亦、其の獨特の晴燥の日少なく陰鬱に經過して中旬末期以降は気温の降下甚しく、全道を通じ気温の較差多かりき。而して稚内地方に於ては九月十三日降雹あり、又、初霜の最も早きは稚内地方の九月十七日にして、次いで上川、北見、天鹽地方は同月二十日に之を見、平年に比べて孰れも十數日早きを示せり。爾後各地共概して低温なりしも十勝、美唄、上川、根室地方は高温、且、多照を示し、旬末に於ては全道的に気温低温にして晝夜の較差甚しく各地に結霜あり、就中稚内地方に於ては九月二十九日に初雪を見たり。尙、同地方に於て九月二十六日、二十八日の兩日には多量の降雨ありき。美唄其の他の地方は十月に入るとも気温の較差は大にして最高気温は高きも最低気温は低く、各地を通じ晴燥の日多く、寡雨多照なりしも、天鹽、稚内地方の十月中旬の多雨、俱知安、瀬棚、石狩(札幌)、美瑛、北見の諸地方の同月下旬に於て降水量の増加を見たる外は概して好晴順調に經過せり。

二、作 況

一、秋 播 作物

小 麥 冬損は地方により多く、殊に北見地方は著しく多く、播直しの餘儀なくされし所あり、爾後五月に入り天候變動多かりしも概して高温多照なりし爲、起生後の生育概して順調なりき。然るに六月に入り冷濕となるに及び生育亦遅延し、北見、十勝地方は冬損多き爲、生育不良なりき。爾後は六月下旬一時天候好轉せしのみにて七月上旬に入り全道的に陰

濕不順の天候持續せるを以て小麦赤銹病の發生全道的に及び、麥類赤黴病も局所的に發生せり。又被害は概して輕微なりしもその後の天候も寡照不順に經過せるを爲小麦赤銹病の被害各地を通じ多く、渡島、檜山、美瑛地方の麥類赤黴病の被害は概して大なりき。又、早來地方に於て麥類黒銹病の發生多く莖葉軟弱にして降雨により倒伏せるもの少なからず。又、開花中雨濕に遭遇せしため結實並に登熟作用概して不良にして各地共品質良好ならず、其の收量は諸種の障碍多かりし爲、稚内地方の増收、石狩(札幌)、早來地方の稍減收を除き各地共減收を示せり。

菜種 冬損は地方により稍多く五月中は天候概して高温なりしため生育順調なりしも、六月に入り多雨寡照に經過せるを以て生育は空知、石狩地方に於て稍劣れり。爾後七月に入り陰濕の天候持續せるを以て其の生育は各地共稍劣り、石狩、空知地方に於て降雨の爲稔實不良、又、瀬棚地方は雨濕の爲品質の低下を見、其の他の地方に於ても概ね稍不良なりき。而して其の收量は天鹽地方は平年と大差なきも石狩、空知地方は稍減收、其の他の地方は減收を示せり。

二、春播作物

水稻 本年は地方により融雪期の遅延せる所ありしも、融雪後の天候概して順調なりし爲、苗代の作業及播種も一般に平年に比し大差なく、發芽は各地共概して良整なりしに、六月に入り低温寡照陰濕なる天候の持續により生育遅々として進捗せず、加ふるに稲苗腐敗病各地に發生し、稻泥負蟲、泥苞蟲の發生あり被害概して輕微に止まりたるも、空知中央部、俱知安、日高地方の一部に於て稻象鼻蟲の被害甚しく、挿秧は平年に比し五日乃至十日の遅延を來し、其の狀況は渡島、瀬棚の兩地方は不良なるも其の他の地方は稍不良なりき。直播田の作業も五月中の天候概して順調なりし爲平年と大差なく、播種は概ね五月中、下旬に施行せられ、發芽の狀況も十勝地方の良整を缺く外は一般に良整なりしも、五月末より六月に入り低温寡照に經過せる爲平年に比し五日乃至十日の遅延を來し、各地共其の狀況稍不良を示せり。爾後六月下旬に於ては全道的に氣温稍高く晴天持續せるを以て、全道各地共生育一時好進の徴を示せるも、七月に入り中旬前半高温多照なりし外は

概して曇雨天多く、且、寡照陰濕の天候連日に及びし爲草丈、莖數共に平年に比し稍劣り、莖葉軟弱、且、分蘗期遅延の嫌ありて其の作況全道的に稍不良の狀態にして、之を地方的に見るに上川、天鹽、十勝地方は不良、俱知安地方は普通、其の他の地方は孰れも稍不良なりき。其の後七月末より八月上旬前半に互り地方的に高温多照を示せるも、其の他は概して低温不順に經過し、殊に八月七、八、九日の三日間は著しく低温なりし爲其の影響にて黑變現象を呈せる地方少なからず、俱知安、上川、美深の諸地方に於てはこの被害特に多く、生育は恢復の域に達せずして草丈は上川地方の普通以外は一般に劣る狀態なりき。而して病害蟲としては全道的に互り稻熱病の發生を見、上川中央部、富良野方面、美深、空知地方の一部に於て多く、俱知安、瀬棚地方には疑似稻熱病の發生あり、就中、俱知安地方の局所に稍多かりき。稻胡麻葉枯病は渡島、檜山、瀬棚、早來、日高地方に發生せるも被害は概して輕微なりき。尙、檜山地方の一部に稻黃化萎縮病多きを認められ、蟲害としては二化性螟蟲の被害平年に比し多く、上川中央部、富良野方面は稍多かりき。更に空知中央部に於て稻象鼻蟲、渡島地方及檜山地方の局所にフタオビコヤガの加害多く、渡島、檜山、瀬棚地方のウヅカ、美深、天鹽地方のヒメササキリは局所的に加害あるを認められたり。而して是等諸種の障碍多かりし爲其の作況は上川地方の普通以外各地共良好ならず、特に瀬棚、美深、十勝地方は不良なりき。八月中旬後半以降概して高温多照に經過せるを以て、出穂後の開花受精作用は概して良好に行はれ、爾後の登熟も順調に進み、九月上旬初期に於て早熟種は黃熟初期、中熟種は乳熟期乃至黃熟初期に至れるもの多かりき。尙、病害蟲としては稻熱病の發生平年に比し多く、上川中央部、空知北部地帯には其の被害甚大にして、其の他の地方に於ても局所的に發生多き所あり、又、二化性螟蟲の發生も平年より多きも、被害は概して輕微に止まりたり。尙、稻胡麻葉枯病、イネアラムシ、ウヅカの發生を見たる所あるも、其の被害概して輕少にして、十勝、空知、石狩地方の不良なりし外は各地共稍不良の作況を示せり。九月以降の天候は全道的に概して不順低温寡照に經過せるを以て、登熟は緩慢に行はれ、美深地方の晩熟種に於て稔實良好ならざる嫌ありしも、一般に概して良好にして九月下旬に成熟せるもの多く、早、中熟種に於ては大部分收穫を了したり。病害蟲としては八月末に引續き稻熱病の發生多く、上川北部の一部、同中央部及空知北部、同中央部の一部、俱知安、北見地方の一部に於て被害激甚を極めたり。又、石狩(札幌)地方に於ては二化性

螟蟲の被害稍多く、檜山地方に於ては輕微なる黒變現象認められ、瀬棚地方に於ては九月五日の暴風の被害甚大なりき。斯の如く本年度水稻作況は氣象の不良不順に加ふるに各地に病害蟲の發生多く、就中稻熱病の發生甚しき地方は其の減收著しく、殊に上川中央部及空知北部地方に於ては其の蔓延猖獗を極め、收穫皆無の處少なからざる未曾有の慘狀を呈せり。又美深地方に於ては登熟の進捗不振に加へ、初霜意外に早かりし爲、晩熟種及山間部方面は成熟期に達せざるもの多かりき。之を總括するに本年度の稲作は作況不振に終始し、加ふるに各種障礙の爲、其の收量に於て甚しき減收を示せり。

〔大 麥〕 播種は檜山、瀬棚地方の稍遅れたる外各地共平年と大差なく行はれ、發芽も良整にして早來地方の五月九日、十勝地方の五月二十三日強風の被害ありし外は支障なく、生育順調に經過せるも六月以降の低冷陰濕の天候の爲生育は多少遅延を來し莖葉軟弱の感あり、又、十勝地方に於て萎縮病發生し被害稍多く、石狩地方にムギクロハモグリバへの加害認められ、其の生育は渡島、檜山、瀬棚、十勝、北見、根室、稚内の諸地方は稍劣り、其の他の地方は平年と大差なく、爾後は六月下旬に於て氣溫稍高く概して晴天多かりしも、七月に入り著しく低溫寡照陰濕となるに及び生育も抄々しからず、各地に大麥裸斑葉病の發生多く、十勝、美瑛地方に麥類赤黴病の發生あり、後者に於てその被害甚大なりき。又、一般に莖稈軟弱なる爲美深、根室地方に倒伏の甚しき所ありて其の收量は俱知安地方は増收、美深、根室の兩地方は稍増收、日高、北見地方は平年と大差なく、石狩(札幌)、早來地方は稍減收にして其の他の地方は減收を示せり。

〔裸 麥〕 播種は檜山、瀬棚地方の稍遅れたる外、各地方共平年と大差なく行はれ發芽も良整にして早來地方の五月九日、十勝地方の五月二十三日強風の被害ありし外は支障なく生育順調に進捗せるも、六月以降の低冷陰濕の天候の爲多少生育に遅延を來し莖葉軟弱の感あり。又、美瑛地方に針金蟲の加害ありしも被害大ならず、其の生育は十勝、北見、根室、稚内地方は稍劣り其の他の地方は平年と大差なく、爾後は六月下旬に於て氣溫稍高く概して晴天多かりしも七月に入り著しく低溫寡照陰濕となるに及び生育も抄々しからず、加ふるに美瑛地方にムギハモグリバへの加害あり、又、十勝地方及天鹽地方に麥類赤黴病發生認められ一般に莖稈軟弱なる爲、俱知安地方は七月十五日の暴風雨により倒伏あり、又、美瑛地方の

一部にも倒伏ありき。登熟は天鹽、稚内地方は開花中低溫多雨の天候に遭遇せしため受精作用阻碍せられ、其の收量に於ては俱知安、美瑛、根室地方は増收、美深地方は稍増收、瀬棚、日高、天鹽、北見地方は平年と大差なきも、早來地方は稍減收にして其の他の地方は減收を示せり。

〔小 麥〕 播種は檜山、瀬棚地方の稍遅れたる外各地共平年と大差なく行はれ、發芽も良整にして、早來地方の五月九日、十勝地方の五月二十三日強風の被害ありし外は特記すべき支障なく生育順調に經過せるも、六月以降低冷陰濕の天候に遭遇せし爲多少生育に遅延を來し、莖葉軟弱の感あり。其の生育は渡島、十勝、北見、稚内地方は稍劣り、其の他の地方は平年と大差なく、爾後は六月下旬に於て天候好轉せしも、七月に入り再び陰濕となるに及び生育も亦抄々しからず、加ふるに各地に小麥赤銹病發生し、渡島、十勝地方は被害多く、渡島、美瑛地方及天鹽地方の晩播のものに於て被害特に大なりき。又、一般に莖稈軟弱にして、俱知安地方は七月十五日の暴風の爲倒伏せる處あり。而して倒伏せし地方及十勝、天鹽地方に於ては開花中雨濕に遭遇せるを以て登熟は良好ならず、其の收量は早來、北見、稚内地方は平年と大差なきも、美瑛、美深地方は稍減收にして其の他の地方は孰れも減收を示せり。

〔燕 麥〕 播種は檜山、瀬棚地方の稍遅れたる外は各地共平年と大差なく行はれ、發芽も良整にして早來地方の五月九日、十勝地方の五月二十三日強風の被害ありし外特記すべき支障なく、生育順調に經過せるも六月以降低冷陰濕の天候に遭遇せし爲多少生育遅延の傾向を示し莖葉軟弱の感あり、其の生育は渡島、檜山、瀬棚、十勝、北見、根室、稚内地方は稍劣り、其の他の地方は平年と大差なく、爾後は六月下旬に於て氣溫稍高く晴天持續し生育好進の徴ありしも、七月に入り著しく低溫寡照陰濕となるに及び生育も亦不振となり、加ふるに各地に燕麥斑葉病發生し、瀬棚、早來、天鹽地方の被害稍多く、又渡島、檜山地方に赤黴病の發生あり、其の被害大なりき。尙、白穂の着生は全道的に稍多きを認められ、特に渡島、瀬棚、檜山の道南地方及早來、天鹽地方に於て多きを認めたり。倒伏は瀬棚地方に於て七月四日の豪雨、俱知安地方に於て同月十五日の暴風により倒伏せるものあり、其の他の地方に於ても局所的に多少倒伏せるものあり、又、石狩(札幌)、天鹽

地方に於て登熟中雨濕の害により倒伏せるもの少なからざりき。收量は俱知安、美瑛地方は增收、美深、天鹽地方は稍增收、石狩(札幌)、早來、北見、根室地方は平年と大差なきも其の他の地方は熟れも減收にして渡島地方は著しき減收を示せり。

玉蜀黍 播種は一般に平年と大差なく行はれしも、天鹽、釧路の兩地方に於て鳥害甚しく再播の止むなきに至れる所ありて其の發芽の状況は北見、美瑛地方を除き各地方共良整なりしも、六月に入り不良天候に遭遇せし爲生育遅々として進捗せず、草丈短少にして五日乃至十日内外の生育遅延を來し、渡島、瀬棚、美瑛、十勝、北見、釧路、根室地方は生育著しく不良なりき。尙この期間美瑛地方には一部に針金蟲の加害ありしも被害輕微に止まれり。爾後六月下旬氣溫稍高く晴天多く適順に經過せるも七月に入り天候低冷陰濕不順の爲生育又阻害せられ加ふるに渡島、俱知安地方に於て七月十五日に暴風の襲來の爲、倒伏折損せるものあり局部的には被害多きを認められ、又、渡島、瀬棚地方にアハヨタツの發生ありて各地を通じ生育の状況良好ならず、其の後は七月末より八月上旬の前半及同月中旬半より高温持續し、且、多照に經過せるを以て生育促進せられたるも平年に比すれば猶遅延せる地方多く、早來、十勝、北見、根室、稚内にありては生育依然不振の域を脱せざりき。爾後八月二十五、六日の強風は莖稈を折損せしめ、又檜山、美瑛兩地方のアハノメイガは其の加害大にして檜山地方は爲に作況著しく不良なりき。爾後九月上旬末より同月中旬始めに互り一時高温を示せるも、後再び曇天連日に互り中旬末より氣溫の降下甚しく、生育の更に遅延せし地方多く、美瑛地方、空知中央部及俱知安、札幌地方の局所はアハノメイガの加害甚しく、又、渡島、檜山、美瑛地方は玉蜀黍斑葉病の被害甚大なりき。而して十月に入り氣溫の較差は大なるも、各地を通じ晴燥の日多く寡雨多照なりし爲、登熟は渡島、瀬棚、俱知安、石狩、美瑛の諸地方に於て概して順調に行はれしも成熟期は孰れも稍遅く其の他の地方に於ては生育の遅延及病害蟲の被害等の影響によりて登熟順調ならず、稚内、釧路地方及石狩(札幌)、天鹽地方の一部に於ては更に結霜の害を被り、稚内、釧路地方は完熟するに至らず、又、根室地方の飼料用玉蜀黍は雌穗の抽出を見ずして收穫を了するの已むなきに至りたる等、本年度玉蜀黍栽培は、早來地方の子實用玉蜀黍のみ平年と大差なき以外は各地共減收にして、檜山、石狩(札幌)、日高、釧路、稚内の諸地方は特に著しき減收を示せり。

菽豆類 [大豆]

各地共平年と大差なく播種を了せるも早來、瀬棚、天鹽及俱知安地方の一部以外は發芽遅延し、其の後低温寡照の天候に遭遇せし爲發芽の良整なる地方に於ても生育遅々しからず、加ふるに局所的なるも日高地方にフタスジヒメハムシの發生ありて輕微なる加害等を見たり。草丈の伸長は十勝、北見地方は著しく劣り、其の他の地方は稍劣る状態にして、六月下旬に至り氣溫稍高く各地共晴天多く適順に經過せるも、七月に入りて概して低温陰濕不順に經過せるを以て生育益々緩慢となり、瀬棚、日高地方の平年と大差なき以外は五日乃至一週間内外の遅延を示し、加ふるに開花時雨濕に遭遇せし爲着莢不良の感あり、又渡島、瀬棚地方にダイツクキタマバへの被害多く、其の生育は俱知安、石狩(札幌)、日高、美瑛、天鹽地方の平年と大差なきを除きては孰れも良好ならず。又十勝及日高地方に於ては九月上旬末以降局所にダイツクキタマバへの加害稍多く、石狩地方に於ては局所に大豆莢蠹蟲の被害稍大なる所あり、夫々天候不良による生育遅延と相俟つて成熟も稍遅れ、美瑛、十勝、天鹽、稚内地方に於ては霜害を被り、根室地方は生育甚しく遅延して成熟を見るに至らず、作況概ね不振なりき。而して收量は俱知安、北見、石狩の一部地方に於ては平年と大差なきも檜山、早來、日高、根室地方は稍減收、其の他の地方は孰れも減收にして釧路、稚内の兩地方は甚しき減收を示し、尙、霜害を被りたる地方は品質の低下著しかりき。

[小豆] 各地共播種は平年と大差なく行はれしも瀬棚、早來、天鹽及俱知安地方の一部を除き發芽遅延し、且、整一を缺けり。爾後の生育は發芽良整なる地方に於ても低温寡照の天候に遭遇せし爲、生育は十勝、北見地方は不良にして、其の他の地方に於ても遅々しからず、六月下旬に於て一時氣溫稍高く各地共晴天多く順調に經過せるも、七月に入り概して低温、陰濕不順に經過せるを以て生育緩慢となり瀬棚、俱知安地方の平年と大差なき以外は各地共五日乃至一週間内外の遅延を示し、渡島地方の一部に於ては七月中旬の暴風の被害あり、又、天鹽地方の如く雑草の爲生育の甚だしく阻害せられたる所あり、斯る地方に於ては八月に入るも天候不順の爲生育恢復せず、且又、開花時雨濕に遭遇して、開花着莢に支障を來せるものありしを以て、八月中旬天候恢復後地方的に生育の促進せられたる處の外は美瑛、天鹽地方に於て挽回の域に達せし

のみにて、不振に經過し、一般に着莢不良の嫌あり、又、局所的なるも岩見澤、北村地方にヒメコガネの加害稍多きを認められ、成熟中天鹽、稚内の兩地方に於て結霜の害を被りし他特記すべき支障を見られざりしも發芽以降生育不振緩慢に終始せるを以て其の收量は天鹽地方の霜害を被らざりし地帯は稍増收を示し、俱知安地方は平年作なるも檜山、早來地方は稍減收、其の他の地方は孰れも減收にして石狩(札幌)、日高、稚内、釧路地方は著しき減收を示せり。

〔茶豆〕 大小豆と同様播種は各地共平年と大差なく行はれしも瀬棚、早來、天鹽及俱知安地方の一部を除いては一舉に發芽遅延し、北見地方の一部に於て再播の止むなき所あり、爾後の生育は發芽良整なる地方に於ても低温寡照の天候に遭遇せしため生育抄々しからず、加ふるに局所的なるも、美瑛地方に於てタネバへの發生あり被害甚だしく、生育の狀況は全道的に不良にして七月に入るも不振に經過し草丈短かく、一週間内外の遅延を示し、俱知安、北見、天鹽地方の草丈の平年と大差なき外は各地を通じ孰れも劣り、加ふるに稚内地方に菜豆炭疽病の發生あり被害概して輕微に止りしも、七月十五日の暴風の爲俱知安地方の蔓性菜豆の倒伏及上磯郡軍川地方に葉先損傷稍多きを認められ、又、八月に入り石狩(札幌)、十勝、早來地方に菜豆炭疽病十勝地方に菜豆角斑病等の輕微なる發生を見、九月初期に於ける作況は俱知安、美瑛、天鹽地方の普通、檜山、石狩(札幌)、美瑛地方は稍不良、其の他の地方は不良を示せり。爾後は石狩(札幌)、美瑛、稚内地方に菜豆炭疽病の被害認められ、美瑛地方の微害なるを除き局所的に稍多く、札幌地方に菜豆細菌病の發生ありしも微害に留まれり、而して生育は挽回の域に達せざりしも成熟は俱知安、早來、札幌、北見、根室地方に於て順調に進行し、其の收量は北見地方の稍増收、釧路地方及長沼村地方は平年と大差なく早來、根室の兩地方の稍減收にして其の他の地方は減收を示せり。

〔豌豆〕 播種は平年と大差なく行はれ發芽亦良整にして爾後の生育順調なりしも六月に入り低温多雨寡照なる天候に遭遇せし爲、其の生育は早來、天鹽地方の稍良好、空知、石狩地方の平年と大差なき以外は各地共遅延を來し、六月下旬及七月中旬前半天候恢復の徴を示せるも、七月上旬竝に同月中旬後半以降冷温不順に經過せるを以て生育抄々しからず加ふるに稚内地方に豌豆炭疽病の發生あり、又、俱知安、早來、美瑛、美瑛、十勝、北見、石狩(札幌)地方に夜盜蟲の加害あり、

俱知安、早來、美瑛地方及石狩(札幌)地方の局部に於て加害甚だしく石狩(札幌)、美瑛地方の平年と大差なき以外は各地共生育劣れり。而して爾後は早來、美瑛地方に於て豌豆炭疽病の被害甚だしく尙、美瑛地方は豌豆莢蠹蟲の加害大にして、七月下旬より八月上旬前半に亙り天候順調なりしも、成熟は美瑛地方以外は順調を缺き、其の收量に於ては北見地方及石狩(札幌)地方の夜盜蟲の加害なき所は平年と大差なかりしも、美瑛地方は稍減收、其の他の地方は減收を示し、品質は稍不良なりき。又天鹽地方は六月以降の天候低冷濕潤の影響を被り生育不振、且、開花中雨濕に遭遇せし爲着莢竝に結實不良にして著しき減收を示せり。

馬鈴薯 播種は早來地方の稍早く瀬棚地方の一週間内外遅延せし以外は各地共概して平年と大差なく行はれしも、一般に不整の嫌あり、俱知安、美瑛、天鹽、北見地方は遅延或は不整のもの稍多く、加ふるに天候低温不順に經過せるを以て生育も亦稍遅れ、瀬棚、美瑛、北見、根室、稚内地方はこの傾向特に著しかりき。又渡島、檜山地方に於ては七月に入り連日の降雨に加へ比較的高温なりし爲馬鈴薯疫病の發生多く、七月末より八月上旬前半迄及同月中旬半より高温持續し生育好進の徴ありしも、同時に全般的に馬鈴薯疫病の發生多く枯凋期例年に比し早く、更に渡島、美瑛、美瑛地方に於ては降雨の爲薯塊の腐敗を來し、早來地方の局部には二次生育をなせる箇所も生じたり。又、札幌地方の局部及天鹽地方には大二十八星瓢蟲の加害大にして、瀬棚、早來、美瑛、北見地方には馬鈴薯疫病稍發生したるを以て、全道の生育狀況は渡島、檜山、俱知安、根室地方は劣り、其の他の地方は稍劣れり。爾後九月に入り馬鈴薯疫病の發生各地共甚だしく、稚内地方及其の他局部的に降雨の爲馬鈴薯濕腐病の併發を見、薯塊の着生竝に發育不振にして、其の收量は氣象的不良條件竝に諸種の病害蟲の發生、就中馬鈴薯疫病の被害により枯凋期早かりし爲薯塊の着生不良にして、且、肥大粒少なく各地共減收にして瀬棚、根室地方は稍減收の程度に留まりたるも渡島、檜山、石狩(札幌)地方は著しき減收を示せり。

亞麻 播種は概して適期に行はれ爾後の天候適順なりし爲發芽も亦一般に良整にして、十勝、早來の兩地方に於て風害を被り再播の止むなきに至れる所ありしも、其の他の地方は發芽後の生育概して順調に經過せり。然るに六月以降低温寡照の天候に遭遇せし爲生育遅延し、草丈一般に短かく莖葉稍軟弱の嫌ありしも、其の狀況は瀬棚、十勝、北見、根室地方は

稍劣り、其の他の地方は平年と大差なく、六月下旬に於て天候好轉するに及び生育も順調なりき。爾後七月に入り天候陰濕に経過せるを以て莖葉軟弱に生長し、七月中旬に入り降雨の爲倒伏せるもの多く、局所的に腐敗せるものありしも、倒伏の少ない地方は順調なる成熟を了し、品質は倒伏多き俱知安、石狩(札幌)、十勝、稚内地方及收穫後の天候不良なりし早來地方は不良にして、收量は美瑛、北見地方は増収、天鹽、根室地方は稍増収、瀬棚、俱知安、早來、美唄の諸地方は平年と大差なく石狩(札幌)地方は稍減収にして其の他は減収を示せり。

薄荷 各地共冬損甚だしく萌芽期は平年に比し七日乃至十日の遅延し、殘存せるものも、萌芽當時ピロウドコガネの被害を見、加ふるに低温持續せる爲、生育甚だしく不良にして六月下旬一時天候好轉せるも、七月に入り再び低温陰濕に経過せるを以て生育進捗せず、爾後七月下旬並に八月中旬後半以降概して高温多照なりし爲生育亦順調なりしも、草丈は平年に比し劣れり。爾後薄荷銹病の發生認められたる外特記すべき故障なく九月上、中旬收穫を了せり。而して其の收量は冬損少ない地方は平年と大差なかりしも、全般に冬損甚大なりしを以て平年に比し著しき減収を示せり。

甜菜 播種は概して適期に行はれ早來地方に於て播種當時強風の被害あり、又、十勝地方は五月二十三日の強風の爲再播の止むなきに至り、發芽は局所的に稍良整を缺けるも、一般に概して良好なりき。爾後の生育は釧路地方に微害なるもキスジノミハムシの加害あり、又低温不順陰濕の天候の爲生育緩慢となり、瀬棚、根室の兩地方は不良、其の他の地方に於ても平年に比し良好なる地方は無かりき。而して六月下旬、七月中旬前半の高温多照の天候により各地共生育概して順調にして、局所的に甜菜褐斑病、甜菜蛇眼病、夜盜蟲の發生ありしも被害大ならずして推移せるに、七月末より八月に亘り全道的に甜菜褐斑病蔓延し、渡島、瀬棚、日高地方の被害著しく生育甚しく劣れり。又、稚内地方に於ては根部の發育比較的劣るも、其の他の地方に於ては生育平年と大差なき状態なりき。爾後は九月以降に於て甜菜褐斑病の蔓延甚だしく瀬棚、日高、美瑛地方は被害甚大、其の他の地方にも局所的に甚だしき所あり、又、蟲害としては瀬棚、早來、石狩(札幌)及美瑛地方に夜盜蟲の加害稍多く、根室地方に於てコガネムシの加害甚だしく瘠耕せし處等ありて、生育は俱知安、石狩(札幌)

早來、美唄、北見、釧路、天鹽の諸地方は平年と大差なきも、其の他の地方は孰れも劣り、又、瀬棚地方にありてはシロオキノメイガの加害大なるも概して順調に收穫を了せり。而して其の收量は前記病害蟲の加害多く之に加ふるに不良なる氣候的條件により根部の發育不良にして、全般的に減収なりしも、之等の支障少ない北見地方は平年と大差なく、十勝、早來、美瑛、天鹽地方は稍減収、其の他の地方も減収にして渡島地方は著しき減収を示せり。

第二 試驗及調査

一、種藝及園藝に関する試験及調査

甲、種藝に関する試験及調査

本年度各場に於て施行せる試験及調査の概要左の如し

試驗地名	豐凶考照試験		品種改良に関する試験及調査		耕種に関する試験及調査		其他の試験及調査		委託試験		計	
	種類	面積	種類	面積	種類	面積	種類	面積	種類	面積	種類	面積
北海道農事試験場(本場)	一五	二、二〇二	四五	四、三六〇	一四	八、四三三	一〇	二、五三三	三	一、四三〇	八七	四、九六三
美唄泥炭地試験地	一〇	一、〇〇〇	五	一、二七五	七	五〇〇	一	一一	一	二五〇	三九	三、三三六
早來火山地	一八	一、三三三	四	二、〇八四	一	一一〇	一	一一	一	一三〇	三三	四、五九七
上川支場	一	五、九四	一三	七、六七三	三	一、二五四	一	一一	一	一三〇	一八	一、〇八九
十勝支場	一五	一、一五〇	一三	二、二九	四	一〇、〇一七	一〇	五、〇五五	一	一三〇	四三	二、九三二

幸震高丘地試驗地	北見支場	渡島支場	根室支場	檜山支場	俱知安支場	劍路支場	美深支場	天鹽支場	瀬棚支場	日高支場	稚内支場	美瑛支場	和寒除蟲菊試驗地	島松馬鈴薯	玉蜀黍試驗地
一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二
三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三
四	四	四	四	四	四	四	四	四	四	四	四	四	四	四	四
五	五	五	五	五	五	五	五	五	五	五	五	五	五	五	五
六	六	六	六	六	六	六	六	六	六	六	六	六	六	六	六
七	七	七	七	七	七	七	七	七	七	七	七	七	七	七	七
八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八
九	九	九	九	九	九	九	九	九	九	九	九	九	九	九	九
十	十	十	十	十	十	十	十	十	十	十	十	十	十	十	十
十一	十一	十一	十一	十一	十一	十一	十一	十一	十一	十一	十一	十一	十一	十一	十一
十二	十二	十二	十二	十二	十二	十二	十二	十二	十二	十二	十二	十二	十二	十二	十二
十三	十三	十三	十三	十三	十三	十三	十三	十三	十三	十三	十三	十三	十三	十三	十三
十四	十四	十四	十四	十四	十四	十四	十四	十四	十四	十四	十四	十四	十四	十四	十四
十五	十五	十五	十五	十五	十五	十五	十五	十五	十五	十五	十五	十五	十五	十五	十五

本年度施行せる種類左の如し

一、豊凶考照試験

水稲、大麥、裸麥、秋播小麥、春播小麥、燕麥、玉蜀黍、大豆、小豆、菜豆、豌豆、馬鈴薯、甜菜、亞麻、秋播菜種
 秋播小麥、秋播ライ麥、燕麥、玉蜀黍、大豆、小豆、菜豆、豌豆、馬鈴薯、秋播菜種
 水稲、大麥、裸麥、秋播小麥、春播小麥、燕麥、玉蜀黍、飼料用玉蜀黍、大豆、小豆、菜豆、豌豆、馬鈴薯、甜菜、亞麻、秋播菜種
 種、春播菜種、飼料用ビート

水稲、大麥、裸麥、秋播小麥、春播小麥、燕麥、玉蜀黍、大豆、小豆、菜豆、豌豆、馬鈴薯、甜菜、亞麻、秋播菜種
 秋播大麥、春播大麥、裸麥、秋播小麥、春播小麥、燕麥、玉蜀黍、飼料用玉蜀黍、大豆、小豆、菜豆、豌豆、馬鈴薯、甜菜、亞麻、秋播菜種
 菜豆、豌豆、馬鈴薯、甜菜、亞麻、飼料用ビート、飼料用胡蘿蔔、瑞典蕪菁
 水稲、大麥、裸麥、秋播小麥、春播小麥、燕麥、玉蜀黍、大豆、小豆、菜豆、豌豆、馬鈴薯、甜菜、亞麻、秋播菜種、薄荷
 水稲、秋播小麥、春播小麥、燕麥、玉蜀黍、大豆、小豆、馬鈴薯、甜菜、亞麻、瑞典蕪菁
 大麥、裸麥、春播小麥、燕麥、玉蜀黍、飼料用玉蜀黍、蕎麥、大豆、菜豆、馬鈴薯、甜菜、亞麻、瑞典蕪菁
 水稲、裸麥、秋播小麥、燕麥、玉蜀黍、大豆、小豆、馬鈴薯
 水稲、春播大麥、裸麥、春播小麥、燕麥、玉蜀黍、大豆、小豆、菜豆、豌豆、馬鈴薯、甜菜、亞麻、秋播菜種
 春播大麥、裸麥、春播小麥、燕麥、玉蜀黍、蕎麥、大豆、小豆、菜豆、豌豆、馬鈴薯、甜菜、亞麻、秋播菜種
 水稲、大麥、裸麥、秋播小麥、春播小麥、燕麥、玉蜀黍、大豆、小豆、菜豆、豌豆、馬鈴薯、甜菜、亞麻、秋播菜種
 裸麥、秋播小麥、春播小麥、燕麥、玉蜀黍、蕎麥、大豆、小豆、菜豆、豌豆、馬鈴薯、甜菜、亞麻、秋播菜種、飼料用ビート
 飼料用玉蜀黍
 水稲、裸麥、秋播小麥、燕麥、玉蜀黍、大豆、小豆、馬鈴薯、甜菜、亞麻、秋播菜種
 水稲、大麥、裸麥、春播小麥、燕麥、玉蜀黍、大豆、小豆、菜豆、馬鈴薯、甜菜
 春播大麥、裸麥、秋播小麥、春播小麥、燕麥、玉蜀黍、大豆、小豆、菜豆、豌豆、馬鈴薯、甜菜、亞麻
 大麥、裸麥、秋播小麥、春播小麥、燕麥、玉蜀黍、大豆、小豆、菜豆、豌豆、馬鈴薯、甜菜、亞麻

二、品種改良に関する試験及調査

一、品種試験
 水稲、陸稻、春播大麥、裸麥、燕麥、花豆、甜菜、亞麻、大麻、苜蓿、菜種、菊芋
 春播小麥、小豆、馬鈴薯、秋播菜種
 水稲、玉蜀黍、馬鈴薯、甜菜
 水稲、秋播大麥、秋播裸麥、秋播小麥、燕麥、玉蜀黍、大豆、小豆、菜豆、豌豆、馬鈴薯、甜菜、亞麻

甜菜、綠肥作物、クローバー	陸稻、秋播大麥、玉蜀黍、馬鈴薯、甜菜、亞麻、薄荷	水	陸稻、秋播大麥、秋播裸麥、大豆、菜豆、甜菜、亞麻、菜種、みぶよもぎ	上川、渡島、美深、瀬棚
水稲、水稲温床栽培用品種、陸稻、大豆、甜菜	水稲、水稲温床栽培用品種、陸稻、大豆、甜菜	水	陸稻、秋播大麥、秋播裸麥、大豆、菜豆、甜菜、亞麻、菜種、みぶよもぎ	本場
馬鈴薯、甜菜、亞麻	水稲、陸稻、秋播大麥、秋播小麥、大豆	水	陸稻、秋播大麥、秋播裸麥、大豆、菜豆、甜菜、亞麻、菜種、みぶよもぎ	上川、渡島、美深、瀬棚
水稲、陸稻、秋播大麥、秋播小麥、春播小麥、大豆、花豆、玉蜀黍、馬鈴薯、甜菜、亞麻、秋播菜種	水稲、陸稻、秋播大麥、秋播小麥、春播小麥、大豆、花豆、玉蜀黍、馬鈴薯、甜菜、亞麻、秋播菜種	水	陸稻、秋播大麥、秋播裸麥、大豆、菜豆、甜菜、亞麻、菜種、みぶよもぎ	本場
燕麥	水稲、陸稻、秋播大麥、秋播小麥、春播小麥、大豆、花豆、玉蜀黍、馬鈴薯、甜菜、亞麻、秋播菜種	水	陸稻、秋播大麥、秋播裸麥、大豆、菜豆、甜菜、亞麻、菜種、みぶよもぎ	上川、渡島、美深、瀬棚
水稲、水稲耐冷性品種、水稲温床栽培用品種、馬鈴薯、甜菜	水稲、水稲耐冷性品種、水稲温床栽培用品種、馬鈴薯、甜菜	水	陸稻、秋播大麥、秋播裸麥、大豆、菜豆、甜菜、亞麻、菜種、みぶよもぎ	本場
大豆、菜豆、馬鈴薯、甜菜	水稲、陸稻、秋播大麥、大豆、玉蜀黍、馬鈴薯、甜菜	水	陸稻、秋播大麥、秋播裸麥、大豆、菜豆、甜菜、亞麻、菜種、みぶよもぎ	上川、渡島、美深、瀬棚
水稲、陸稻、秋播大麥、大豆、玉蜀黍、馬鈴薯、甜菜	水稲、水稲温床栽培用品種、陸稻、秋播大麥、燕麥、玉蜀黍、甜菜	水	陸稻、秋播大麥、秋播裸麥、大豆、菜豆、甜菜、亞麻、菜種、みぶよもぎ	本場
秋播大麥、秋播小麥、馬鈴薯、甜菜	陸稻、秋播大麥、秋播裸麥、玉蜀黍、菜豆、馬鈴薯、甜菜、亞麻、除蟲菊	水	陸稻、秋播大麥、秋播裸麥、大豆、菜豆、甜菜、亞麻、菜種、みぶよもぎ	上川、渡島、美深、瀬棚
陸稻、秋播大麥、秋播裸麥、玉蜀黍、菜豆、馬鈴薯、甜菜、亞麻、除蟲菊		水	陸稻、秋播大麥、秋播裸麥、大豆、菜豆、甜菜、亞麻、菜種、みぶよもぎ	本場

二、新品種育成試験

陸稻、秋播大麥、秋播裸麥、大豆、菜豆、甜菜、亞麻、菜種、みぶよもぎ

水稲、陸稻、秋播大麥、大豆、玉蜀黍、馬鈴薯、甜菜

水稲、水稲温床栽培用品種、陸稻、秋播大麥、燕麥、玉蜀黍、甜菜

秋播大麥、秋播小麥、馬鈴薯、甜菜

陸稻、秋播大麥、秋播裸麥、玉蜀黍、菜豆、馬鈴薯、甜菜、亞麻、除蟲菊

水稲、陸稻、秋播大麥、大豆、玉蜀黍、馬鈴薯、甜菜

水稲、水稲耐冷性品種、水稲温床栽培用品種、馬鈴薯、甜菜

大豆、菜豆、馬鈴薯、甜菜

水稲、陸稻、秋播大麥、秋播小麥、春播小麥、大豆、花豆、玉蜀黍、馬鈴薯、甜菜、亞麻、秋播菜種

燕麥

水稲、水稲耐冷性品種、水稲温床栽培用品種、馬鈴薯、甜菜

陸稻、秋播大麥、秋播裸麥、大豆、菜豆、甜菜、亞麻、菜種、みぶよもぎ

水稲、陸稻、秋播大麥、大豆、玉蜀黍、馬鈴薯、甜菜

水稲、水稲温床栽培用品種、陸稻、秋播大麥、燕麥、玉蜀黍、甜菜

秋播大麥、秋播小麥、馬鈴薯、甜菜

陸稻、秋播大麥、秋播裸麥、玉蜀黍、菜豆、馬鈴薯、甜菜、亞麻、除蟲菊

水稲、陸稻、秋播大麥、大豆、玉蜀黍、馬鈴薯、甜菜

水稲、水稲耐冷性品種、水稲温床栽培用品種、馬鈴薯、甜菜

大豆、菜豆、馬鈴薯、甜菜

水稲、陸稻、秋播大麥、秋播小麥、春播小麥、大豆、花豆、玉蜀黍、馬鈴薯、甜菜、亞麻、秋播菜種

燕麥

水稲、水稲耐冷性品種、水稲温床栽培用品種、馬鈴薯、甜菜

陸稻、秋播大麥、秋播裸麥、大豆、菜豆、甜菜、亞麻、菜種、みぶよもぎ

水稲、陸稻、秋播大麥、大豆、玉蜀黍、馬鈴薯、甜菜

水稲、水稲温床栽培用品種、陸稻、秋播大麥、燕麥、玉蜀黍、甜菜

秋播大麥、秋播小麥、馬鈴薯、甜菜

陸稻、秋播大麥、秋播裸麥、玉蜀黍、菜豆、馬鈴薯、甜菜、亞麻、除蟲菊

三、耕種法に関する試験及調査

美唄、根室、樺山、美深、天鹽、美瑛

上川、渡島

本場

北見

本場

本場

本場

本場

本場

本場

本場

本場

本場

本場

本場

本場

除 蟲 菊	和 寒
三、栽植密度試験	
陸稻、菊芋、みぶよもぎ、ラベンダー	本 場
水稲 (簡易温床苗)	渡 島
水稲 (直播)	美 深
四、培 土 試 験	
陸 稻、菊 芋	本 場
馬 鈴 薯	美 深
五、秋播菜種立毛密度對施肥用量試験	本 場
六、收穫期試験及調査	本 場
みぶよもぎ、ラベンダー	本 場
七、畦幅對播種量試験	美 深
春 播 小 麥	美 深
八、假 植 試 験	
除 蟲 菊	和 寒
九、栽植密度對施肥用量試験	和 寒
除 蟲 菊	和 寒
一〇、播種密度に關する試験	和 寒
玉 蜀 黍	島 松
一一、簡耕栽培に關する調査	美 明
春播小麥、燕麥、玉蜀黍、大豆、小豆、豌豆、馬鈴薯	

燕麥、小豆、馬鈴薯	早 來
大麥、裸麥、小麥、燕麥、亞麻	十 勝
燕麥、菜 豆	幸 農
燕麥、豌豆	稚 内
一二、苗仕立法に關する試験	
水 稻	本 場、渡 島、美 深
一三、温床苗栽培に於ける本田施肥量に關する調査	本 場
一四、温床栽培に於ける品種對栽植密度試験	本 場
一五、水田除草精粗に關する調査	本 場
一六、水田耕鋤深淺試験	本 場
一七、生 育 調 査	
甜 菜	本 場
水 稻	上 川

一八、藥劑による雜草驅除に關する調査	本 場
一九、菊芋、馬鈴薯比較調査	十 勝
二〇、黄花ルーピン間作時期試験	幸 農、北見、檜 山
二一、綠肥大豆間作收量比較試験	本 場、美 明、早 來、北 見、渡 島、俱 知 安、天 鹽
二二、綠肥大豆單作收量比較試験	本 場、俱 知 安、美 明、北 見、渡 島、天 鹽
二三、多肥栽培による倒伏性檢定試験	
水 稻	渡 島
二四、冷水抵抗性檢査試験	

水 稻 渡 島

二五、採種に關する試験

綠肥作物 十 勝

綠肥大豆 本場、美唄、早來、北見、渡島、俱知安、天鹽、稚内

黄花ルービン 美 瑛

玉 蜀 黍 島 松

二六、輪作法に關する試験

燕麥、菜豆、馬鈴薯、赤クローバー 美 深

二七、水稻假植健苗の疎移植法に關する調査

二八、水稻直播の疎株廣播に關する調査

二九、水稻乾田移植法調査

三〇、陸稻苗移植法に關する試験

三一、苗代肥料用量試験

三二、水稻灌溉法に關する試験

三三、薄荷對施肥量並に生育領域關係試験

三四、品種對栽植密度の適應性に關する調査

水 稻 渡 島

三五、防霧の作物生育に及ぼす影響調査

三六、除蟲菊栽培年次の收量及有效成分に及ぼす影響に關する試験

三七、ルービン採種時期試験

渡島、釧路、天鹽

三八、ルービン間作時期試験

燕 麥 渡島、釧路、天鹽、瀬棚、日高

三九、ルービン採種時期調査

四〇、ルービン間作時期調査

燕 麥 美 唄

四一、高畦栽培に關する調査

甜 菜 俱知安

四二、高畦栽培に關する試験

春播大麥、燕麥、玉蜀黍、大豆、小豆、菜豆、豌豆、亞麻 俱知安

四三、灌溉水の深淺に關する調査

四四、氣候と稻作との關係調査

四五、水稻掛流し栽培に關する調査

美 深

美 深

美 深

俱知安

一、適否試験

ケナフ、ラベンダー、玫瑰 本 場

大麻、苧麻、苘麻、みぶよもぎ、ラベンダー、玫瑰 美 唄

大麻、苘麻、荏、みぶよもぎ、ケナフ、ラベンダー、高粱、菊芋 十 勝

大麻、苘麻、ケナフ、ラベンダー 幸 震

青麻、みぶよもぎ、ラベンダー 北 見

ケナフ、ラベンダー 渡 島

苧麻、青麻、ラベンダー 根 室

一、新品種育成試験

梅、梨、葡萄 本島場

二、品種選抜試験

甘藷 早島

三、品種特性調査

櫻桃 渡島

二、耕種法に関する試験及調査

一、セルリー栽培法に関する試験 本島場

二、アスパラガス收穫期試験

三、蔬菜施肥法試験 本島場

四、種百合取扱法試験

五、果樹園土壤管理法試験 本島場

六、梨剪定法試験

三、その他の試験及調査 根室、美瑛

一、適否試験

果樹 渡島

二、貯藏試験

種子 早島

甘藷

蔬菜 本島場

三、アスパラガス性對生産力試験

四、蔬菜採種法に関する調査 本島場

四、蔬菜採種法に関する調査

五、花卉採種法に関する調査 本島場

六、砧木に関する試験

七、藥劑に関する試験 本島場

七、藥劑に関する試験

八、梨交配試験 本島場

八、梨交配試験

九、果樹園綠肥作物に関する試験 本島場

九、果樹園綠肥作物に関する試験

一〇、苗木定植に関する調査 本島場

一〇、苗木定植に関する調査

一一、超短電波利用試験 本島場

一一、超短電波利用試験

イ、葱頭の休眠に関する試験 本島場

イ、葱頭の休眠に関する試験

ロ、果實貯藏に関する試験

二三、果樹作況調査 渡島

二三、果樹作況調査

四、委託試験 本島場

四、委託試験

一、果樹園綠肥作物に関する試験 本島場

一、果樹園綠肥作物に関する試験

二、土壤及肥料に関する試験及調査

甲、土性及土地改良に関する試験及調査

本年度各場に於て施行せる試験及調査左の如し

試験項目	土壤調査		土壤特性		基礎試験		特殊開闢及調査		土地改良に関する		委託試験		計	
	種類	面積	種類	面積	種類	面積	種類	面積	種類	面積	種類	面積	種類	面積
北海道農事試験場	三		一	五八	二	七	三		一	三	一	一	九	五九〇
早火山灰地試験地									六	八	四	三	一	一
幸震高丘地試験地									六	八	四	三	一	一
根室支場									六	八	四	三	一	一
釧路支場									六	八	四	三	一	一
稚内試作場									六	八	四	三	一	一
計									六	八	四	三	一	一

イ、外

業

本場

本年度に於ては三調査員を網走、上川、宗谷の三支廳管内に派し、土壤區設定調査に従事せしめたり。其の調査面積は網走支廳管内約三萬町歩にして、土壤一八統を、上川支廳管内に於ては調査面積約五十町歩土壤五統を、宗谷支廳管内に於ては調査面積約二萬町歩土壤一二統を設定せり。

ロ、土壤統特性試験

本試験は前年度土壤統設定を行へる網走支廳管内に於ける代表土壤統一三箇所、留萌支廳管内一箇所に於て本地帯の特性

を探究し以て農作物増産の基礎資料を得んとして施行せり。本試験は本年度を以て完了し目下之が試料の分析中なり。

ハ、基礎試験及調査

本年度に於て施行せる種類左の如し

- 雨龍郡沼田村土地改良試験
- 山越郡八雲町土地改良試験

一、土地改良に関する試験

- 一、水田客入土としての樽前土適否調査
- 二、土地改良試験
- 三、米糠施用法試験
- 四、焼土調査
- 五、緑作休閑が地力に及ぼす影響に関する調査
- 六、客入土壌の土性別用量試験
- 七、心土改良に関する試験

二、委託試験

- 一、土地改良試験
(標津村、濱中村)

早來 根室 根室 幸震 根室 根室 釧路 稚内 根室

乙、施肥標準に関する試験及調査

本年度本場に於て施行せる試験及調査の大要左の如し

試験地名 北海道農事試験場 (本場)	試験項目		
	種類	施肥標準に関する試験及調査	面積
	七		

本年度施行せる種類左の如し

一、植木鉢試験

イ、三要素試験(水稻、燕麥)

土壤採集箇所

本場、南尻別村(九箇所)、磯谷村、本古内村、大野村、小澤村、大江村、喜茂別村、俱知安町、妹春牛村(三箇所)、秩父別村、雨龍村(二箇所)、角田村(三箇所)、浦臼村(二箇所)、岩見澤町、永山村、美瑛町、多寄村、池田町(二箇所)、音更村、留邊蘆町(二箇所)、美幌町(二箇所)、紋別町(二箇所)

口、窒素質肥料肥効試験(水稻、燕麥)

土壤採集箇所

本場、美瑛町、芦別町

二、現地試験

イ、堆肥對三要素用量試験(水稻)

試験施行箇所

南尻別村

ロ、土壤統竝に主作物別對三要素用量に関する試験(春播小麦、燕麥、豌豆、馬鈴薯、甜菜)

試験施行箇所

苦前村、稚内町

ハ、磷酸施用量に関する試験(水稻、春播小麦、燕麥)

試験施行箇所

龜田村、利別村、岩見澤町、天鹽町、小清水村、網走町、鶴居村

ニ、肥料配合試験(水稻)

試験施行箇所

東瀬棚村(二箇所)、太樽村、南尻別村(二箇所)、美瑛町、瀧川町、江部乙村

丙、一般土壤肥料に関する試験及調査

本年度各場に於て施行せる試験及調査の概要左の如し

試験地名	土壤に関する試験及調査		肥料に関する試験及調査		三要素に関する試験及調査		綠肥に関する試験及調査		委託試験		其の他に調査		計	
	種類	面積	種類	面積	種類	面積	種類	面積	種類	面積	種類	面積	種類	面積
北海道農事試験場(本場)	九	二〇〇〇	一	一〇〇	一	一〇〇	一	一〇〇	一	一〇〇	一	一〇〇	九	二〇〇〇
美瑛泥炭地試験地	一	一〇〇	一	一〇〇	一	一〇〇	一	一〇〇	一	一〇〇	一	一〇〇	一	一〇〇
早火山灰地試験地	一	一〇〇	一	一〇〇	一	一〇〇	一	一〇〇	一	一〇〇	一	一〇〇	一	一〇〇
上川支場	一	一〇〇	一	一〇〇	一	一〇〇	一	一〇〇	一	一〇〇	一	一〇〇	一	一〇〇
十勝支場	一	一〇〇	一	一〇〇	一	一〇〇	一	一〇〇	一	一〇〇	一	一〇〇	一	一〇〇
幸震高丘地試験地	一	一〇〇	一	一〇〇	一	一〇〇	一	一〇〇	一	一〇〇	一	一〇〇	一	一〇〇
北見支場	一	一〇〇	一	一〇〇	一	一〇〇	一	一〇〇	一	一〇〇	一	一〇〇	一	一〇〇
根室支場	一	一〇〇	一	一〇〇	一	一〇〇	一	一〇〇	一	一〇〇	一	一〇〇	一	一〇〇
檜山支場	一	一〇〇	一	一〇〇	一	一〇〇	一	一〇〇	一	一〇〇	一	一〇〇	一	一〇〇
俱知安支場	一	一〇〇	一	一〇〇	一	一〇〇	一	一〇〇	一	一〇〇	一	一〇〇	一	一〇〇
計	九	二〇〇〇	一	一〇〇	一	一〇〇	一	一〇〇	一	一〇〇	一	一〇〇	九	二〇〇〇

三、肥效に関する試験及調査

一、堆肥、綠肥所含三要素の肥效に関する試験	本場
二、堆肥種類試験	幸震
三、トーマス燐肥、過燐酸石灰肥效比較試験	幸震
秋播小麥、春播小麥、燕麥、玉蜀黍、大豆、小豆、菜豆、豌豆、馬鈴薯、秋播菜種	美唄
飼料用玉蜀黍、小豆、菜豆、豌豆、馬鈴薯	早來
四、過燐酸石灰追肥に関する試験	早來
秋播小麥、燕麥、小豆、馬鈴薯	美唄、早來
菜豆	幸震
五、泥炭堆肥に関する調査	幸震
燕麥、馬鈴薯	幸震
六、薄荷對トーマス燐肥肥效比較試験	美唄
七、石炭灰肥效調査	北見
八、肥料の分解促進方法に関する調査	俱知安
四、肥料施用方法に関する試験及調査	俱知安
一、肥料施用方法試験	俱知安
馬鈴薯	俱知安
薯	俱知安
五、肥料配合に関する試験及調査	早來
一、葉煙草對窒素質肥料配合試験	早來
二、三要素配合に関する試験	早來
菜豆、甜菜	十勝、幸震

六、肥料用量に関する試験及調査

一、菊芋三要素用量試験	本場
二、堆肥用量試験	本場
馬鈴薯、葉煙草	早來
水	上川、日高
燕麥	釧路
玉蜀黍	幸震
菜豆	檜山、美深、天鹽
馬鈴薯	稚内、美瑛
三、燐酸用量と作物種類との關係調査	十勝
裸麥、小麥、燕麥、玉蜀黍、黍、大豆、菜豆、豌豆、馬鈴薯、亞麻、大麻、菜種	十勝
四、加里用量と作物種類との關係試験	幸震
裸麥、春播小麥、燕麥、黍、大豆、小豆、菜豆、豌豆、赤クローバー、綠肥大豆、黃花ルービン	幸震
五、泥炭地對燐酸用量試験	釧路
燕麥、大豆、馬鈴薯	釧路
六、硅酸用量試験	幸震
甜菜、燕麥	幸震
七、苦土用量試験	幸震
甜菜、燕麥	幸震
八、ラベンダー石灰用量調査	本場
九、沖積土と高丘地との燕麥養分吸收量相違に関する調査	幸震

七、綠肥に関する試験及調査

- 一、各種綠肥肥效比較試験 本場
- 二、根瘤菌混和材料に関する試験 本場
- 三、水田綠肥作物に関する調査 本場、渡島
- 四、ルーピン根瘤菌接種の效力持續年限に関する調査
燕 麥 本場
- 五、荳科作物根瘤菌接種調査 幸 農
- 六、搬入綠肥としての黃花ルーピン肥效調査
秋 播 小 麥 早 來
- 七、ルーピン鋤込時期試験
馬 鈴 薯 早 來
- 八、綠肥各種作物成分に関する調査
ライ麥、燕麥、大豆、蕎麥、菜種、赤クローバー、マムモスクローバー、コンモンベツチ、黃花ルーピン 十 勝
- 九、ルーピン採種時期試験 渡 島
- 一〇、ルーピン間作時期試験
燕 麥 渡 島
- 一一、馬鈴薯の後作綠肥調査
秋播ライ麥、燕麥、秋播菜種 美 深
- 八、その他に関する試験
一、海綠石の效果に関する調査 本 場

- 二、連作に関する調査 本 場
- 三、本道主要野草の分析調査 本 場
- 四、焼土法に関する調査 本 場

九、委託試験

- 一、黃花ルーピン利用に関する試験
試験施行箇所 本 場

二、施肥標準調査

- 一、植木鉢試験 本 場
- イ、三要素試験（水稻、燕麥）
試験施行箇所 本 場

土壤採集箇所

本場、南尻別村（九箇所）、磯谷村、木古内村、大野村、小澤村、大江村、喜茂別村、俱知安町、妹脊牛村（三箇所）、秩父別村、雨龍村（二箇所）、角田村（三箇所）、浦臼村（二箇所）、岩見澤町、永山村、美瑛町、多寄村、池田町（二箇所）、音更村、留邊桜町（二箇所）、美幌町（二箇所）、紋別町（二箇所）

土壤採集箇所

本場、美瑛町、音別町

- 二、現地試験 本 場
- イ、堆肥對三要素用量試験（水稻） 本 場
- 試験施行箇所 本 場

南尻別村

口、土壤統竝に主作物別對三要素用量に關する試驗(春播小麥、燕麥、豌豆、馬鈴薯、甜菜) 本場

試驗施行箇所

八、磷酸用量に關する試驗(水稻、燕麥、春播小麥)

試驗施行箇所

龜田村、利別村、岩見澤町、天鹽町、小清水村、網走町、鶴居村

二、肥料配合試驗(水稻)

試驗施行箇所

東瀬棚村(二箇所)、太櫛村、南尻別村(二箇所)、美唄町、瀧川町、江部乙村

丁、特殊原野開發指導試驗(本場)

本試驗は前年に繼續し、膽振國苦小牧町、厚真村、鶴川村等の町村に互る所謂勇拂原野、釧路國鳥取村に於ける鳥取原野及天鹽國幌延村に於けるサロベツ原野の開發に關する基礎資料を得んが爲施行せるものにして、苦小牧試驗地(勇拂郡苦小牧町一本松)に於ては本場と早來火山灰地試驗地と共同監督の下に各種作物の適否、耕種法、肥料用量、搬入ルーピン用量、間作、採種時期、牧草對堆肥用量に關する試驗と氣象に關する調査を實施し、釧路試驗地(釧路郡鳥取村字鳥取)に於ては釧路試作場と共同監督の下に客入土壤の種類、防霧の作物に及ぼす影響、磷酸及堆肥用量、綠肥作物適否、黃花ルーピン播種期節に關する試驗竝に排水、氣象に關する調査を行ひ、幌延試驗地(天鹽郡幌延村字下沼)に於ては天鹽試作場と共同監督の下に各種作物の適否、客土時期、磷酸用量、地力推移に關する試驗竝に排水、開墾法、氣象に關する調査を施行せり。

三、病理及昆蟲に關する試験及調査

甲、病理に關する試験及調査

本年度各場に於て施行せる試験及調査の概要左の如し

試験地名	病害に關する試験		病害に關する調査		委託試験及調査		雑草に關する調査		計	
	種類數	面積	種類數	面積	種類數	面積	種類數	面積	種類數	面積
北海道農事試験場(本場)	三	三二	九	一九四	二	八二	一	一七	一五	一〇六
十勝支場	五	一六四	一	一〇	一	五九	一	八	二〇	三九六
幸震高丘地試験地	一	一〇	一	一〇	一	一〇	一	一	一	一〇
北見支場	一	一〇	一	一〇	一	一〇	一	一	一	一〇
渡島支場	一	一〇	一	一〇	一	一〇	一	一	一	一〇
根室支場	一	一〇	一	一〇	一	一〇	一	一	一	一〇
檜山試作場	一	一〇	一	一〇	一	一〇	一	一	一	一〇
美深試作場	一	一〇	一	一〇	一	一〇	一	一	一	一〇
日高試作場	一	一〇	一	一〇	一	一〇	一	一	一	一〇
計	一五	一〇六	一五	一〇六	一五	一〇六	一五	一〇六	一五	一〇六

本年度施行せる種類左の如し

一、病害に關する試験及調査

- 一、甜菜立枯病防除試験(一)
- 二、甜菜線蟲根瘤病防除試験

三、馬鈴薯疫病對ポルドウ合劑撒布時期試験	十勝
四、砒素劑撒布對豆類藥害試験	十勝
五、新農用藥劑による馬鈴薯疫病防除試験	十勝
六、茄青枯病豫防試験	渡島
七、大麥生産遞減防止に關する病理學的調査	本場
八、麥類赤黴病と麥類品種との關係調査	本場
九、採種用甜菜の藥劑撒布時期及回数と種子に於ける甜菜蛇眼病罹病率との關係調査	本場
一〇、新農用藥劑に關する調査	本場
一一、瑞典蕪菁白腐病防除に關する調査	本場
一二、飼料作物病害に關する調査	本場
一三、農作物連作地病害に關する調査	本場
一四、線蟲生態に關する調査	本場
一五、春播小麥赤黴病防除調査	十勝
一六、雜草驅除に關する調査	本場、十勝
一七、根瘤線蟲の垂直分布季節的變化に關する調査	幸震
一八、根瘤線蟲の分布に關する調査	幸震
一九、麥類對病性品種調査	根室
二〇、瑞典蕪菁品種と白腐病との關係調査	根室

二一、甜菜立枯病防除調査	幸震
二二、新農用藥劑に關する調査	美深

二、委託試験

一、燕麥冠狀銹病と品種との關係試験 (澁別村、西足寄村)	本場、十勝
二、大豆萎黃病と輪作との關係試験 (門別村)	日高
三、甜菜立枯病防除試験 (厚澤部村)	本場、檜山
四、秋播ライ麥に對する藥劑種類及展着劑加用による麥類菌核病防除效果に關する調査 (江別町、端野村、常呂村、女滿別村)	本場
五、秋播小麥に對する藥劑撒布時期に關する調査 (美唄町)	本場、美唄
六、大豆萎黃病と石灰窒素施用との關係試験 (美唄町)	本場、美唄
六、大豆萎黃病と石灰窒素施用との關係試験 (厚澤部村)	本場、檜山

乙、昆蟲に關する試験及調査

本年度各場に於て施行せる試験及調査の概要左の如し

試験地名	農作物害益蟲に關する試験		農作物害益蟲に關する調査		家畜害益蟲に關する調査		委託試験		計	
	種類數	面積	種類數	面積	種類數	面積	種類數	面積	種類數	面積
北海道農事試験場(本場)	一	三	一	三	一	三	一	三	一	三
十勝支場	一	三	一	三	一	三	一	三	一	三
幸震高丘地試験地	一	三	一	三	一	三	一	三	一	三
北見支場	一	三	一	三	一	三	一	三	一	三
渡島支場	一	三	一	三	一	三	一	三	一	三
根室支場	一	三	一	三	一	三	一	三	一	三
美瑛試作場	一	三	一	三	一	三	一	三	一	三
合計	一〇	三〇	一〇	三〇	一〇	三〇	一〇	三〇	一〇	三〇

本年度施行せる種類左の如し

一、農作物害益蟲に關する試験及調査

- 一、麥葉潜蠅防除試験
- 二、大根蠅防除試験
- 三、重要害益蟲飼育調査
- 四、二化性螟蟲に關する調査
- 五、稻象鼻蟲に關する調査
- 六、葉潜蠅に關する調査
- 七、コガネムシに關する調査
- 八、コガネムシ發生と土壤との關係調査
- 九、針金蟲に關する調査

- 一〇、大豆莢蠹蟲に關する調査
- 一一、甜菜害蟲に關する調査
- 一二、葱頭スリップス天敵移入に關する調査
- 一三、大根蠅類に關する調査
- 一四、櫻桃害蟲に關する調査
- 一五、殺蟲竝に驅除劑に關する調査
- 一六、夜盜蛾發生豫察調査
- 一七、キタバコガ發生期調査
- 一八、キタバコガ土中越冬と周期的發生調査
- 一九、薄荷害蟲に關する調査
- 二〇、夜盜蟲豫察調査
- 二一、豌豆莢蠹蟲防除試験
- 二二、家畜害蟲に關する調査
 - 一、サシバへ類の生態に關する調査
 - 二、吸血蛇類の發生消長に關する調査
 - 三、家畜吸血蠅蛇類の防除劑に關する調査
 - 四、本道家畜害蟲の種類に關する調査
- 二三、委託試験
 - 一、稻象鼻蟲防除試験(砂川町)

- 二、稻象鼻蟲に對する秋季防除試験（砂川町）
 - 三、黍二化性螟蟲に關する調査（本別町）
 - 四、コガネムシ發生と土壤との關係調査（濱中村）
- 本場 十勝 根室

丙、一般病害蟲に關する試験及調査

本年度各場に於て施行せる試験及調査の概要左の如し

試験地名	試験項目	病害蟲に關する試験及調査		試験地名	試験項目	病害蟲に關する試験及調査		試験地名	試験項目	病害蟲に關する試験及調査	
		種類數	面積			種類數	面積			種類數	面積
北海道農事試験場	美眼泥炭地試験地	—	—	波島支場	—	—	天鹽試作場	—	—	—	—
早來火山灰地試験地	上川支場	—	—	俱知安試作場	—	—	瀬棚試作場	—	—	—	—
十勝支場	幸震高丘地試験地	—	—	劍路試作場	—	—	日高試作場	—	—	—	—
北見支場	—	—	—	美深試作場	—	—	稚内試作場	—	—	—	—
							美瑛試作場	—	—	—	—

本年度施行せる種類左の如し

- 一、一般病害蟲に關する試験及調査
 - 二、本道重要農作物重要病害に關する調査
 - 三、本道重要害虫に關する調査
 - 四、地方重要農作物病害蟲に關する調査
- 各支場、各試作場、各試験地

農林省農事試験場より委託

- 一、大豆展着劑に關する試験
 - 北海道農會より依頼
 - 一、玉蜀黍雄穗早期切除によるアハノメイガ防除試験
 - 二、玉蜀黍莖稈及刈株處理によるアハノメイガ防除試験
 - 三、砒素劑の撒布とアハノメイガ防除効果査定試験
 - 四、玉蜀黍品種とアハノメイガ被害程度に關する調査
 - 五、昭和十五年に於けるアハノメイガ被害状況調査
- 本場

四、蠶桑に關する試験及調査

本年度に於て施行せる試験及調査の概要左の如し

試験地名	試験項目	栽桑に關する試験及調査		育蠶に關する試験及調査		種類數	面積	蛾數
		種類數	面積	種類數	面積			
北海道農事試験場	—	—	—	—	—	六	八五	四五
						六	八五	四五
						六	八五	四五
						六	八五	四五

本年度施行せる種類左の如し

- 一、蠶品種試験
 - イ、品種特性調査
- 本場

- ロ、一代雜種比較試験
- 二、新用途繭生産費低減研究試験
- イ、給與桑萎凋防止方法に関する試験
- ロ、野菜給與試験
- ハ、夏蠶掃立時期試験
- ニ、上簇法試験

五、畜産に関する試験及調査

本年度各場に於て施行せる試験及調査の概要左の如し

試験地名	飼料作物に関する試験及調査		家畜飼養に関する試験及調査		家畜衛生に関する試験及調査		牧野に関する試験及調査		畜産加工に関する試験及調査		計
	種別数	面積 平方米	種別数	面積 平方米	種別数	面積 平方米	種別数	面積 平方米	種別数	面積 平方米	
北海道農事試験場	一八	一、〇四〇	五	二五	二	二	六	四	三	二七	二、五七六
美唄泥炭地試験地	五	二五								二	六
早火山灰地試験地	二	二								一	二
十勝支場	六	二二								一	二
幸震高丘地試験地	一	一									
渡島支場	一	一									
根室支場	一	一									
檜山支場	三	二六								一	一六
計	三三	一、〇七六	五	二五	二	二	六	四	三	二七	二、五七六

伊知安試作場	三	一九										三	一九
釧路試作場	一七	二四〇										一七	二四〇
美深試作場	一	二二										一	二二
天鹽試作場	二	三三										二	三三
瀬棚試作場	七	六〇										七	六〇
日高試作場	四	七〇										四	七〇
稚内試作場	一七	三〇										一七	三〇
美瑛試作場	五	七〇										五	七〇
計	五七	一、〇〇〇										五七	一、〇〇〇

本年度施行せる種類左の如し

一、飼料作物に関する試験及調査

一、品種試験

飼料用玉蜀黍、赤コロバー、飼料用根菜類	本場
ルーサン	早來
飼料用玉蜀黍、瑞典蕪菁	十勝
飼料用玉蜀黍	渡島、檜山
飼料用玉蜀黍、飼料用ビート、飼料用蕪菁、瑞典蕪菁	根室
飼料用玉蜀黍、飼料用南瓜	俱知安
瑞典蕪菁	釧路
瑞典蕪菁、飼料用胡蘿蔔	美深
飼料用ビート、飼料用胡蘿蔔	日高

飼料用玉蜀黍、稗、飼料用蕪菁、飼料用胡蘿蔔、飼料用ビート、禾本科牧草、荳科牧草： 雑内
 禾本科牧草、荳科牧草： 美瑛
 二、品種間雜種に關する試験
 玉 蜀 黍： 本場、檜山
 三、生産力檢定豫備試験
 玉 蜀 黍： 本場
 四、個體群養成竝に自殖個體選抜試験
 玉 蜀 黍： 本場
 五、自殖第一代以後系統選抜試験
 玉 蜀 黍： 本場
 六、個體群養成竝に個體選抜試験
 赤クローバー： 本場
 七、系統育成試験
 赤クローバー： 本場
 八、適否試験
 アルサイククローバー： 本場、俱知安
 飼料用南瓜、アルサイククローバー、リードキヤナリーグラス： 美 瑛
 チモシー、赤クローバー、アルサイククローバー、リードキヤナリーグラス、秋播菜種： 美 瑛
 青刈作物： 日 高
 九、牧草の生存年限に關する調査： 本場

一〇、收穫期試験

燕麥、秋播ライ麥、飼料用玉蜀黍、稗、向日葵、赤クローバー： 潮 棚
 青刈飼料作物： 潮 棚
 一一、播種期節試験
 燕麥、秋播ライ麥、飼料用玉蜀黍、稗、向日葵、赤クローバー： 天 壁
 飼料用蕪菁： 天 壁
 一二、牧草播種量試験
 チモシー： 美 瑛
 一三、採種に關する調査
 飼料用ビート： 天 壁
 赤クローバー： 天 壁
 一四、ルーサン收量調査： 天 壁
 一五、收穫回数に關する試験： 美 瑛
 一六、土壤の肥瘠が結實に及ぼす影響に關する調査
 赤クローバー： 本 場
 一七、二番草の開花結實に關する試験
 赤クローバー： 本 場
 一八、三要素試験
 禾本科牧草、赤クローバー： 本 場
 赤クローバー、マンモスクローバー、アルサイククローバー、ラデノクローバー、ホワイトクローバー： 十 勝

チモシ 1: 幸農、美瑛

禾本科牧草 稚内

一九、クローバー類品種比較調査 十勝

二〇、赤クローバー品種調査 十勝

二一、早春用緑飼料栽培調査 十勝

二二、青刈ライ麦及菜種利用時期試験 釧路

二、家畜飼養に関する試験及調査

一、飼料分析並に消化試験 本場

二、埋藏飼料調製に関する調査 本場

三、家畜衛生に関する試験及調査

一、仔馬病に関する試験（馬流産菌並に連鎖状球菌の感染豫防、治療試験） 本場

二、パンダ菌保菌牛並に細菌性子宮疾患に関する調査 本場

四、牧野に関する試験及調査

一、各種林相と牧野土壤の理化學性に關する調査 本場

二、牧野荒廢過程に關する調査 本場

三、牧野植生の飼料的成分に關する調査 本場

四、牧野植生の生態學的特性に關する調査 本場

五、牧野利用家畜の生態生理衛生に關する調査 本場

六、冬季放牧馬の採食量に關する調査 本場

七、牧草地造成に關する試験 釧路

八、泥炭地野草利用に關する試験 釧路

五、畜産加工に関する試験及調査

一、熟成乾酪製造に關する試験 本場

二、乾酪、牛酪着色劑製造に關する試験 本場

六、農産加工に関する試験及調査

本年度本場に於て施行せる試験及調査の概要左の如し

試験項目	乾燥蔬菜製造に關する試験及調査			農家食糧に關する調査			農産加工に關する試験及調査			計		
	種類數	區數	面積 平方米	種類數	區數	面積 平方米	種類數	區數	面積 平方米	種類數	區數	面積 平方米
北海道農事試験場 (本場)	四	四〇	一	一	三	一	五	七	一	一〇	二八	一

本年度施行せる種類左の如し

- 一、乾燥蔬菜製造に関する試験
- イ、採取期に関する試験
- ロ、原色定着に関する試験
- ハ、乾燥法に関する試験
- 本場

- 二、乾燥蔬菜還元法に関する調査 本場
- 二、農家食糧に関する試験及調査 本場
- 一、農家食糧に関する調査 本場
- 三、農産加工に関する試験及調査 本場
- 一、主要農産物の理化学的性状に関する調査 本場
- 二、罐詰原料アスパラガス貯蔵法に関する調査 本場
- 三、果實蔬菜の加工利用に関する調査 本場
- 四、笹の實の食糧化に関する調査 本場
- 五、酒精原料馬鈴薯乾燥に関する調査 本場

七、農具に関する試験及調査

本年度本場に於て施行せる試験及調査の主要左の如し

試験項目	農具に関する試験及調査		
	種類数	面積	積
北海道農事試験場(本場)	六	八	平方米

本年度施行せる種類左の如し

- 一、馬鈴薯掘取機に関する試験 本場
- 二、麥刈取機に関する試験 本場

- 三、脱穀機に関する試験 本場
- 四、水車に関する試験 本場
- 五、水田洋犁の功程に関する調査 本場
- 六、土壤硬度測定器に関する調査 本場

八、農業経営に関する試験及調査 (本場)

甲、経営試験農場

本試験の目的は従來の各種試験及調査の成績を綜合して、各主要農業地帯に對し適當と認むる農業經營法を立案し、農家をして之を實施せしめ、其の收支經濟並に日常生活の實情を明にすると共に、漸次改善を加へて地方的模範農場たらしめ、以て農業經營改善の資に供せんとするにあり。

而して本年度は従來に引續き十勝國幸震經營試験農場外十八箇所に就き施行したる他、膽振國有珠郡德舜管村字中徳に地積二五町三畝二〇歩の畑及山林を有する混同經營試験農場を新設し、入地者を選定し、各種建物を借入れ、之に改修を加へ、用地の區劃並に其の改良を行ひたり。

本年度施行せるもの左の如し

名	稱	所在地	擔當者	監督場名	經營種類	經營面積	事業開始年次
(第二期拓殖計畫に上り設置せるもの)	北海道農事試験場幸震經營試験農場	十勝國河内郡大正村字幸震	森志希留	十勝支場幸震高丘地試験地	混同	畑 一七〇〇町	昭和三年

同	中標津經營試驗農場	根室國標津郡標津村字中標津	石橋敏一郎	根室支場	主畜	畑	300町	昭和三年
同	上斜里經營試驗農場	北見國斜里郡斜里村字上斜里	關口峯二	北見支場	混同	同	250町	同五年
同	利別經營試驗農場	後志國瀨棚郡利別村字神丘	渡部重貞	瀨棚試作場	同	同	270町	同六年
同	喜茂別經營試驗農場	膽振國虻田郡喜茂別村字中喜茂別	吉田實	俱知安試作場	同	同	180町	同七年
同	沼川經營試驗農場	北見國宗谷郡稚内町字沼川	濱本喜八	稚内試作場	主畜	同	190町	同八年
同	長萬部經營試驗農場	膽振國山越郡長萬部村字追込	寺島義美	渡島支場	同	同	200町	同九年
同	幌延經營試驗農場	天鹽國天鹽郡幌延村字下沼	見延傳七	天鹽試作場	混同	同	27町反 27町反 28町	同十年
同	上士幌經營試驗農場	十勝國河東郡上士幌村字上士幌	戸水正信	十勝支場	同	同	300町	同十一年
同	美瑛經營試驗農場	石狩國空知郡美瑛町	齋藤義平	美瑛泥炭地試驗地	同	同	150町	同十二年
同	熱郭經營試驗農場	後志國歌志郡熱郭村字赤井川	富木清	俱知安試作場	同	同	150町	同十三年
同	鶴居經營試驗農場	釧路國阿寒郡鶴居村字中雪裡	菅谷亥之助	釧路試作場	主畜	同	300町	同十三年
同	雄武經營試驗農場	北見國紋別郡雄武村字モオトイネツブ	松井清行	北見支場	混同	同	150町	同十四年
同	厚澤部經營試驗農場	渡島國檜山郡厚澤部村大字鴉村字鴉	大石清正	檜山試作場	穀菽	同	150町	同十五年
(前記計畫以外に設置せるもの) 北海道農事試驗場 早來第一經營試驗農場	早來第一經營試驗農場	贈振國勇拂郡安平村字早來	寺島弘	早來火山灰地試驗地	混同	同	207町	大正十三年

同	早來第二經營試驗農場	同	瀨谷竹千代	同	同	同	同	昭和三年
同	早來第三經營試驗農場	同	西川政二	同	主畜	同	同	同三年
同	野付牛經營試驗農場	北見國常呂郡野付牛町	江頭作藏	北見支場	穀菽	水田4町反 畑其他1町 水田3町 畑其他1町 水田4町 畑其他1町	同	同四年
同	永山經營試驗農場	石狩國上川郡永山村	齋藤留五郎	上川支場	同	同	同	同五年

乙、經營模範農場

本試験の目的は北海道農事試験場試作場に於て、従来の各種試験及調査の成績に基き、且所在の實情に鑑み、其の地方に最も適應せる農業經營法を立案し、農家をして之を行はしめ、其の收支經濟並に日常生活の實情を明にし、以て地方農業經營法の指針たらしめんとするにあり。
而して本年度は従來に引續き天鹽國天鹽試作場經營模範農場の外五箇所の農場に就いて行ひたり。
本年度施行せるもの左の如し

名	稱	所	在	地	擔當者	監督場名	經營種類	經營面積	事業開始年次
天鹽試作場經營模範農場	天鹽國天鹽郡天鹽町字川口	須藤作太郎	天鹽試作場	混同	畑	45町	昭和三年		
日高試作場經營模範農場	日高國靜内郡靜内町	前川繁一	日高試作場	穀菽	水田 畑	400町 100町	同三年		
瀨棚試作場經營模範農場	後志國瀨棚郡利別村字神丘	鈴木二郎	瀨棚試作場	同	畑 水田	170町 300町	同三年		

美瑛試作場經營模範農場	石狩國上川郡美瑛町字美瑛原野	高橋龜一郎	美瑛試作場	穀菽	畑	六九七町	昭和六年
稚内試作場經營模範農場	北見國宗谷郡稚内町字聲間	島中重信	稚内試作場	主畜	畑	三二三町	同九年
士別經營試驗農場	天鹽國上川郡士別町	安達金司	上川支場	穀菽	水田	一五〇町	同十一年

丙、經營改善農場

本試験の目的は各主要農業地帯に於て實地農業に従事しつつある農家に委託し、従来の各種試験及調査の成績に基き適當と認むる農業經營法を實施せしめ、漸次改善を加へ、以て其の地方農業改善の資に供せんとするにあり。而して本年度は従來に引續き膽振國岩尾別經營改善農場の外五箇所に就き施行せり。

本年度施行せるもの左の如し

名	稱	所	在	地	擔	當	者	監	督	場	名	種	類	經	營	面	積	年	事	業	開	始
岩尾別	經營改善農場	膽振國	虻田郡	俱知安町	字	岩尾別	安達 勇	俱知安	試作場	混同	同	三六九七町	昭和七年									
羽幌	經營改善農場	天鹽國	苫前郡	羽幌町	字	築別高臺	越智 卯平	天鹽	試作場	同	同	三〇〇〇町	同十三年									
沼田	經營改善農場	石狩國	雨龍郡	沼田村	字	沼田炭礦農地	塚入 卯太郎	本	場	穀菽	同	三〇〇〇町	同十三年									
利別	經營改善農場	後志國	瀨棚郡	利別村	字	日進	田島 市太郎	瀨棚	試作場	混同	同	二七〇〇町	同十三年									
幕別	經營改善農場	十勝國	中川郡	幕別村	字	猿別	折笠 休五郎	十勝	支場	同	同	三三〇〇町	同十三年									
留壽都	經營改善農場	膽振國	虻田郡	留壽都村	字	登	菅原 三郎	俱知安	試作場	同	同	一五〇〇町	同十四年									

本年は氣候概して順調に經過し、病害も亦比較的輕微なりしを以て各農場共略豫期の成績を擧ぐることを得、合理的なる經營法と適切なる耕種技術の運用とによりて勞力及各種資材の不足せるにも拘はらず經營改善の跡歴然たるものあり、隨つて一般農家を啓發せるところ尠からざりき。

第三 普及事業

一、教習生の養成

本年度養成せる教習生左の如し

農業實習生 一九名(内二年生一〇名、一年生九名)
 農業練習生 三二名(内男子二〇名、女子一二名)
 農業實習生の教習期間は従來二箇年なりしが昭和十六年二月二十五日北海道廳告示第二二二號を以て本場教習生規程改正せられ教習期間一箇年となりしを以て、昭和十四年度及同十五年度入場生全部修了生となれり。

二、印刷物の刊行及配付

本年度刊行及配付せる印刷物左の如し

場名	玉蜀黍	大豆	小豆	菜豆	豌豆	豆	馬鈴薯	蕎麥	麥	黄ルビン花	赤バク薄	荷菜種
天鹽試作場						七六〇〇〇						
瀬棚試作場	三三・四一五	一〇・二三				二八〇〇						
日高試作場	一〇〇・〇〇〇	五〇・〇〇				五五五〇						
美瑛試作場						四一〇・〇〇〇						二〇・〇〇〇

場名	玉蜀黍	大豆	小豆	菜豆	豌豆	豆	馬鈴薯	蕎麥	麥	黄ルビン花	赤バク薄	荷菜種
北海道農事試験場(本場)	四〇〇・〇〇〇	二一三・一〇〇	三三・四〇〇	二四・一〇〇	五九・七〇〇	二八四・三〇〇	三二・五〇〇					
早火山灰地試験地	三〇〇・〇〇〇	二〇〇・〇〇〇	四・五〇〇	四・五〇〇		一五七・八〇〇						
上川支場	二・六〇〇	一・六〇〇	一・〇〇〇	一・〇〇〇	〇・五〇〇	一四・〇〇〇						
十勝支場	二九〇・四六	二六・六九六	一・四〇〇	一・四〇〇	〇・六〇〇	四三・九四・〇〇〇	二・〇〇〇					
北見支場	一六・二〇〇	四八・八四四	〇・八五	一・五七・七〇	六・〇〇〇	二四七・五〇〇						
渡島支場	五・二〇〇	七・二〇〇	三・二〇〇	五・七・一八	一・九五・〇〇〇	一六七・〇〇〇						
根室支場		三〇・五〇〇		四・六・三〇〇		一六七・〇〇〇	八・四〇〇					
檜山試作場	一・一〇〇	五・一〇〇	二・二〇〇									
俱知安試作場		二・九〇〇		三・五・〇〇〇		五三・二・三〇						
美深試作場	五・〇〇〇	五・〇〇〇	三・〇〇〇	八・〇〇〇	一・〇〇〇	九七・八・七〇						
天鹽試作場	四・〇〇〇		五・〇〇〇	二〇・〇〇〇		一五・〇〇〇						
瀬棚試作場	二・三・三〇〇	二四・三・五〇五	五・三・〇〇			七・七・三〇						
日高試作場	一・五・〇〇〇	一〇・〇〇〇				七・七・三〇						
美瑛試作場	一・六・〇〇〇	七・〇〇〇	一・三・〇〇〇			五・〇・〇〇〇						

場名	裸燕麥	甜菜	亞麻	大綠豆	肥	コンモン	ベサ	ンチ	除蟲菊	大	麻	苧	麻	苧	芋	苧	麻
北海道農事試験場(本場)	三・九〇〇	二・三・六〇〇	二・五〇〇	一・三・五〇〇	四・二・〇〇												
十勝支場			〇・九〇〇	二・四・六八													
北見支場			一・三〇〇														
檜山試作場																	

場名	苹果	梨	ツルバラ	蔬	菜草	苺	花卉種子	花卉球根	メロン	粟	リ	チ	コ	根	肥	作	物
北海道農事試験場(本場)	四本	三本	二五本	四五	六七〇	一六	六〇	四五〇	一四〇〇	八・二							
接種面積	一一・八七町九																

五、農事指導

各種の講習講話會、協議會、研究會、品評會、共進會、實地指導、其の他の爲各場共場員をして夫れ夫れ指導せしめたり。

六、質疑應答

農業上各般の事項に互り書面又は口頭を以て質疑せるものに對し各場共夫れ夫れ懇切に應答せり。

七、依頼分析

本年度北海道農事試験場本場に於て依頼を受け分析を行ひたるもの左の如し

區別	件數	成分數	區別	件數	成分數
肥土	三三		其他	二六	
料壤	三四				
	七四				

八、參觀人

本年度各場に於ける參觀人數左の如し

參觀人數	本場	美	唄	早	來	上	川	十	勝	幸	震	北	見	渡	島	根	室
七三六																	
四六九																	
八二五																	
五五九																	
二〇三六																	
七三五																	
一九三四																	
一三〇〇																	
五七九																	

參觀人數	檜	山	俱	知	安	劍	路	美	深	天	鹽	瀬	棚	日	高	稚	内	美	瑛	和	寒	島	松
七六六																							
六六四																							
五七五																							
五九九																							
三七六																							
六五八																							
一〇五〇																							
五七五																							
四四二																							
二二〇																							
二〇〇																							

第四其の他

一、出張

本年度に於て農事指導、調査及事務打合せ、その他の爲各場々員の出張左の如し。

場名	區別	技師	農林技師	主事補	技手	農林技手	助手	其他
北海道農事試験場(本場)		一六二	五四三	四七	二〇〇	四三	一七九	七
美唄泥炭地試験地								二八九
早來火山灰地試験地								
上川支場			二〇					
十勝支場			八					
幸震高丘地試験地			三					
北見支場			三					
渡島支場			二					
根室支場			二					
檜山支場			三					
俱知安支場			六					
劍路支場			三					
美深支場			七					
天鹽支場			七					
瀬棚支場			三					
日高支場			三					
稚内支場			三					
美瑛支場			三					
和寒支場			三					
島松支場			三					
玉獨支場			三					

作物名	品名	種類	数	栽培面積	生産数量	配付数量
水	稻		一七	二八〇	八〇七九	五三三〇〇

備考 配付数量は配付計畫に基きて配付せるもののみなり

二、小麥原種圃

本原種圃は小麥増殖計畫に基き、秋播種一品種、春播種二品種を農事實行組合に配付せんが爲之が生産を行ひたり。其の栽培面積、生産及配付數量左の如し

作物名	品名	種類	数	栽培面積	生産数量	配付数量
秋播種	種		一	九五〇	六・三八〇	五九六〇
春播種	種		二	一九五五	一六五八〇〇	一九九・〇〇〇
計	種		三	二九〇五	一七二三八〇	二一八・九〇〇

備考 秋播小麥は昭和十四年播種のもののみなり

三、麥原種圃

本原種圃は第七期原種配付計畫に基き、燕麥三品種、裸燕麥一品種の原種を郡市農會に配付せんが爲之が生産を行ひたり。其の栽培面積、生産及配付數量左の如し

作物名	品名	種類	数	栽培面積	生産数量	配付数量
燕麥	麥		三	二五〇	四・〇〇〇	三・三五三
裸燕麥	麥		一	五〇	四・五〇〇	三・三八〇
計	麥		四	三〇〇	四・五〇〇	三・七三三

備考 配付數量は配付計畫に基き配付せるもののみなり

四、雜穀馬鈴薯原種圃

本原種圃は第七期原種配付計畫に基き、大豆九品種、小豆四品種の原種を郡市農會に配付せんが爲之が生産を行ひたり。其の栽培面積、生産及配付數量左の如し

作物名	品名	種類	数	栽培面積	生産数量	配付数量
大豆	豆		九	二五	一五・三二	一〇・一九六
小豆	豆		四	八・〇	九七六〇	三・五四九
計	豆		一三	三三・六	二四・九八二	一三・七四五

備考 配付數量は配付計畫に基き配付せるもののみなり

五、酒精原料馬鈴薯原種圃

本原種圃は無水酒精原料馬鈴薯の増産を圖らんが爲、四品種に就き原種の生産を行ひ農事實行組合に配付せり。其の栽培

面積、生産及配付數量左の如し

作物名	品種	數	栽培面積	生産數量	配付數量
馬鈴薯		四	一五〇反	四三七八〇	三六〇〇〇

備考 配付數量は配付計畫に基き配付せるもののみなり。

六、薄荷原種圃

本原種圃は薄荷の優良品種種根を農事實行組合に配付せんが爲之が生産を行ひたり。其の栽培面積、生産及配付數量左の如し

作物名	品種	數	栽培面積	生産數量	配付數量
薄荷		一	三五〇反	二四三五〇	一六八五〇

七、飼料用玉蜀黍原種圃

本原種圃は飼料用玉蜀黍の優良品種の普及を圖らんが爲四品種に就き原種の生産を行ひ玉蜀黍採種圃の種子用に供せり。其の栽培面積及生産數量左の如し

作物名	品種	數	栽培面積	生産數量	配付數量
玉蜀黍		四	二五五反	四一、四四〇	石

採種圃

一、菜種採種圃

本採種圃は第三期種子配付計畫に基き、秋播種二品種の種子を農事實行組合に配付せんが爲之が生産を行ひたり。其の栽培面積、生産及配付數量左の如し

作物名	品種	數	栽培面積	生産數量	配付數量
秋播菜種		二	二〇〇反	三、七二〇	石

備考 配付數量は配付計畫に基き配付せるもののみなり。

二、綠肥作物採種圃

本採種圃は綠肥作物ベツチ、赤クローバー及ルーピンの種子を町村農會に配付せんが爲之が種子の生産を行ひたり。其の

栽培面積、生産及配付數量左の如し

作物名	品種	數	栽培面積	生産數量	配付數量
ベ ク ロ ー バ ー チ		一	六〇反	一・〇〇〇石	一・〇〇〇石
赤 ク ロ ー バ ー チ		一	一八〇	一・〇〇〇石	一・〇〇〇石
ル ー ビ ン		一	二九三	一・〇〇〇石	一・〇〇〇石
計		三	五三三	三・〇〇〇石	三・〇〇〇石

備考 配付數量は配付計畫に基き配付せるもののみなり。

三、飼料用玉蜀黍採種圃

本採種圃は飼料用玉蜀黍増殖計畫に基き玉蜀黍四品種の種子を一般栽培用として配付せんが爲、委託經營を以て之が生産を行ひたり。其の栽培面積、生産及配付數量左の如し

作物名	品種	數	栽培面積	生産數量	配付數量
玉 蜀 黍		四	一〇三・五反	六七・八〇石	五三・八〇石

採種圃監督

郡市農會採種圃の經營に對し場員をして一回二日に互り出張せしめて指導監督を行はしめたり。

原蠶種製造

本事業は前年に繼續し、其の目的は本道に於ける蠶種製造者に原蠶種を供給せんとするにあり。而して本年に於て掃立したる蠶種は日歐固定種二、支歐固定種一、歐々固定種一、日支固定種二、支那種四にして、其の製造蛾數三、五〇〇蛾にして内三、一〇〇蛾を配付用に供せり。

模範果樹園

本事業の目的は果樹園經營上の範を實地に示さんとするにありて、渡島支場用地内に於て經營面積七、九二〇平方米（八反歩）に苹果、和梨、洋梨、支那梨、櫻桃、葡萄等を栽培し、尙是等の樹間に綠肥を間作し地力の培養に努めたり。本年の天候早春より概して低溫寡照不順にして七月下旬及八月中旬に於て比較的高溫多照なりし外生育期間を通じ一般に不良なりし爲、各種共に生育良好とは云ひ難く、殊に葡萄の花揃ひ及櫻桃の收穫期に於ける降雨の爲兩種共品質著しく不良なりき。

病害にありては氣候前述の如くなりし爲、苹果にありては褐斑病、モニリア病等の發生稍少なかりしも、梨には黒斑病、黒星病等多く發生せるを以て、極力防除に努めたる結果被害を輕微に止むるを得、略所期の收穫を擧げ得たり。

水稻新品種育成試験

本試験は農林省指定に係り、其の目的は高緯度又は寒冷地に適應する多收安全なる早熟品種を育成するにありて上川支場に於て之を施行せり。本年度の試験經過は春季より七月下旬に亙る長期の低温寡照、七月下旬以後の急激なる天候の夏型化、八月上旬に於ける一時的低温化と降水、八月中旬に於ける晝夜を分たぬ高温多濕、八月下旬に於ける颶風性の暴風雨及秋季早冷等の如き異常的氣象現象に因り生有經過は春季以來順調ならず、剩へ稻熱病の記録的大發生被害に因り成績を攪亂せられたる憾みありと雖も、全試験悉くが稻熱病の耐病性検定試験状態に化したる觀ありしを以て、各種試験を通じ之を綜合し、耐病性に強く、且安全性多收向の有望系統並に個體を多數選抜し得、就中配付系統に屬し地方に試作中の「北海七九號」は冷害地向多收安全の極早生稈種なることを、又「北海八六號」は單に冷害地のみならず全道一圓に適應する耐病性多收安全の早生稈種なることを夫れ夫れ認められ新品種に決定し、前者は「水稻農林十九號」と後者は「水稻農林二十號」として次年度より積極的に奨勵せらるることとなれり。

本年度施行せる種類左の如し

試験の種類	品種數又は交配組合せ數	供試系統數又は個體數	供試面積
品種に關する試験			
一、品種特性調査	一九種		七・〇〇
二、品種の風土感應檢定試験	二八系統 九種		四・一八
三、保存栽培			〇・一四
新品種育成試験			一・二八
一、交配			一二七・二一
二、雜種第一代養成	七組	二八〇個體	
三、雜種第二代個體選抜試験	五七	五五・八八〇	二〇・〇〇

四、雜種第三代系統及個體選抜試験	二七	二八八系統	一・二〇〇
五、雜種第四代以後系統育成試験	一〇	六五一	三・三〇〇
六、系統特性檢定試験	三	九系及七種	二・二六
七、系統生産力檢定豫備試験	六	一〇系五種	五・〇〇
八、系統生産力檢定試験	一	一一系四種	二・五〇〇
九、配付系統採種栽培	一		二・九二〇

小麥育種地方試験

本試験は農林省指定に係り、其の目的は耐病性、耐寒習性、多收、早熟及良質なる優良品種を育成せんとするにありて、本場及北見支場に於て之を施行せり。本年度の試験經過を概括するに秋季の天候は適順にして生育は堅實良好に進み冬期間積雪少なりしを以て、寒害は例年に比し少なきを示せり。融雪後は四月下旬以降概して低温なりしも晴天の日多く、生育は順調に經過し出穂期は例年と大差なく、開花並に結實は六月中旬以降の高温、多照の期間に於て良好に行はれたり。爾後七月中、下旬に至り低温にして曇天連續せる爲、成熟期は例年に比し稍遅延し、結實日數も稍長期に互れり。而して登熟中強風ありたるも被害輕微に止り、且雨量少なりしを以て收量並に品質は一般に例年に比し良好なりき。而して各種試験は順調に施行せられ所期の目的を達するを得たり。

本年度施行せる試験の概要左の如し

一、本場

甲、秋播小麥

試験の種類類	交配組合せ又は供試品種數	栽植個體又は系統數
交配	二七八	二五二
雜種第一代養成	一六六	一九、二五四
雜種第二代個體選抜試験	一五七	三二六
雜種第三代系統及個體選抜試験	一五七	三九六
雜種第四代以後系統育成試験	一五七	三九五
育成系統特性檢定試験	一五七	二〇〇
育成系統生産力檢定豫備試験	一五七	一三〇
育成系統生産力檢定試験	一五七	一一一
配付系統採種栽培	三四	一一五
品種保存	一	一

乙、春播小麥

試験の種類類	交配組合せ又は供試品種數	栽植個體又は系統數
交配	五五	七七
雜種第一代養成	四七	五、九一〇
雜種第二代個體選抜試験	七	一

二、北見支場

甲、秋播小麥

試験の種類類	交配組合せ又は供試品種數	栽植個體又は系統數
交配	一〇	五三五
雜種第三代系統及個體選抜試験	三二	四二五
雜種第四代以後系統育成試験	一五	三一
育成系統特性檢定試験	九	二一
育成系統生産力檢定豫備試験	六	一〇
育成系統生産力檢定試験	八	一一
配付系統採種栽培	九四	一二
品種保存	三	一

乙、春播小麥

試験の種類類	交配組合せ數	栽植系統數
交配	七	一三
育成系統生産力檢定豫備試験	五	一一
育成系統生産力檢定試験	七	一

試験の種類	交配組合せ数	栽植系統数
雑種第五代以後系統育成試験	一〇組	一二五系統
育成系統生産力検定豫備試験	七	一九
育成系統生産力検定試験	六	一〇

緑肥作物根瘤菌配付

緑肥作物並に荳科作物の根瘤菌を培養し、全道郡市町村農會並に農家希望者へ無償を以て配付せる數量
 一一、八七九本（硝子容器入）なり

後編

指導奨励上参考に資すべき試験及調査成績

本年度に於て完了せる若は未完了なるも特に發表の必要を認めたる試験及調査成績のうち、昭和十六年自二月二十四日至三月二日間に開催の北海道農事試験場本支場長並に試作場長協議會に於て、指導奨励上参考に資すべき事項として協議決定せるもの左の如し

一、種藝及園藝に關する試験及調査成績

甲、種藝に關する試験及調査成績

(一) 水稻「石狩白毛」に關する試験成績

本品種は上川支場に於て昭和八年「關山八號」を母とし、「早生富國」を父として、人工交配を行ひ育成せるものにして、主として上川、空知支廳管内の耕土深き肥沃なる土地、又は泥炭地、濕地等の如き稻熱病の發生し易き土地に適する優良品種に決定し、「石狩白毛」と命名せり。

本品種の特性は出穂期、成熟期は「坊主二號」若くは「富國」と大差なき中生種なり。草丈は「富國」より長く、「坊主二

號」と大差なし。莖稈は太く強剛にして耐肥性に富み、倒伏すること殆ど無く、分蘗は少なく、穂は稍長く、粒着密にして白色の長芒を有し、稈は黄白色を呈す。稻熱病に對して抵抗性強し。玄米收量は「富國」と大差なく、米粒は圓形大粒にして腹白稍多く、品質は稍良好にして「富國」より優り、食味稍良好なり。其成績左の如し

一、上川支場試験成績

(一) 特性調査 昭和十五年

品種名	色	葉	正葉	莖	稈	粒着	腹白	心白	色澤	光澤	品質	耐倒伏性	精白歩合	食味
坊主二號	淡綠	廣	中	開	廣	長	少	中	中	中	中	中	中	中
富國	綠	稍狹	直	同	同	中	多	同	同	同	同	同	同	同
石狩白毛	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同

備考 精白歩合は二等白、昭和十五年試験による。

(二) 生育及收量調査 自昭和十二年 至同十五年

(イ) 標準肥栽培

品種名	出穂期	成熟期	生育日数	草丈	穗長	一株穗數	反當玄米收量			歩合
							昭和十四年	昭和十五年	平均	
坊主二號	八月八日	八月八日	二二五日	八八七	一七	三三	三・八四	三・八四	三・八四	七九
富國	八月四日	八月九日	二二八	八二四	一三・四	三三	三・八四	三・八四	三・八四	七九
石狩白毛	八月四日	八月九日	二二七	八八六	一五・〇	三三	三・八四	三・八四	三・八四	七九

(ロ) 少肥及多肥栽培 昭和十三年

標準肥	三割肥	坊主二號	出穂期	成熟期	生育日数	草丈	一株穗數	穗長	反當玄米收量	歩合	反當玄米收量	容積	歩合
標準肥	三割肥	坊主二號	八月八日	八月八日	二二五日	八八七	一七	三三	三・八四	七九	三・八四	二・四九	六八
標準肥	三割肥	坊主二號	八月八日	八月八日	二二五日	八八七	一七	三三	三・八四	七九	三・八四	二・四九	六八
標準肥	三割肥	坊主二號	八月八日	八月八日	二二五日	八八七	一七	三三	三・八四	七九	三・八四	二・四九	六八

(三) 耐肥性調査 直播 昭和十四年

標準肥	三割肥	坊主二號	出穂期	成熟期	生育日数	草丈	一株穗數	倒伏	反當玄米收量	歩合	反當玄米收量	容積	歩合
標準肥	三割肥	坊主二號	八月八日	八月八日	二二五日	八八七	一七	三三	三・八四	七九	三・八四	二・四九	六八
標準肥	三割肥	坊主二號	八月八日	八月八日	二二五日	八八七	一七	三三	三・八四	七九	三・八四	二・四九	六八
標準肥	三割肥	坊主二號	八月八日	八月八日	二二五日	八八七	一七	三三	三・八四	七九	三・八四	二・四九	六八

二、道内試験機關に於ける試験成績

試験機關名	品種名	出穂期		成熟期		生育日数	草丈	穂長	一穂数	平均			玄米重量	反當玄米收量
		昭和三十四年	昭和三十五年	昭和三十四年	昭和三十五年					昭和三十四年	昭和三十五年	昭和三十四年		
本場	坊主五號	八月二日	八月二日	九月二日	九月二日	一三四	八五二	一八八	二二	三三〇	三三〇	三三〇	三三〇	一〇八
		八月二日	八月二日	九月二日	九月二日	一三四	八五二	一八八	二二	三三〇	三三〇	三三〇	三三〇	三三〇
瀨棚試作場(普通地)	坊主五號	八月二日	八月二日	九月二日	九月二日	一三四	八五二	一八八	二二	三三〇	三三〇	三三〇	三三〇	一〇八
		八月二日	八月二日	九月二日	九月二日	一三四	八五二	一八八	二二	三三〇	三三〇	三三〇	三三〇	一〇八
瀨棚試作場(泥炭地)	坊主五號	八月二日	八月二日	九月二日	九月二日	一三四	八五二	一八八	二二	三三〇	三三〇	三三〇	三三〇	一〇八
		八月二日	八月二日	九月二日	九月二日	一三四	八五二	一八八	二二	三三〇	三三〇	三三〇	三三〇	一〇八
日高試作場	坊主五號	八月二日	八月二日	九月二日	九月二日	一三四	八五二	一八八	二二	三三〇	三三〇	三三〇	三三〇	一〇八
		八月二日	八月二日	九月二日	九月二日	一三四	八五二	一八八	二二	三三〇	三三〇	三三〇	三三〇	一〇八

三、道内各地に於ける委託試験成績

支店名	町村名	栽培法	試験地の土性		品種名	年次	出穂期	成熟期	草丈	一穂数	穂長	反當玄米收量
			表土	底土								
永山	丁目村	直播	砂壤	壤土	富國	昭四一五	八月二日	九月二日	八〇〇	二二	一〇八	一〇八
六丁	目村	直播	砂壤	壤土	富國	昭四一五	八月二日	九月二日	八〇〇	二二	一〇八	一〇八

支店名	町村名	栽培法	試験地の土性		品種名	年次	出穂期	成熟期	草丈	一穂数	穂長	反當玄米收量
			表土	底土								
永山	十五丁目村	同	同	同	富國	昭四一五	八月二日	九月二日	八〇〇	二二	一〇八	一〇八
東鷹	西村	同	同	同	富國	昭四一五	八月二日	九月二日	八〇〇	二二	一〇八	一〇八
神樂	村	同	同	同	富國	昭四一五	八月二日	九月二日	八〇〇	二二	一〇八	一〇八
東旭	川村	同	同	同	富國	昭四一五	八月二日	九月二日	八〇〇	二二	一〇八	一〇八
富良	野町	同	同	同	富國	昭四一五	八月二日	九月二日	八〇〇	二二	一〇八	一〇八
小平	藥村	同	同	同	富國	昭四一五	八月二日	九月二日	八〇〇	二二	一〇八	一〇八
羽幌	町	同	同	同	富國	昭四一五	八月二日	九月二日	八〇〇	二二	一〇八	一〇八
角田	村	同	同	同	富國	昭四一五	八月二日	九月二日	八〇〇	二二	一〇八	一〇八
岩見	澤町	同	同	同	富國	昭四一五	八月二日	九月二日	八〇〇	二二	一〇八	一〇八
西川	向東	同	同	同	富國	昭四一五	八月二日	九月二日	八〇〇	二二	一〇八	一〇八
空		同	同	同	富國	昭四一五	八月二日	九月二日	八〇〇	二二	一〇八	一〇八

管		廳								
納内村字納	納内村字 納内第八區	納内村字 納内第七區	納内村字 納内第七區	水一 源巴 區村	西一 北巴 星村	上 德 富	新十 津川 村	字 小 藤	深 川 町	月 南 形 地 村
同	同	直播	同	同	移植	直播	同	同	同	直播
同	壤土	砂壤土	砂壤土	砂壤土	腐植土	泥炭	泥炭	壤土	砂壤土	埴壤土
同	壤土	砂壤土	泥炭	埴土	埴土	泥炭	泥炭	砂壤土	砂土	埴土
富 國	石狩白毛 坊主五號	石狩白毛 坊主五號	石狩白毛 坊主五號	石狩白毛	石狩白毛	石狩白毛	石狩白毛	石狩白毛	石狩白毛	石狩白毛
昭 一五	昭 一五	昭 一五	昭 一五	昭 一五	昭 一五	昭 一五	昭 一五	昭 一五	昭 一五	昭 一五
八 七	八 一五	八 一三	八 一三	八 一六	八 一三	八 一三	八 一三	八 一三	八 一五	八 一三
九 二〇	九 二二	九 一七	九 一四	九 一三	九 一三	九 一三	九 一三	九 一五	九 一五	九 一五
七 〇〇	六 七〇	七 〇〇	六 七〇	六 六七	九 〇四	八 七五	九 〇九	八 八三	六 〇六	八 九四
一 七	二 一	一 三	二 〇	一 四	一 八	二 〇	二 二	二 〇	三 六	三 六
一 五三	一 五三	一 五三	一 五三	一 五三	一 五三	一 五三	一 五三	一 五三	一 五三	一 五三
一 九五二	二 五八六	二 七九〇	二 四九〇	二 四九六	二 四九六	三 九一九	三 三〇〇	二 〇〇	二 六三〇	四 四八二
一 〇〇	一 〇〇	一 〇〇	一 〇〇	一 〇〇	一 〇〇	一 〇〇	一 〇〇	一 〇〇	一 〇〇	一 〇〇
七 五五	八 〇九	七 五五	八 一五	七 四〇	七 四〇	七 四〇	七 四〇	七 四〇	七 四〇	七 四〇
等 外	等 外	等 外	等 外	等 外	等 外	等 外	等 外	等 外	等 外	等 外
五 一六	六 八八	五 一六	七 三八	三 〇〇	六 五〇	一 〇三	八 六〇	六 九〇	八 四〇	一 八五

支		知						
夕 沼 澤 町	角 田 村	砂 川 町	三 笠 山 村	栗 澤 村	北 美 田 村	川 見 澤 町	岩 見 澤 町	
移植	移植	同	同	直播	直播	移植	移植	
火山灰	壤土	埴壤土	砂壤土	埴壤土	埴土	泥炭	泥炭	
火山灰	埴壤土	埴壤土	埴土	埴壤土	埴土	泥炭	泥炭	
石狩白毛	石狩白毛	石狩白毛	石狩白毛	石狩白毛	石狩白毛	石狩白毛	石狩白毛	
同 一五	同 一五	同 一五	昭 一五	同 一五	同 一五	昭 一五	昭 一五	
八 一五	八 一五	八 一五	八 一五	八 一五	八 一五	八 一五	八 一五	
九 二五	九 二五	九 二五	九 二五	九 二五	九 二五	九 二五	九 二五	
八 九四	八 八八	八 七五	八 九四	八 六四	八 三〇	九 〇九	八 〇九	
二 一	一 五	二 一	二 〇	二 五	二 八	二 九	二 九	
二 五五	二 〇〇	一 六	一 四六	一 六	一 八	一 九	一 九	
四 一三	二 七三	三 四五六	三 三〇一	四 一三	同 四七六	同 五三四	同 五三四	
一 〇〇	一 〇〇	一 〇〇	一 〇〇	一 〇〇	一 〇〇	一 〇〇	一 〇〇	
八 一	八 三	七 九〇	七 四七	八 三	八 四〇	八 三	八 三	
中 真	中 真	中 真	同 真	同 真	同 真	同 真	同 真	
一 〇〇	一 〇〇	一 〇〇	一 〇〇	一 〇〇	一 〇〇	一 〇〇	一 〇〇	
六 〇〇	七 三〇	九 二四	八 八八	八 七三	九 四三	一 四六	九 八四	

品名	昭和十三年		昭和十四年		昭和十五年		平均		割合	歩合	重量	歩合	重量	歩合	重量	歩合	重量
	早生	中生	早生	中生	早生	中生	早生	中生									
早生富國	五月九日	五月九日	五月九日	五月九日	五月九日	五月九日	五月九日	五月九日	二二	無	無	無	無	無	無	無	六四
坊主六號	五月九日	五月九日	五月九日	五月九日	五月九日	五月九日	五月九日	五月九日	二二	無	無	無	無	無	無	無	六四
走坊主二號	五月九日	五月九日	五月九日	五月九日	五月九日	五月九日	五月九日	五月九日	二二	無	無	無	無	無	無	無	六四
富國	五月九日	五月九日	五月九日	五月九日	五月九日	五月九日	五月九日	五月九日	二二	無	無	無	無	無	無	無	六四
坊主五號	五月九日	五月九日	五月九日	五月九日	五月九日	五月九日	五月九日	五月九日	二二	無	無	無	無	無	無	無	六四

備考 一、本成績は標準栽培による調査成績にして昭和十四年の五月十七日、同十五年の五月十五日播以外は各年共五月十六日播なり。
 二、比較品種の「富國」及「坊主五號」は昭和十二年一箇年の成績なり。
 三、昭和十五年度は春季より中夏に互り天候不順にして變則を極め稻熱病の大發生被害に依る生育障害ありて特に出穂後に於ける調査は正鵠を期し難きを以て平均より除外せり。

(三) 收量調査 自昭和十二年至同十五年

(1) 標準肥栽培 直播

品名	昭和十三年		昭和十四年		昭和十五年		平均		割合	歩合	重量	歩合	重量	歩合	重量	歩合	重量
	早生	中生	早生	中生	早生	中生	早生	中生									
水稲農林二十號	四月三	四月三	四月三	四月三	四月三	四月三	四月三	四月三	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	四〇
早生富國	三月九	三月九	三月九	三月九	三月九	三月九	三月九	三月九	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	三六
坊主六號	三月九	三月九	三月九	三月九	三月九	三月九	三月九	三月九	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	三六
走坊主二號	三月九	三月九	三月九	三月九	三月九	三月九	三月九	三月九	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	三六
富國	三月九	三月九	三月九	三月九	三月九	三月九	三月九	三月九	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	三六
坊主五號	三月九	三月九	三月九	三月九	三月九	三月九	三月九	三月九	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	三六

(口) 多肥栽培 直播

品名	昭和十三年		昭和十四年		昭和十五年		平均		割合	歩合	重量	歩合	重量	歩合	重量	歩合	重量
	早生	中生	早生	中生	早生	中生	早生	中生									
水稲農林二十號	四月三	四月三	四月三	四月三	四月三	四月三	四月三	四月三	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	四〇
早生富國	三月九	三月九	三月九	三月九	三月九	三月九	三月九	三月九	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	三六
坊主六號	三月九	三月九	三月九	三月九	三月九	三月九	三月九	三月九	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	三六
走坊主二號	三月九	三月九	三月九	三月九	三月九	三月九	三月九	三月九	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	三六
富國	三月九	三月九	三月九	三月九	三月九	三月九	三月九	三月九	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	三六
坊主五號	三月九	三月九	三月九	三月九	三月九	三月九	三月九	三月九	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	三六

備考 一、標準栽培區に於ける「富國」(一貫)、過磷酸石灰二・二六・八(八貫)、硫酸加里二・一七・八(一貫)にして多肥栽培區に於ける施肥量は標準栽培區の金の五割増なり。
 二、播種期は昭和十四年の五月十七日、同十五年の五月十五日なるを除けば各年共五月十六日なり。
 三、坪當株數に一株播種粒數は七・二(七・五寸×六・六寸)二〇粒内外播種なり。
 四、昭和十五年は稻熱病大發生せる爲平均より除外せり。
 (口) 温床苗栽培(昭和十五年) 参考成績

品名	苗代	式別	活莖	生育	始出穂	期出穂	抽出	日數	抽出	期成熟	倒伏	病の	雀害	釋長	種長	種數	米收量	割合	米收量	反當	反當	品質
水稲農林二十號	折衷苗	温床苗	+	+	七月三	七月三	八月三	八二	五三	九二	無	無	無	七二	一六六	二〇	三、四〇七	一〇〇	二、二五	〇六六	中	下
早生富國	折衷苗	温床苗	+	+	七月三	七月三	八月三	八二	五三	九二	無	無	無	七二	一六六	二〇	三、四〇七	一〇〇	二、二五	〇六六	中	中
坊主六號	折衷苗	温床苗	+	+	七月三	七月三	八月三	八二	五三	九二	無	無	無	七二	一六六	二〇	三、四〇七	一〇〇	二、二五	〇六六	上	上
富國	折衷苗	温床苗	+	+	七月三	七月三	八月三	八二	五三	九二	無	無	無	七二	一六六	二〇	三、四〇七	一〇〇	二、二五	〇六六	中	中
水稲農林十五號	折衷苗	温床苗	+	+	七月三	七月三	八月三	八二	五三	九二	無	無	無	七二	一六六	二〇	三、四〇七	一〇〇	二、二五	〇六六	中	上

備考 一、折衷苗とは折衷式被覆苗代にて養成せる苗を使用せる區、温床苗とは簡易温床苗代に養成せる苗を使用せる區にして折衷苗は四月三十日播、五月二十九日植、温床苗は四月二十五日播、五月二十九日植なり。

二、坪當株数は孰れの場合も九〇株（一尺×四寸）にして一株本数は三本植なり。

三、本田施肥量は標準施肥量にして、その他一般耕種法は標準栽培に準じ特記すべき事項なし。

四、「水稻農林十五號」以外の比較品種は孰れも出穂後に於ける稻熱病の大被害に因り著しく減收せり。

二、道内農事試験機關に於ける試験成績

(一) 北見支場試験成績

(イ) 直播栽培 自昭和十三年至同十五年

品種名	出穂期		出穂日数		結實日数		生育日数		稻熱病の多少		倒伏の多少		草丈		稈長		稈數		米收量		反當玄米收量		反當玄米立一〇〇粒米		品質	稈當量
	月日	日	日	日	日	日	日	日	少	多	少	多	cm	cm	本	本	kg	kg	kg	kg	g	g	g	g		
水稻農林二十號	八	二	六	七	九	三	三	二	無	少	無	少	七	一四〇	三三	三三	三三	三三	三三	三三	三三	三三	三三	三三	上	四七〇
早生富國	八	二	六	七	九	三	三	二	無	少	無	少	七	一四〇	三三	三三	三三	三三	三三	三三	三三	三三	三三	中	四三〇	
坊主六號	八	二	六	七	九	三	三	二	無	少	無	少	七	一四〇	三三	三三	三三	三三	三三	三三	三三	三三	三三	中	四三〇	
走坊主	八	二	六	七	九	三	三	二	無	少	無	少	七	一四〇	三三	三三	三三	三三	三三	三三	三三	三三	三三	中	四三〇	
富國	八	二	六	七	九	三	三	二	無	少	無	少	七	一四〇	三三	三三	三三	三三	三三	三三	三三	三三	三三	中	四三〇	

備考 一、比較品種の富國は昭和十五年のみ供試せるを以て他の年次の成績を欠く。

二、本試験は標準耕種法に依り施行し播種期は昭和十三年の五月二十二日なる以外は各年共五月二十五日にして、陌當施肥量は堆肥一、〇〇〇斤、魚粕四五〇斤、硫酸アンモニア二二〇斤、精過燐酸石灰一九〇斤、硫酸加里七〇斤を配合し基肥として施用せり。

三、表中〇内數字は平均年數を示す。

(ロ) 温床苗栽培 昭和十五年

品種名	出穂期		出穂日数		結實日数		生育日数		稻熱病の多少		倒伏の多少		草丈		稈長		稈數		米收量		反當玄米收量		反當玄米立一〇〇粒米		品質	稈當量
	月日	日	日	日	日	日	日	日	少	多	少	多	cm	cm	本	本	kg	kg	kg	kg	g	g	g	g		
水稻農林二十號	八	二	六	七	九	三	三	二	無	少	無	少	七	一四〇	三三	三三	三三	三三	三三	三三	三三	三三	三三	上	四七〇	
早生富國	八	二	六	七	九	三	三	二	無	少	無	少	七	一四〇	三三	三三	三三	三三	三三	三三	三三	三三	三三	中	四三〇	
坊主六號	八	二	六	七	九	三	三	二	無	少	無	少	七	一四〇	三三	三三	三三	三三	三三	三三	三三	三三	三三	中	四三〇	
富國	八	二	六	七	九	三	三	二	無	少	無	少	七	一四〇	三三	三三	三三	三三	三三	三三	三三	三三	三三	中	四三〇	
チンコ坊主二號	八	二	六	七	九	三	三	二	無	少	無	少	七	一四〇	三三	三三	三三	三三	三三	三三	三三	三三	三三	中	四三〇	

(二) 美深試作場試験成績

(イ) 直播栽培 自昭和十三年至同十五年

品種名	出穂期		出穂日数		結實日数		生育日数		稻熱病の多少		倒伏の多少		草丈		稈長		稈數		米收量		反當玄米收量		反當玄米立一〇〇粒米		品質	稈當量
	月日	日	日	日	日	日	日	日	少	多	少	多	cm	cm	本	本	kg	kg	kg	kg	g	g	g	g		
水稻農林二十號	八	二	六	七	九	三	三	二	無	少	無	少	七	一四〇	三三	三三	三三	三三	三三	三三	三三	三三	三三	上	四七〇	
早生富國	八	二	六	七	九	三	三	二	無	少	無	少	七	一四〇	三三	三三	三三	三三	三三	三三	三三	三三	三三	中	四三〇	
坊主六號	八	二	六	七	九	三	三	二	無	少	無	少	七	一四〇	三三	三三	三三	三三	三三	三三	三三	三三	三三	中	四三〇	
走坊主	八	二	六	七	九	三	三	二	無	少	無	少	七	一四〇	三三	三三	三三	三三	三三	三三	三三	三三	三三	中	四三〇	
富國	八	二	六	七	九	三	三	二	無	少	無	少	七	一四〇	三三	三三	三三	三三	三三	三三	三三	三三	三三	中	四三〇	
早生白毛	八	二	六	七	九	三	三	二	無	少	無	少	七	一四〇	三三	三三	三三	三三	三三	三三	三三	三三	三三	中	四三〇	

備考 一、比較品種の「富國」及「早生白毛」は昭和十五年のみ供試せり。

二、本試験は標準耕種法に依り施行し、播種期は昭和十三年の五月十六日なりし以外は各年共五月十八日にして、陌當施肥量は堆肥七、五〇〇斤、魚粕一九〇斤、硫酸アンモニア八〇斤、過燐酸石灰三〇〇斤を使用せり。

(ロ) 温床苗栽培 昭和十五年

品種名	出穂期	成熟期	結實日数	稲熱病の多少	稲泥負の多少	倒伏の少	草丈	穂長	穂数	米収量	割合	反當玄米容量	立重量	一玄米重量	一玄米容重	品質	稈重
水稻農林二十號	八月九日	九月二日	五〇日	無	無	無	九〇	一七六	二〇	四四二	一〇四	二〇〇	八五五	三三〇	中	二	三六〇
早生富國	八月二日	九月〇日	五〇日	少	無	無	九〇	一七八	二〇	四四二	一〇四	二〇〇	八五五	三三〇	上	二	三六〇
坊主六號	八月二日	九月〇日	五〇日	同	同	同	九〇	一七八	二〇	四四二	一〇四	二〇〇	八五五	三三〇	中	二	三六〇
早生白毛	八月二日	九月〇日	五〇日	同	同	同	九〇	一七八	二〇	四四二	一〇四	二〇〇	八五五	三三〇	上	二	三六〇
富國	八月二日	九月〇日	五〇日	少	無	無	九〇	一七八	二〇	四四二	一〇四	二〇〇	八五五	三三〇	中	二	三六〇

備考 温床苗代に四月二十七日播種し本田に五月三十日挿秧せり。而して坪當株数は六四株、一株栽植本数は二本とし、その他の耕種法は一般に準じ施行せり。

(三) 本場試験成績(直播栽培) 昭和十五年

品種名	出穂期	日穂数	日穂出数	成熟期	結實日数	生育日数	稲熱病の多少	稲泥負の多少	倒伏の少	草丈	穂長	穂数	米収量	割合	反當玄米容量	立重量	一玄米重量	一玄米容重	品質	稈重
水稻農林二十號	八月五日	六四	六〇	九月七日	三三	二二	無	無	無	七三	一七八	二四	三三三	一〇二	二〇〇	八六〇	二九二	下	三三三	
早生富國	八月七日	六六	六三	九月二日	三三	二二	無	無	無	七三	一七八	二四	三三三	一〇二	二〇〇	八六〇	二九二	上	三三三	
坊主一六號	八月七	六六	六三	九月二	三三	二二	無	無	無	七三	一七八	二四	三三三	一〇二	二〇〇	八六〇	二九二	上	三三三	
富國	八月二	一〇六	九一	九月二	三三	二二	無	無	無	七三	一七八	二四	三三三	一〇二	二〇〇	八六〇	二九二	中	三三三	
チンコ坊主二號	八月二	九六	九一	九月二	三三	二二	無	無	無	七三	一七八	二四	三三三	一〇二	二〇〇	八六〇	二九二	下	三三三	
走坊主二號	八月五	三九	三〇	九月九	三五	二二	無	無	無	七三	一七八	二四	三三三	一〇二	二〇〇	八六〇	二九二	下	三三三	

備考 本試験は標準耕種法に依り施行し播種期は五月十七日、陌當施肥量は標準肥料にして堆肥一、三五〇疋、魚粕三八〇疋、精過燐酸石灰二〇〇疋なり。

(四) 十勝支場試験成績(直播栽培) 昭和十三年

品種名	出穂期	日穂数	成熟期	結實日数	生育日数	稲熱病の多少	稲泥負の多少	倒伏の少	草丈	穂長	穂数	米収量	割合	反當玄米容量	立重量	一玄米重量	一玄米容重	品質	稈重
水稻農林二十號	八月三日	八八	九月九日	四八	二六	無	無	無	六二	二一八	一九	二二五	一〇三	二〇〇	八二〇	二七六	三	二七六	
坊主六號	八月六	九三	九月九日	四八	二六	無	無	無	六二	二一八	一九	二二五	一〇三	二〇〇	八二〇	二七六	三	二七六	
坊主五號	八月八	九四	九月九日	四八	二六	無	無	無	六二	二一八	一九	二二五	一〇三	二〇〇	八二〇	二七六	三	二七六	
走坊主二號	八月九	八五	九月九日	四八	二六	無	無	無	六二	二一八	一九	二二五	一〇三	二〇〇	八二〇	二七六	三	二七六	

備考 陌當施肥量は標準肥料にして堆肥七、五〇〇疋、魚粕三七五疋、過燐酸石灰一八七疋、硫酸加里七五疋なり。その他一般に準じ特記すべき事項なし。

(五) 日高試作場試験成績(直播栽培) 昭和十五年

品種名	出穂期	日穂数	成熟期	結實日数	生育日数	草丈	穂数	米収量	割合	反當玄米容量	立重量	一玄米重量	一玄米容重	品質	稈重
水稻農林二十號	八月二日	八二	九月二日	五〇	二二	九〇	二四	三二五	一〇七	二〇六	七五七	三二五	四	四二〇	
早生富國	八月二日	八二	九月二日	五〇	二二	九〇	二四	三二五	一〇七	二〇六	七五七	三二五	四	四二〇	
坊主六號	八月二日	八二	九月二日	五〇	二二	九〇	二四	三二五	一〇七	二〇六	七五七	三二五	四	四二〇	
富國	八月二日	八二	九月二日	五〇	二二	九〇	二四	三二五	一〇七	二〇六	七五七	三二五	四	四二〇	
坊主二號	八月二日	八二	九月二日	五〇	二二	九〇	二四	三二五	一〇七	二〇六	七五七	三二五	四	四二〇	
走坊主二號	八月二日	八二	九月二日	五〇	二二	九〇	二四	三二五	一〇七	二〇六	七五七	三二五	四	四二〇	

備考 本試験は標準耕種法に依り施行し播種期は五月二十一日なり。

(六) 俱知安試作場試験成績(直播栽培) 昭和十五年

(イ) 標準肥栽培

品名	出穂期	出穂日数	成熟期	結實日数	生育日数	稲熱病の多少	稲泥負倒伏の多少	草丈	穂長	穂数	米収量		反當量	容重	品質	備考
											米収量	割合量				
水稲農林二十號	八月四日	九三	九月八日	四四	一三六	無	無	七六	一三三	二七	二七	二三八	二二	七六	四	
早生富國	八月四日	九三	九月八日	四四	一三六	無	無	七六	一三三	二七	二七	二三八	二二	七六	四	
坊主六號	八月四日	九三	九月八日	四四	一三六	無	無	七六	一三三	二七	二七	二三八	二二	七六	四	
富主二號	八月四日	九三	九月八日	四四	一三六	無	無	七六	一三三	二七	二七	二三八	二二	七六	四	
走坊主二號	八月四日	九三	九月八日	四四	一三六	無	無	七六	一三三	二七	二七	二三八	二二	七六	四	

(ロ) 多肥栽培

品名	出穂期	出穂日数	成熟期	結實日数	生育日数	稲熱病の多少	稲泥負倒伏の多少	草丈	穂長	穂数	米収量		反當量	容重	品質	備考
											米収量	割合量				
水稲農林二十號	八月五日	九三	九月九日	四五	一三六	無	無	七六	一三三	二七	二七	二三八	二二	七六	四	
早生富國	八月五日	九三	九月九日	四五	一三六	無	無	七六	一三三	二七	二七	二三八	二二	七六	四	
坊主六號	八月五日	九三	九月九日	四五	一三六	無	無	七六	一三三	二七	二七	二三八	二二	七六	四	
富主二號	八月五日	九三	九月九日	四五	一三六	無	無	七六	一三三	二七	二七	二三八	二二	七六	四	

備考 本試験は標準耕種法に依り施行し播種期は五月二十六日にして、陌當施肥量は標準施肥量の場合に堆肥一〇、〇〇〇疋、魚粕二七〇疋、硫酸アンモニア二〇疋、精過燐酸石灰三〇〇疋、硫酸加里一〇〇疋を多肥栽培の場合以上の五割増を施用せり。

(イ) 普通地水田

品名	出穂期	出穂日数	成熟期	結實日数	生育日数	稲熱病の多少	稲泥負倒伏の多少	草丈	穂長	穂数	米収量		反當量	容重	品質	備考
											米収量	割合量				
水稲農林二十號	八月二日	九四	九月六日	四五	一三六	無	少	八二	一四四	二二	二二	二七〇	二〇	八二	四	

(ロ) 泥炭地水田

品名	出穂期	出穂日数	成熟期	結實日数	生育日数	稲熱病の多少	稲泥負倒伏の多少	草丈	穂長	穂数	米収量		反當量	容重	品質	備考
											米収量	割合量				
早生富國	八月五日	九三	九月九日	四五	一三六	無	無	七六	一三三	二七	二七	二三八	二二	七六	四	
坊主六號	八月五日	九三	九月九日	四五	一三六	無	無	七六	一三三	二七	二七	二三八	二二	七六	四	
坊主二號	八月五日	九三	九月九日	四五	一三六	無	無	七六	一三三	二七	二七	二三八	二二	七六	四	

備考 本試験は標準耕種法に依り施行し播種期は五月十日、本田播種期は六月二十日にして本田陌當施肥量は堆肥七、五〇〇疋、魚粕二二〇疋、硫酸アンモニア七五疋、精過燐酸石灰二六〇疋、硫酸加里七五疋なり。

三、道内各地に於ける委託試験成績

(一) 上川支廳管内に於ける試験成績

委託地	町村	別形	土質	肥沃度	施肥量	品名	試験年次	出穂期	成熟期	長	穂長	穂数	反當量		容重	品質	備考
													米収量	割合量			
						水稲農林二十號	昭和十年	八月一日	九月八日	一五〇	二七	二七	二三八	二二	七六	四	

(二) 留萌支廳管内に於ける試験成績 昭和十五年

町 深 美				村 川 下				町 寄 名 中				村			
部 間 山 中				部 間 山 中				部 間 山 中				部			
土 壤		土 壤 砂		土 壤 埴		土 壤 埴		土 壤 埴		土 壤 埴		土 壤 埴		土 壤 埴	
通 普		通 普		薄 瘠		薄 瘠		沃 肥		沃 肥		薄 瘠		薄 瘠	
肥 準 標		肥 準 標		肥 少		肥 少		肥 多		肥 多		肥 準 標		肥 準 標	
地 害 冷		地 害 冷		地 害 冷		地 害 冷		地 害 冷		地 害 冷		地 害 冷		地 害 冷	
富 坊 早 水		富 坊 早 水		富 坊 早 水		富 坊 早 水		富 坊 早 水		富 坊 早 水		富 坊 早 水		富 坊 早 水	
主 生 農		主 生 農		主 生 農		主 生 農		主 生 農		主 生 農		主 生 農		主 生 農	
六 富 二十		六 富 二十		六 富 二十		六 富 二十		六 富 二十		六 富 二十		六 富 二十		六 富 二十	
國 號 國 號		國 號 國 號		國 號 國 號		國 號 國 號		國 號 國 號		國 號 國 號		國 號 國 號		國 號 國 號	
同		同		同		同		同		同		同		同	
八・一〇	八・一七	八・一八	八・一八	八・一〇	八・一六	八・一六	八・一六	八・一七	八・一八	八・一八	八・一八	八・一七	八・一七	八・一七	八・一七
不達	一〇・一	一〇・三	一〇・三	一〇・五	九・二八	九・二七	九・二七	一〇・二	九・三〇	九・三〇	九・三〇	九・三二	九・三二	九・三二	九・三二
八三	八三	八〇	八八	七四	七三	七三	七三	七三	七〇	七〇	七〇	七〇	七〇	七〇	七〇
一五・四	一六・三	一五・四	一六・〇	一四・三	一四・九	一四・三	一五・二	一七・一	一八・九	一五・三	一五・一	一四・三	一四・三	一四・三	一四・三
二四	二六	二四	二三	二三	二七	二五	二三	三三	一八	一六	一六	四〇	三三	三三	三三
一〇三・九	一三九・一	一二九・四	一三七・六	一〇五・八	一二三・三	一二三・三	一七〇	一四〇	一五〇	一三〇	一三〇	八〇・六	八〇・六	一三二・九	九三・三
七・一	一〇・七	一〇・三	一〇・七	八・三	九・五	八・九	九・八	四・七	五・八	五・八	六・四	五・五	五・一	九・三	一〇・三
七	一〇六	一〇〇	一〇七	九五	一二二	一〇〇	一〇七	八六	九七	一〇〇	一〇四	一〇一	一〇一	一六四	一六四
二〇三	二七五	二六五	二八〇	二・七	二・五	二・三	二・四	一・三	一・四	一・四	一・三	一・五	一・五	二・四	二・四
				霜害			稻熱病中				稻熱病中				稻熱病中

(八) 宗谷線和寒以北地方

連 風		町 別 士 下 字		別 町 村		試驗 地 の 概 況		品 種 名		年 次 試 驗		期 礎 出		期 熟 成		長 稈		長 穗		數 穗		重 精 量 粗 重 玄 量 米		收 割 量 容 量 容 量		備 考			
坦 平		部 坦 平		形 地		質 土 肥 沃 量 肥 沃 量 肥 沃 量		水 稻 農 林 二 十 號		十 昭 五 年 和		八 月 八 日		九 月 三 日		六 尺		一 尺 三 寸		一 尺 三 寸		一 尺 三 寸		一 尺 三 寸		同 霜 害			
土 埴 強	土 埴 強	土 壤 埴	土 壤 埴	土 壤 埴	土 壤 埴	土 壤 埴	土 壤 埴	富 坊 早 水	富 坊 早 水	富 坊 早 水	富 坊 早 水	八・一七	八・二五	九・三二	九・四〇	六尺	六尺	一尺三寸	一尺三寸	一尺三寸	一尺三寸	一尺三寸	一尺三寸	一尺三寸	一尺三寸	同	同	倒伏多	
通 普	通 普	同	同	同	同	同	同	富 坊 早 水	富 坊 早 水	富 坊 早 水	富 坊 早 水	八・二五	八・三三	九・三九	九・四七	六尺	六尺	一尺三寸	一尺三寸	一尺三寸	一尺三寸	一尺三寸	一尺三寸	一尺三寸	一尺三寸	同	同	霜害	
肥 準 標	肥 準 標	肥 少 稍	肥 少 稍	肥 準 標	肥 準 標	肥 準 標	肥 準 標	富 坊 早 水	富 坊 早 水	富 坊 早 水	富 坊 早 水	八・二五	八・三三	九・三九	九・四七	六尺	六尺	一尺三寸	一尺三寸	一尺三寸	一尺三寸	一尺三寸	一尺三寸	一尺三寸	一尺三寸	同	同	霜害	
地 害 冷	地 害 冷	地 害 冷	地 害 冷	地 害 冷	地 害 冷	地 害 冷	地 害 冷	富 坊 早 水	富 坊 早 水	富 坊 早 水	富 坊 早 水	八・二五	八・三三	九・三九	九・四七	六尺	六尺	一尺三寸	一尺三寸	一尺三寸	一尺三寸	一尺三寸	一尺三寸	一尺三寸	一尺三寸	同	同	霜害	
富 坊 早 水	富 坊 早 水	富 坊 早 水	富 坊 早 水	富 坊 早 水	富 坊 早 水	富 坊 早 水	富 坊 早 水	富 坊 早 水	富 坊 早 水	富 坊 早 水	富 坊 早 水	八・二五	八・三三	九・三九	九・四七	六尺	六尺	一尺三寸	一尺三寸	一尺三寸	一尺三寸	一尺三寸	一尺三寸	一尺三寸	一尺三寸	同	同	霜害	
主 生 農	主 生 農	主 生 農	主 生 農	主 生 農	主 生 農	主 生 農	主 生 農	主 生 農	主 生 農	主 生 農	主 生 農	八・二五	八・三三	九・三九	九・四七	六尺	六尺	一尺三寸	一尺三寸	一尺三寸	一尺三寸	一尺三寸	一尺三寸	一尺三寸	一尺三寸	同	同	霜害	
六 富 二十	六 富 二十	六 富 二十	六 富 二十	六 富 二十	六 富 二十	六 富 二十	六 富 二十	六 富 二十	六 富 二十	六 富 二十	六 富 二十	八・二五	八・三三	九・三九	九・四七	六尺	六尺	一尺三寸	一尺三寸	一尺三寸	一尺三寸	一尺三寸	一尺三寸	一尺三寸	一尺三寸	同	同	霜害	
國 號 國 號	國 號 國 號	國 號 國 號	國 號 國 號	國 號 國 號	國 號 國 號	國 號 國 號	國 號 國 號	國 號 國 號	國 號 國 號	國 號 國 號	國 號 國 號	八・二五	八・三三	九・三九	九・四七	六尺	六尺	一尺三寸	一尺三寸	一尺三寸	一尺三寸	一尺三寸	一尺三寸	一尺三寸	一尺三寸	同	同	霜害	
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	八・二五	八・三三	九・三九	九・四七	六尺	六尺	一尺三寸	一尺三寸	一尺三寸	一尺三寸	一尺三寸	一尺三寸	一尺三寸	一尺三寸	同	同	霜害	

備考 昭和九年に於ける「走坊主二號」は「走坊主」とす。

(三) 播種期調査 自昭和十三年至同十四年

品種名	號九十林農稻水				號二主坊走			
	播種期	出穂期	成熟期	草丈	播種期	出穂期	成熟期	草丈
五月十五日	八・五	九・九	八・三	八・八	五月十五日	八・八	九・三	八・九
五月二十日	八・六	九・九	八・三	八・八	五月二十日	八・八	九・三	八・九
五月二十五日	八・八	九・九	八・三	八・八	五月二十五日	八・八	九・三	八・九
五月三十日	八・九	九・九	八・三	八・八	五月三十日	八・八	九・三	八・九
六月四日	八・二	九・三	八・三	八・八	六月四日	八・二	九・三	八・八

品種名	播種期	出穂期	成熟期	草丈	莖數	穗長	米收量	割收量	一立重量	米重量	品質	反當莖重量	反當米收量
五月十五日		八・五	九・九	八・三	八・八	八・八	三・〇七	一〇〇	七九三	三・三〇	一	二・八〇	七・〇
五月二十日		八・六	九・九	八・三	八・八	八・八	三・〇七	一〇〇	七九三	三・三〇	一	二・八〇	七・〇
五月二十五日		八・八	九・九	八・三	八・八	八・八	三・〇七	一〇〇	七九三	三・三〇	一	二・八〇	七・〇
五月三十日		八・九	九・九	八・三	八・八	八・八	三・〇七	一〇〇	七九三	三・三〇	一	二・八〇	七・〇
六月四日		八・二	九・三	八・三	八・八	八・八	三・〇七	一〇〇	七九三	三・三〇	一	二・八〇	七・〇

(四) 栽植密度調査 自昭和十二年(但し「走坊主」は自昭和十三年至同十四年) 自昭和十五年とす

品種名	畦幅	號九十林農稻水		號二主坊走	
		出穂期	成熟期	出穂期	成熟期
畦幅 株間	七寸五分×六寸七分	八・四	九・四	八・四	九・四
	八寸五分×四寸	八・四	九・四	八・四	九・四
	一尺×三寸	八・四	九・四	八・四	九・四
	八寸五分×五寸	八・四	九・四	八・四	九・四

品種名	畦幅	株間	出穂期	成熟期	草丈	莖數	穗長	米收量	割收量	一立重量	米重量	品質	反當莖重量	反當米收量
七寸五分×六寸七分			八・四	九・四	八・四	九・四	八・四	三・六〇	一〇〇	七九三	三・三〇	一	二・五七	六・三
八寸五分×四寸			八・四	九・四	八・四	九・四	八・四	三・六〇	一〇〇	七九三	三・三〇	一	二・五七	六・三
一尺×三寸			八・四	九・四	八・四	九・四	八・四	三・六〇	一〇〇	七九三	三・三〇	一	二・五七	六・三
八寸五分×五寸			八・四	九・四	八・四	九・四	八・四	三・六〇	一〇〇	七九三	三・三〇	一	二・五七	六・三

(五) 播種量調査 自昭和十二年(但し一株苗木本數五本は自昭和十三年とす) 至同十四年

品種名	一株苗木本數	號九十林農稻水		號二主坊走	
		出穂期	成熟期	出穂期	成熟期
一株苗木本數	五本	八・七	九・九	八・七	九・九
	五本	八・七	九・九	八・七	九・九
	五本	八・七	九・九	八・七	九・九
	五本	八・七	九・九	八・七	九・九

品種名	一株苗木本數	出穂期	成熟期	草丈	莖數	穗長	米收量	割收量	一立重量	米重量	品質	反當莖重量	反當米收量
五本	五本	八・七	九・九	八・七	九・九	九・九	三・〇七	一〇〇	七九三	三・三〇	一	二・六〇	五・四
五本	五本	八・七	九・九	八・七	九・九	九・九	三・〇七	一〇〇	七九三	三・三〇	一	二・六〇	五・四
五本	五本	八・七	九・九	八・七	九・九	九・九	三・〇七	一〇〇	七九三	三・三〇	一	二・六〇	五・四
五本	五本	八・七	九・九	八・七	九・九	九・九	三・〇七	一〇〇	七九三	三・三〇	一	二・六〇	五・四

號二	三五本	八、六日	九、八日	三七	三五	三六	二四本	一五五	三四五	九	七〇	三三	一	三、五六	二、四三	六、六
三五本	八、六日	九、八日	三七	三五	三六	二四本	一五五	三四五	九	七〇	三三	一	三、五六	二、四三	六、六	

二、北見支場試験成績

品 種 名	出 穂 期	成 熟 期	草 丈	草 莖 歩 合	隔 當 玄 米 收 量		平均	收 割 合	收 割 重 量	一 玄 米 重 量	反 當 玄 米 收 量	備 考
					昭 和 十 一 年	同 十 二 年						
走坊主二號	八、八日	八、九日	八、三	七、九	四、七	四、七	四、七	一〇〇	四、三	八、三	三、八	中
水稻農林十九號	八、六日	八、六日	八、三	七、九	四、七	四、七	四、七	一〇〇	四、三	八、三	三、八	中

三、野付牛經營試驗農場に於ける試験成績

品 種 名	出 穂 期	成 熟 期	草 丈	草 莖 歩 合	反 當 玄 米 收 量		收 割 合	收 割 重 量	一 玄 米 重 量	反 當 玄 米 收 量	備 考
					昭 和 十 一 年	同 十 二 年					
走坊主二號	八、八日	八、九日	八、三	七、九	四、七	四、七	四、七	一〇〇	四、三	八、三	中
水稻農林十九號	八、六日	八、六日	八、三	七、九	四、七	四、七	四、七	一〇〇	四、三	八、三	中

四、道内各地に於ける委託試験成績

試 驗 施 行 所	品 種 名	試 驗 年 次	出 穂 期	成 熟 期	長 稈	長 穗	穗 數	隔 當 玄 米 收 量	收 割 合	收 割 重 量	一 玄 米 重 量	反 當 玄 米 收 量	備 考
上川郡士別町	水稻農林十九號	昭和十一年	八、八日	八、九日	八、三	七、九	四、七	四、七	四、七	四、七	八、三	三、八	中
上川郡士別町	水稻農林十九號	昭和十二年	八、八日	八、九日	八、三	七、九	四、七	四、七	四、七	四、七	八、三	三、八	中

試 驗 所	品 種 名	出 穂 期	成 熟 期	草 丈	草 莖 數	反 當 玄 米 收 量					收 割 合	收 割 重 量	一 玄 米 重 量	反 當 玄 米 收 量	備 考
						昭 和 十 一 年	同 十 二 年	同 十 三 年	同 十 四 年	平 均					
上川郡馬用地	水稻農林十九號	昭和十二年	八、八日	八、九日	八、三	七、九	四、七	四、七	四、七	四、七	八、三	三、八	中	埴 土	
上川郡別村	水稻農林十九號	昭和十三年	八、八日	八、九日	八、三	七、九	四、七	四、七	四、七	四、七	八、三	三、八	中	砂 壤 土	
上川郡別村	水稻農林十九號	昭和十四年	八、八日	八、九日	八、三	七、九	四、七	四、七	四、七	四、七	八、三	三、八	中	埴 土	

試 驗 所	品 種 名	出 穂 期	成 熟 期	草 丈	草 莖 數	反 當 玄 米 收 量					收 割 合	收 割 重 量	一 玄 米 重 量	反 當 玄 米 收 量	備 考
						昭 和 十 一 年	同 十 二 年	同 十 三 年	同 十 四 年	平 均					
北川郡劍淵村	水稻農林十九號	昭和十四年	八、八日	八、九日	八、三	七、九	四、七	四、七	四、七	四、七	八、三	三、八	中	泥 炭 土	
中川郡美深町	水稻農林十九號	昭和十四年	八、八日	八、九日	八、三	七、九	四、七	四、七	四、七	四、七	八、三	三、八	中	砂 壤 土	
中川郡美深町	水稻農林十九號	昭和十四年	八、八日	八、九日	八、三	七、九	四、七	四、七	四、七	四、七	八、三	三、八	中	埴 土	

下湧別村	美幌町	留邊藥町	瀧の上村
走坊主二號 水稻農林十九號	走坊主二號 水稻農林十九號	走坊主二號 水稻農林十九號	走坊主二號 水稻農林十九號
八・八 九・〇	八・九 九・二	八・八 九・二	八・五 九・三
二八〇	二七三	二九〇	二七七
三	三	三	三
八五八	九七六	一〇四七	八二二
八五八	一〇三九	一〇四七	九五〇
一〇三	一〇三	一〇五	一〇八
七四・四	二二六	二八八	八八・九
四〇二	三九三	四〇三	三六九
二・四〇	二・五五〇	二・七〇七	二・四〇三
五〇	六・四	六・八	六・〇
上	上	中の上	中の上

(四) 水稻「巴錦」に関する試験成績

本品種は渡島支場に於て昭和十年品種特性調査區に栽培せる「水稻農林一號」中に發見せし早熟にして、赤褐短芒を有する一個體(其の形質分離の状態より見て、昭和九年「水稻農林一號」に於て自然交配の行はれたるものに由來するものと認めらる。)を繼續栽培し選抜固定を圖り育成せるものにして、試験の結果従來の品種に比し實用的特性優秀なるを以て、「巴錦」と命名し道南溫暖地帯の晩熟種として渡島支廳管内龜田郡、上磯郡、松前郡、檜山支廳管内檜山郡、爾志郡並に同上地方及其他の比較的溫暖なる地帯の温床育苗栽培用品種として普及獎勵することに決定せり。

本品種は出穂期は「萬太郎米」と等しく「南光」に比すれば二、三日遅きも「玉光」に比すれば二、三日早く「渡島錦」と大差なし。成熟期は「萬太郎米」より一週間内外遅く、「南光」、「玉光」と大差なく「渡島錦」に比すれば一週間内外早し。又莖稈は細く短く多稈にして、穂揃並に稔實は良好なり。

玄米は中形、大粒、豊滿にして色澤良好、「萬太郎米」に比すれば遙に良質なるも「南光」、「玉光」、「渡島錦」に比すれば腹白稍多く品質稍劣る。

稻熱病耐病性に關しては發病し易き環境に於て栽培し、稻熱病、穂頸稻熱病及節稻熱病の發病状態を調査觀察せる結果本品種は「萬太郎米」、「玉光」に比較し耐病性遙に強く「南光」、「渡島錦」、「富國」、「早生白毛」其の他の主要品種に比較するも耐病性強きを認めたり。

播種期及挿秧期を遅延せしめて異常環境に於ける特性の變異を調査せるに、出穂期の遅延は「南光」、「萬太郎米」、「玉光」に比較せば大差なきも、「渡島錦」に比較せば稍少なく不稔歩合は少なかりき。

冷水抵抗性に關しては冷水灌溉による出穂遅延は普通にして「南光」、「萬太郎米」、「玉光」、「渡島錦」等と大差なく、不稔歩合は「玉光」、「渡島錦」と大差なきも、「南光」、「萬太郎米」に比すれば稍大なり。莖稈重量歩合は各比較品種と大差なく穂重の低下普通なり。本品種は「南光」、「萬太郎米」に比較せば冷水抵抗性稍弱きが如きも「玉光」に比すれば稍強く、「渡島錦」と大差なきが如く認めらる。

倒伏抵抗性は「萬太郎米」、「渡島錦」に比すれば遙に強く「南光」に比するも稍抵抗性大なりと認めらる。

収量は「南光」、「萬太郎米」に比較し極めて多收にして「玉光」、「渡島錦」に比するも一割乃至二割五分の増收を示し、又、温床育苗栽培に於ても「玉光」に比し一割六分「渡島錦」に比し二割内外の増收を示せり。

各地試作の成績によるも比較品種に比し増收度大にして、耐病性強きを以て稻熱病發生地帯に於ても極めて良成績を示せり。其の成績左の如し

一、渡島支場試験成績

(一) 特性調査

品種名	稈		葉		稈の長さ	葉の長さ	葉の幅	葉の厚み	葉の密度	葉の質	葉の水分	葉の糖度	葉のタンパク質	葉の繊維	葉の消化性
	別	太	細	剛											
波島錦	同	細	中	剛	中	中	中	中	中	中	中	中	中	中	中
萬太郎米	同	太	中	剛	中	中	中	中	中	中	中	中	中	中	中
玉光	同	中	剛	稀	中	中	中	中	中	中	中	中	中	中	中
南光	同	細	中	稀	短	中	中	中	中	中	中	中	中	中	中
巴錦	同	細	剛	無	中	中	中	中	中	中	中	中	中	中	中
品	別	太	細	剛	長	葉	葉	葉	葉	葉	葉	葉	葉	葉	葉
種	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の
名	程	程	程	程	程	程	程	程	程	程	程	程	程	程	程

備考 一、本成績は標準栽培区に於ける自昭和十四年同十五年の調査結果にして、内剛度、精白歩合、釜殖歩合は昭和十五年一箇年の調査結果なり。

- 二、精白は二瓶式打撃精白法により一等級精白程度とせり。
- 三、釜殖歩合は内徑三厘長さ一七種の梗質ガラス測容管を用ひ、蒸氣により煮沸し之に輕油を用ひ、眞の容積の増加割合を測定せるものなり。
- 四、稻熱病耐病性は發病し易き環境たる畑地栽培、晚植多肥栽培及多肥栽培をなし、適宜目的に應じ、調査觀察せる成績の概評なり。
- 五、冷水抵抗性は圃場の一邊より灌漑水を掛流し、此の邊に直角に各品種を栽培し、灌漑水温の差による生育の差異を調査せる成績の概評なり。
- 六、倒伏抵抗性は標準施肥量の倍量を施用し栽培せるものに就き調査觀察せる結果の概評なり。

(二) 生育調査

(イ) 普通栽培 自昭和十四年同十五年

品	發芽	出穂	日	成	日	稻	節	二	倒	長	長	數	摘
種													
波島錦	中	八月三	八月	八月	八月	少	中	中	中	中	中	中	中
萬太郎米	中	八月三	八月	八月	八月	少	中	中	中	中	中	中	中
玉光	中	八月四	八月	八月	八月	少	中	中	中	中	中	中	中
南光	中	八月八	八月	八月	八月	少	中	中	中	中	中	中	中
巴錦	中	八月三	八月	八月	八月	少	中	中	中	中	中	中	中

備考 一、本成績は標準肥料栽培区に於ける調査成績にして栽培距離二二二種×二二種、一株七、八本植なり。

二、「波島錦」は昭和十五年一箇年の成績なり。

(ロ) 直播栽培 昭和十五年

品	發芽	出穂	日	成	日	稻	節	二	倒	長	長	數	摘
種													
波島錦	中	八月四	八月	八月	八月	少	中	中	中	中	中	中	中
萬太郎米	中	八月三	八月	八月	八月	少	中	中	中	中	中	中	中
玉光	中	八月五	八月	八月	八月	少	中	中	中	中	中	中	中
南光	中	八月一〇	八月	八月	八月	少	中	中	中	中	中	中	中
巴錦	中	八月五	八月	八月	八月	少	中	中	中	中	中	中	中

備考 五月九日播種、株間二三平方、一株播種粒數は二〇粒内外なり。

(八) 温床苗栽培 昭和十五年

品 種 名	發芽 其否	出穂 期	穂揃 日數	成熟 期	結實 日數	稲熱病の多少	二化性 蟲害の多少	倒伏の 多寡	稈長	穂長	穂數	摘 要
巴 錦	中	八月一日	七月九日	九月三日	五日	少	微	無	六〇	一六八	三本	
玉 光	否	八月四日	七月九日	九月三日	五日	微	稍多	無	六六	一九四	二本	
渡 島 錦	中	八月二日	七月九日	九月三日	五日	少	微	無	六六	一九四	二本	
水稻農林一號	同	八月三日	七月九日	九月三日	五日	無	微	同	六六	一九四	二本	

備考 四月二十五日播種、五月二十五日挿秧、株間二三糎×二三糎、一株三本植なり。

(三) 收量調査 自昭和十四年
至同十五年

品 種 名	標準肥				摘 要
	米 收量	當 量	玄 米	玄 米	
巴 錦	四三九	一三三	五三%	二八四九	
南 光	三二七	一〇〇	五二%	二二六八	
玉 光	三九七	一一八	五五%	二九八八	
萬 太郎	三三七	一〇六	四八%	二二〇四	
渡 島 錦	三四九	一〇二	五二%	二二二七	

備考 一、施肥量は厩肥一、〇〇〇疋、硫酸アンモニア一三疋、魚粕一八八疋、精過磷酸石灰二二五疋、硫酸加里七五疋なり。

二、播種期は五月二日、挿秧期は昭和十四年は六月十日、同十五年は六月十一日なり。

三、栽植距離 二二糎×二二糎(坪當六八株)一株七乃至八本植なり。

四、「玉光」及「萬太郎米」に對する標準品種、「南光」の收量は本表標準品種「南光」の收量と異なるものとす。

品 種 名	多肥栽培				少肥栽培				摘 要
	米 收量	當 量	玄 米	玄 米	米 收量	當 量	玄 米	玄 米	
巴 錦	三九八	一一三	五四%	二六四五	二二六	一〇〇	五二%	二二六八	
南 光	三五七	一〇〇	五三%	二三四三	二一三	一〇〇	五二%	二二〇〇	
玉 光	四〇七	一四〇	五三%	二七三七	二二六	一〇〇	五二%	二二〇〇	
萬 太郎	三二八	一〇六	四八%	二二〇四	二二六	一〇〇	四八%	二二〇四	
渡 島 錦	三四六	一〇二	五二%	二二二七	二二六	一〇〇	五二%	二二二七	

備考 一、多肥及少肥栽培は夫れ夫れ標準肥栽培施肥量の三割増、五割減なり。

二、直播栽培は五月九日播種、株間二三糎×二三糎、一株播種粒數二〇粒内外なり。

三、「玉光」及「萬太郎米」に對する標準品種「南光」の收量は本表標準品種「南光」の收量と異なるものとす。

四、本成績は孰れも昭和十五年一箇年の成績なり。

品 種 名	標準肥栽培收量に對する各種栽培收量の割合(玄米重量%)				摘 要
	多肥栽培	少肥栽培	直播栽培	温床苗栽培	
巴 錦	四一〇	一〇〇	七九%	二七〇	昭和十五年成績 四月二十五日播、五月二十 五日挿秧、株間二三糎×二 三糎、一株三本植
玉 光	三五二	一〇〇	八〇%	二三四	
渡 島 錦	三二六	九三	七四%	二六三	
水稻農林一號	三四五	九七	七九%	二六三	
水稲農林一號	三四五	九七	七九%	二六三	

品 種 名	多肥栽培	少肥栽培	直播栽培	温床苗栽培	摘 要
巴 錦	九七	六	八九	一〇〇	

南 玉 萬 渡	光 米 耶 太			100 99 100 100		7 6 6 7		4 3 3 4					6 6 6 6	

(一) 楡山試作場試驗成績
(イ) 普通苗栽培

品 種 名	出穂期	成熟期	倒伏の多少	稻熱病の多少	蟲害の多少	稈長	穂長	穂數	品質	米当量	割收量	摘	要
巴 錦 島	八月廿五日	九月三日	同少	同少	同中	五・五	一・五	一七	四二	二・九	一〇九		
品													

(ロ) 簡易温床苗栽培

品 種 名	出穂期	成熟期	倒伏の多少	稻熱病の多少	蟲害の多少	稈長	穂長	穂數	品質	米当量	割收量	摘	要
巴 錦 島	八月廿四日	九月二日	同中	同中	同中	六・六	一・四	二七	四二	二・七	一〇三		
品													

(二) 北海道農事試驗場(本場)試驗成績
(イ) 普通苗栽培

品 種 名	出穂期	成熟期	倒伏の多少	稻熱病の多少	蟲害の多少	稈長	穂長	穂數	品質	米当量	割收量	摘	要
巴 錦 島	八月廿二日	九月一日	無	無	無	六・四	一・六	二七	三・八	三・七	一〇三		
品													

本場に於ては晩熟に過ぐ

品 種 名	出穂期	成熟期	倒伏の多少	稻熱病の多少	蟲害の多少	稈長	穂長	穂數	品質	米当量	割收量	摘	要
南 玉 萬 渡	八月廿一日	九月一日	無	無	無	六・四	一・六	二七	四四	三・七	一〇六		
品													

(ロ) 温床苗栽培

品 種 名	出穂期	成熟期	倒伏の多少	稻熱病の多少	蟲害の多少	稈長	穂長	穂數	品質	米当量	割收量	摘	要
南 玉 萬 渡	八月廿一日	九月二日	無	無	無	六・四	一・六	二七	四四	三・七	一〇六		
品													

(三) 瀨棚試作場試驗成績

品 種 名	出穂期	成熟期	倒伏の多少	稻熱病の多少	蟲害の多少	稈長	穂長	穂數	品質	米当量	割收量	摘	要
南 玉 萬 渡	八月廿二日	九月二日	無	無	無	六・三	一・六	二七	四一	三・四	一〇九		
品													

瀨棚地方に於ては晩熟に過ぐ

三、道内各地に於ける委託試験成績 昭和十五年

(一) 渡島支庁管内に於ける試験成績
(イ) 普通地に於ける試験成績

試験地	品種名	出穂期	成熟期	倒伏の多寡	稻熱病の多少	品質	反當玄米收量	割收合量	摘	要
龜田郡大野村字開發	波玉南巴島	八月六日	十月三日	無	無	四	104.0	100		
字龜田千代大野田村	玉巴	八月二日	十月八日	無	無	四	113.0	100		
字龜田赤川通村	波玉南巴島	八月六日	十月三日	無	無	三	107.5	100		
函館市湯川高丘町	波玉南巴島	八月六日	十月三日	無	無	四	107.5	100		

(ロ) 稻熱病發生地帯に於ける試験成績

試験地	品種名	出穂期	成熟期	倒伏の多寡	稻熱病の多少	品質	反當玄米收量	割收合量	摘	要
上磯郡上野通町	南波玉南巴早島	八月六日	十月三日	無	無	一	103.6	100		
上磯郡知内村字森越	南波玉南巴早島	八月八日	十月五日	無	無	二	98.6	100		
上磯郡木古内村	波玉南巴島	八月六日	十月三日	無	無	二	100.0	100		
龜田郡大野村木村	波玉南巴島	八月二日	九月八日	無	無	三	111.0	100		

(二) 檜山支廳管内に於ける試験成績

試験地	品種名	出穂期	成熟期	倒伏の多少	稻熱病の多少	品質	反當玄米收量	割收合量	摘	要
檜山郡上ノ國村 大字中須田字新村	巴錦	八月三日	十月一日	無	無	三等	100.00	17.5		
	渡島錦	八月三日	十月三日	同	多	同等	77.00	100		
瀨棚郡東瀨棚村 字丹羽旭峠下	巴錦	八月三日	十月一日	無	無	三等	100.00	17.5		
	渡島錦	八月三日	十月三日	同	多	同等	77.00	100		
南島	巴錦	八月三日	十月一日	無	無	三等	100.00	17.5		
	渡島錦	八月三日	十月三日	同	多	同等	77.00	100		

(三) 膽振支廳管内に於ける試験成績

試験地	品種名	出穂期	成熟期	倒伏の多少	稻熱病の多少	品質	反當玄米收量	割收合量	摘	要
有珠郡伊達町字長流	巴錦	八月三日	十月一日	無	無	三等	109.50	12.5		
	中生白毛一號	八月三日	十月六日	同	多	同等	95.00	100		
後志支廳管内に於ける試験成績	南光	八月四日	十月五日	同	多	同等	99.80	104		
	玉島	八月三日	十月五日	同	多	同等	97.80	101		
富島	巴錦	八月三日	十月一日	無	無	三等	109.50	12.5		
	渡島錦	八月三日	十月三日	同	多	同等	95.00	100		

(四) 後志支廳管内に於ける試験成績

試験地	品種名	出穂期	成熟期	倒伏の多少	稻熱病の多少	品質	反當玄米收量	割收合量	摘	要
岩内郡前田村字 大谷地	巴錦	八月三日	十月五日	同	多	外	99.80	100		稍晩熟に過ぐ
	富錦	八月九日	九月二日	同	多	外	126.40	100		
南光	巴錦	八月三日	十月五日	同	多	外	104.70	100		
	玉島	八月三日	九月二日	同	多	外	104.70	100		

(五) 水稻「大野中稻」に関する試験成績

本品種は上川支場に於ける農林省指定新品種育成試験に於て昭和七年「畿内早生二二號」を母とし、「坊主六號」を父として人工交配を行ひしものを、雜種第三代(昭和十年)以降渡島支場に於て選抜固定を圖り育成せるものにして、各種試験の結果従来の品種に比し實用的諸形質優秀なるを以て「大野中稻」と命名し道南の溫暖地帯たる渡島支廳管内龜田郡、上磯郡、松前郡、檜山支廳管内檜山郡、爾志郡、膽振支廳管内有珠郡、虻田郡の噴火灣沿岸地方に普及奨励することに決定せり。本品種の特性は成熟期「津輕坊主一號」より僅に晩く「萬太郎米」と大差なく、「南光」に比すれば出穂期稍遅きも成熟整一にして結實日數短く、成熟期は一週間内外早し。稈稍細く短稈多稈にして「南光」に比すれば穂揃極めて良好なり。玄米は中粒の小豊満にして「南光」より大粒、色澤良く、品質も亦「津輕坊主一號」、「萬太郎米」に比すれば遙に優り、「南光」に伯仲し、結實良好にして不完全粒、不稔粒等少なし。

稻熱病耐病性に關しては發病し易き栽培條件たる畑地栽培、晚植多肥栽培及多肥栽培をなし葉稻熱病、穗頸稻熱病及節稻熱病の發生状態を調査觀察せるに、「大野中稻」は「津輕坊主一號」、「萬太郎米」、「玉光」は固より「南光」、「渡島錦」、「富國」、「早生白毛」其の他の主要品種に比し耐病性相當に強きを認めたり。

播種期及挿秧期を遅延せしめ以て異常環境に於ける特性の變異を調査せるに、出穂期の遅延は「南光」、「津輕坊主一號」、

「萬太郎米」、「玉光」と大差なく「渡島錦」に比すれば稍少く傾向を示し不稔歩合は大ならざりき。冷水灌溉をなし水田水溫の差による生育状況を比較せるに、「大野中稻」は「津輕坊主一號」に比し冷水灌溉による出穂遅延は大差なきも不稔歩合稍少なく、「南光」、「萬太郎米」に比すれば冷水灌溉による出穂遅延稍多く不稔歩合亦稍多きを示せり。然れ共莖稈重量歩合少く穗重の低下大ならず、依て本品種は出穂遅延稍多き外は冷水灌溉に於ても比較的安定せる生育状況を示し、冷水抵抗性は「南光」、「萬太郎米」程度にして、「津輕坊主一號」に比し寧ろ強しと認め得るが如し。倒伏抵抗性は「津輕坊主一號」、「萬太郎米」、「渡島錦」に比すれば極めて強く、「玉光」は固より「南光」に比するも強きを認めたり。

收量は「津輕坊主一號」は固より「南光」、「萬太郎米」に比するも増収を示し、多肥栽培の場合特に増収程度大なり。又配付先に於ける試験成績によれば排水不良なる稻熱病發生地帯に於ても特に良成績を示せり。其の成績左の如し

(一) 特性調査

一、渡島支場試験成績

品種名	別の種	太の種	剛の種	芒の種	芒の種	先は芒又	色	粒	粒	玄米	大玄米	小玄米	重量	玄米	白心	白腹	割	米	玄米	質	食	剛	精	精	精	病	病	冷	冷	倒	倒
大野中稻	細	剛	無		白黄	白黄	密	難	中	少	少	少	少	少	少	少	淡	濃	淡	濃	良	良	良	良	良	良	良	良	良	良	良
津輕坊主一號	中	中	稀	短	白黄	白黄	密	同	長	中	中	中	中	中	中	中	中	中	中	中	中	中	中	中	中	中	中	中	中	中	
南光	同	同	同	短	白黄	白黄	同	同	中	中	中	中	中	中	中	中	中	中	中	中	中	中	中	中	中	中	中	中	中	中	
萬太郎米	同	同	同	中	白黄	白黄	密	同	中	中	中	中	中	中	中	中	中	中	中	中	中	中	中	中	中	中	中	中	中	中	

備考 一、本成績は標準栽培に於ける自昭和十三年至同十五年の調査成績にして内剛度、精白歩合、釜殖歩合は昭和十五年一箇年の調査成績なり。
二、精白は二瓶式打撃精白法により一等精白程度とせり。
三、釜殖歩合は内徑三瓶、長さ一七瓶の硬質ガラス測容管を用ひ蒸氣により煮沸し、輕油を用ひ眞の容積の増加割合を測定せるものなり。
四、稻熱病耐病性は發病し易き環境に於て栽培し適宜目的に應じ檢定せる成績の概評なり。
五、冷水抵抗性は圃場の一邊より灌溉水を掛流し、此の邊に直角に供試品種を栽植し灌溉水溫の差による生育状況の差異を調査せる成績の概評なり。
六、倒伏抵抗性は標準施肥量の倍量を施用し、栽培せるものに就き觀察せる結果の概評なり。

(二) 生育調査

(イ) 普通栽培

自昭和十三年至同十五年

品種名	發芽良否	出穂期	日數	成熟期	日數	結實日數	穗實	節	二化性	稻葉	倒伏の多少	稈長	穗長	穗數
大野中稻	良	八月二日	六	八月二日	四	四	微一少	無一微	無一少	中一稍多	無一少	六	一六	一八
津輕坊主一號	同	八月二日	五	八月九日	四	四	中一稍多	無一微	無一少	中	無一少	六	一八	一九
南光	同	八月二日	六	八月九日	五	五	少一中	微一少	少一少	中	無	六	一七	一八
萬太郎米	同	八月三日	五	八月九日	四	四	中	少一中	少一少	中	無一少	六	一八	一九

備考 一、本成績は標準肥料栽培區に於ける成績にして、栽植距離二二種×二二種(坪當六八株)、一株七乃至八本植なり。

(ロ) 直播栽培

昭和十五年

品種名	發芽良否	出穂期	日數	成熟期	日數	結實日數	稲熱病の多少	二化性	倒伏の多少	稈長	穗長	穗數
大野中稻	良	八月二日	八	八月二九日	四	四	微	無	無	六	一六	二四

南	玉	渡
光	光	島
八月二日	八月二日	八月二日
無	同	同
無	同	同
少	同	同
充	共	充
一六四	一八三	一六〇
一四本	一四	一七
三	一	一
三六一	三〇三	六九三
昭	昭	昭
和	和	和
十五	十五	十五
年	年	年
度	度	度
成	成	成
績	績	績

一一八

三、道内各地に於ける委託試験成績

自昭和十四年
至同十五年

(一) 渡島支庁管内に於ける試験成績
(イ) 普通地に於ける試験成績

試験地	品種名	出穂期	成熟期	倒伏の多少	稲熱病の多少	品質	反當玄米収量		平均	割合	摘要
							昭十四年	同十五年			
千代田 大野村字	大野中稻	八月二日	九月三日	無	無	三	一〇八・三五〇	一〇七・七〇〇	一〇八・〇〇〇	一〇二	排水稍不良地なり
	玉島錦	八月二日	九月三日	少	少	四	一〇七・七〇〇	一〇六・〇〇〇	一〇七・〇〇〇	一〇四	
	南光	八月二日	九月三日	同	同	三	一〇七・七〇〇	一〇六・〇〇〇	一〇七・〇〇〇	一〇二	
	大野中稻	八月二日	九月三日	無	無	三	一〇八・三五〇	一〇七・七〇〇	一〇八・〇〇〇	一〇二	
龜田郡大野村字	大野中稻	八月二日	九月三日	無	無	三	一〇八・三五〇	一〇七・七〇〇	一〇八・〇〇〇	一〇二	排水稍不良地なり
	南光	八月二日	九月三日	同	同	三	一〇七・七〇〇	一〇六・〇〇〇	一〇七・〇〇〇	一〇二	
	玉島錦	八月二日	九月三日	同	同	三	一〇七・七〇〇	一〇六・〇〇〇	一〇七・〇〇〇	一〇二	
	大野中稻	八月二日	九月三日	無	無	三	一〇八・三五〇	一〇七・七〇〇	一〇八・〇〇〇	一〇二	
函館市湯川	大野中稻	八月二日	九月三日	無	無	三	一〇八・三五〇	一〇七・七〇〇	一〇八・〇〇〇	一〇二	例年稻熱病發生多し
	南光	八月二日	九月三日	同	同	三	一〇七・七〇〇	一〇六・〇〇〇	一〇七・〇〇〇	一〇二	
	玉島錦	八月二日	九月三日	同	同	三	一〇七・七〇〇	一〇六・〇〇〇	一〇七・〇〇〇	一〇二	
	大野中稻	八月二日	九月三日	無	無	三	一〇八・三五〇	一〇七・七〇〇	一〇八・〇〇〇	一〇二	
上磯郡上磯町字 中野通り	大野中稻	八月二日	九月三日	無	無	三	一〇八・三五〇	一〇七・七〇〇	一〇八・〇〇〇	一〇二	昭和十五年は品種により稲熱病の發生大なるを認む
	南光	八月二日	九月三日	同	同	三	一〇七・七〇〇	一〇六・〇〇〇	一〇七・〇〇〇	一〇二	
	玉島錦	八月二日	九月三日	同	同	三	一〇七・七〇〇	一〇六・〇〇〇	一〇七・〇〇〇	一〇二	
	大野中稻	八月二日	九月三日	無	無	三	一〇八・三五〇	一〇七・七〇〇	一〇八・〇〇〇	一〇二	
上磯郡知内村字 森越	大野中稻	八月二日	九月三日	無	無	三	一〇八・三五〇	一〇七・七〇〇	一〇八・〇〇〇	一〇二	昭和十五年は品種により稲熱病の發生大なるを認む
	南光	八月二日	九月三日	同	同	三	一〇七・七〇〇	一〇六・〇〇〇	一〇七・〇〇〇	一〇二	
	玉島錦	八月二日	九月三日	同	同	三	一〇七・七〇〇	一〇六・〇〇〇	一〇七・〇〇〇	一〇二	
	大野中稻	八月二日	九月三日	無	無	三	一〇八・三五〇	一〇七・七〇〇	一〇八・〇〇〇	一〇二	

(ロ) 稻熱病發生地帯に於ける試験成績

一一九

(二) 檜山支廳管内に於ける試験成績 (昭和十五年)

試験地	品種名	出穂期	成熟期	倒伏の多少	稲熱病の多少	品質	反當玄米收量		摘	摘要
							昭和十四年	昭和十五年		
龜田郡大野村字一本木	大野中稻	八月九日	九月九日	無	微少	三	八四・五九〇	八六・〇〇〇	八五・二九五	一八三
	南光	八月九日	九月九日	無	微少	三	三七・九〇〇	六五・〇〇〇	四六・六四五	
上磯郡木古内村字瓜谷	大野中稻	八月二日	九月三日	無	無	二	六八・〇八五	七〇・〇六三	七〇・〇七四	一四九
	南光	八月二日	九月三日	無	無	二	五三・五四三	六〇・〇〇〇	四六・八七〇	
大野中稻	南光	八月二日	九月三日	無	無	二	三七・九〇〇	六五・〇〇〇	四六・八七〇	一〇〇
	玉光	八月二日	九月三日	無	無	二	六九・一〇〇	六九・一〇〇	七四・八七〇	
大野中稻	南光	八月二日	九月三日	無	無	二	五〇・七四〇	六九・一〇〇	七四・八七〇	一〇〇
	玉光	八月二日	九月三日	無	無	二	六九・一〇〇	六九・一〇〇	七四・八七〇	
大野中稻	南光	八月二日	九月三日	無	無	二	六八・〇〇〇	六八・〇〇〇	七四・八七〇	一〇〇
	玉光	八月二日	九月三日	無	無	二	六八・〇〇〇	六八・〇〇〇	七四・八七〇	

稲熱病の爲收種皆無

收量割合は昭和十四年成績なり

(三) 檜山支廳管内に於ける試験成績

試験地	品種名	出穂期	成熟期	倒伏の多少	稲熱病の多少	品質	反當玄米收量		摘	摘要
							昭和十四年	昭和十五年		
檜山郡厚澤部村大字鶴村	大野中稻	八月七	九月四	無	少	三	八六・〇〇〇	八六・〇〇〇	一〇五	一〇〇
	渡島錦	八月七	九月四	無	少	三	八二・四〇〇	八二・四〇〇	一〇〇	
檜山郡上ノ國村大字中須田字新	大野中稻	八月二日	九月七日	無	少	三	七二・三〇〇	七二・三〇〇	一二五	一〇〇
	渡島錦	八月二日	九月七日	無	少	三	五七・〇〇〇	五七・〇〇〇	一〇〇	
萬太郎米	大野中稻	八月二日	九月六	無	多	三	四六・〇〇〇	四六・〇〇〇	八一	一〇〇
	渡島錦	八月二日	九月六	無	多	三	四六・〇〇〇	四六・〇〇〇	八一	

(三) 膽振支廳管内に於ける試験成績 自昭和十四年至同十五年

試験地	品種名	出穂期	成熟期	倒伏の多少	稲熱病の多少	品質	反當玄米收量		摘	摘要
							昭和十四年	昭和十五年		
檜山郡泊村大字小黒部	大野中稻	八月二	九月一	無	中	三	八九・五〇〇	七九・九〇〇	一二三	一〇〇
	渡島錦	八月二	九月一	無	中	三	七九・九〇〇	七九・九〇〇	一二三	
瀨棚郡利別村字下豊田	大野中稻	八月二	九月一	無	無	三	四二・五五〇	五七・三五〇	七四	一〇〇
	富國	八月二	九月一	無	無	三	五七・三五〇	五七・三五〇	七四	
瀨棚郡東瀨棚村字丹羽旭峠下	大野中稻	八月二	九月一	無	無	三	七五・五〇〇	八五・五〇〇	八五	一〇〇
	富國	八月二	九月一	無	無	三	八五・五〇〇	八五・五〇〇	八五	

晩熟に過ぐ

(四) 後志支廳管内に於ける試験成績 自昭和十四年至同十五年

試験地	品種名	出穂期	成熟期	倒伏の多少	稲熱病の多少	品質	反當玄米收量		摘	摘要
							昭和十四年	昭和十五年		
有珠郡伊達町字長流	大野中稻	八月三	九月二	三	三	三	一一・〇〇〇	一一・〇〇〇	一一三	一〇〇
	中生白毛一號	八月三	九月二	三	三	三	一一・〇〇〇	一一・〇〇〇	一一三	
南光	南光	八月三	九月二	三	三	三	八三・六七七	八八・七六四	一〇〇	一〇〇
	玉光	八月三	九月二	三	三	三	九四・八〇三	九七・〇九一	一〇九	
渡島錦	渡島錦	八月三	九月二	三	三	三	九六・五五五	九七・〇八〇	一〇九	一〇九
	富國	八月三	九月二	三	三	三	九一・〇〇五	九一・二七八	一〇三	

昭和十四年は二化性螟蟲の被害特に大なり

試験地	品種名	出穂期	成熟期	品質	反當玄米收量		摘	摘要
					昭和十四年	昭和十五年		
大野中稻	大野中稻	八月八	九月六	三	九四・九〇〇	一〇〇・四〇〇	一〇〇・五〇〇	九五
	大野中稻	八月八	九月六	三	九四・九〇〇	一〇〇・四〇〇	一〇〇・五〇〇	九五

品種名	日發芽	出穂始	出穂期	出穂揃	日穂揃	昭十四年	同昭和十四年	移植期	成熟期
十勝黒毛	三七八	三五七	三八一	三四一	三五九	一九〇	一〇〇	八二五	三二五
坊主六號	三三三	三二九	三九〇	三四〇	三五八	一九〇	一〇〇	八二五	三二五
早生富國	三八五	三七八〇	四一七	三五七	三五九	一九〇	一〇〇	八二五	三二五
玉置坊主	四〇二	四一〇	四一七	三五七	三五九	一九〇	一〇〇	八二五	三二五
坊主五號	四〇六	四一七	四一七	三五七	三五九	一九〇	一〇〇	八二五	三二五
チンコ坊主一號	四一八	四二八	四二二	三五七	三五九	一九〇	一〇〇	八二五	三二五
富國	四三三	四三九	四三三	三五七	三五九	一九〇	一〇〇	八二五	三二五
北生	四三五	四三七	四三七	三五七	三五九	一九〇	一〇〇	八二五	三二五
早生白毛	三九二	三八六	四〇三	三五七	三五九	一九〇	一〇〇	八二五	三二五
井越早稻	四〇三	四〇四	四〇三	三五七	三五九	一九〇	一〇〇	八二五	三二五
伊達近成	四〇四	四〇三	四〇三	三五七	三五九	一九〇	一〇〇	八二五	三二五
津輕坊主一號	四〇四	四〇八	四〇三	三五七	三五九	一九〇	一〇〇	八二五	三二五
南光	四〇四	四〇八	四〇三	三五七	三五九	一九〇	一〇〇	八二五	三二五
玉光	四〇四	四〇八	四〇三	三五七	三五九	一九〇	一〇〇	八二五	三二五
波島錦光	四〇四	四〇八	四〇三	三五七	三五九	一九〇	一〇〇	八二五	三二五
波島錦	四〇四	四〇八	四〇三	三五七	三五九	一九〇	一〇〇	八二五	三二五
波青三四號	四〇四	四〇八	四〇三	三五七	三五九	一九〇	一〇〇	八二五	三二五
中生白毛一號	四〇四	四〇八	四〇三	三五七	三五九	一九〇	一〇〇	八二五	三二五
萬太郎米	四〇四	四〇八	四〇三	三五七	三五九	一九〇	一〇〇	八二五	三二五
近成	四〇四	四〇八	四〇三	三五七	三五九	一九〇	一〇〇	八二五	三二五
巴成	四〇四	四〇八	四〇三	三五七	三五九	一九〇	一〇〇	八二五	三二五
波青六八號	四〇四	四〇八	四〇三	三五七	三五九	一九〇	一〇〇	八二五	三二五
秋田一號	四〇四	四〇八	四〇三	三五七	三五九	一九〇	一〇〇	八二五	三二五
奧羽一七二號	四〇四	四〇八	四〇三	三五七	三五九	一九〇	一〇〇	八二五	三二五
水稲農林一號	四〇四	四〇八	四〇三	三五七	三五九	一九〇	一〇〇	八二五	三二五
栗柄一號	四〇四	四〇八	四〇三	三五七	三五九	一九〇	一〇〇	八二五	三二五
改其一號	四〇四	四〇八	四〇三	三五七	三五九	一九〇	一〇〇	八二五	三二五

品名	日發芽	出穂始	出穂期	出穂揃	日穂揃	昭十四年	同昭和十四年	移植期	成熟期
波島錦	三八一	四一五	三八九	三七一	三五九	一九〇	一〇〇	八二五	三二五
波島錦	三八一	四一五	三八九	三七一	三五九	一九〇	一〇〇	八二五	三二五

(七) 水稻温床苗栽培用品種選抜試驗成績

波島支場に於て水稻の温床苗栽培に適する品種を選ばせんとし、主として府縣産品種に就きて選抜試驗を施行せるに、一、二比較的好成績なる品種ありしもその多くは熟期適當なるも收量多からざるか、又は多收なるも熟期遅きに過ぎ且氣候的に安全性を缺きて、當場育成品種に比し優るものなく、「巴錦」最も良好なる成績を示せり。

而も實際上農家に於て温床苗栽培をなす場合に於ては本成績以上に作況遅延する場多きを以て、當地方に於ける中熟又は晩熟の優良品種を選定すべきものと認めたり。即ち府縣産品種は天候適順なる場合に於ては多收なるを得るも、僅かの不順天候に遭遇するのみにて出穂並に成熟の遅延大にして收量著しく減少すべきを以てなり。

昭和十四年に於ては府縣産品種にありても成熟期に達せざるものなかりしも、同十五年に於ては成熟期に達せしもの少なく、其の遅延日数は出穂にありては當地方品種は一日乃至二日なれ共、府縣産品種は四、五日のもの多く成熟期も十四、五日の遅延を見たり。

次に收量に於ては昭和十五年は同十四年に比し、當地方品種は三乃至四%の減收に過ぎざるも、府縣産品種は一、二%の減收を示し、一〇以上一六・七%の減收を示し、減收率少なき品種も「玉光」に劣りたり。其の成績左の如し

波島支場試験成績 自昭和十四年至同十五年

品名	日發芽	出穂始	出穂期	出穂揃	日穂揃	昭十四年	同昭和十四年	移植期	成熟期
波島錦	一五	八、九	八、三	八、三	八、二	一九〇	一〇〇	八二五	三二五
波島錦	一五	八、九	八、三	八、三	八、二	一九〇	一〇〇	八二五	三二五

陸羽一三二號	三、八〇七	三、二四一	三、四七四	九七	四、五〇三	四、四七〇	一〇九	一七	五、三〇〇	八〇	二、四	五、九	三、六〇	四、五
水稲東北一六號					四、四六九	四、四七六	一〇四	一	四、一三七	二、四				
水稲東北一二號					四、五八二	三、八八八	九	九	四、〇五四					
水稲東北一四號					四、七〇三	三、九七〇	三〇	三〇	五、二一八					
奧羽一八七號	三、五〇六	三、九二九	三、二二八	九〇	四、三〇三	四、三三七	一〇〇	一六	四、六二五	八〇	八〇	一、六〇	三、五	三、五
青森糯五號	三、三三九	三、三三九	三、三二八	九〇	四、三〇三	四、三三七	一〇〇	一六	四、六二五	八〇	八〇	一、六〇	三、五	三、五
今田糯	三、三三九	三、三三九	三、三二八	九〇	四、三〇三	四、三三七	一〇〇	一六	四、六二五	八〇	八〇	一、六〇	三、五	三、五
平六糯石一號	三、四六九	三、九二九	三、三二八	九〇	四、三〇三	四、三三七	一〇〇	一六	四、六二五	八〇	八〇	一、六〇	三、五	三、五
水稲秋田糯七號	三、二六四	三、九二九	三、三二八	八六	四、六六五	三、四〇三	九三	六	四、七三七	七九	八二	一、八五	二、五	二、五
彦太郎糯														

備考

- 一、玄米収量なきものは豫備試験の成績にして、坪刈せるものを比較便宜上陌當収量に換算せるものなり。
- 二、陌當精粒重量に於て「六日早稻」、「農林四號」、「奥羽一八七號」、「彦太郎糯」及「今田糯」に對する収量割合は、夫れ夫れ収量の異なる標準品種「玉光」に對する割合を示せるを以て、前表の標準品種「玉光」に對する収量割合と異なるものとす。
- 三、參考普通苗栽培の玄米収量割合は普通苗栽培「玉光」の収量を一〇〇としたる場合の割合を示せり。但し「奥羽一七二號」及「水稲農林一號」は圃場を異にし収量の異なる標準品種「玉光」に對する割合を示せるを以て、前表の標準品種「玉光」に對する収量割合と異なるものとす。

(八) 水稻直播期節試驗

美深試作場に於て五月十五日より六月四日に至る五日隔に行ひたる播種期節試驗成績の主要左の如し

- 一、發芽及苗の生育は播種期早きに従ひ早きも、播種期遅るるに従ひ概ね發芽日數短く苗の伸長活潑なり。
- 一、出穂期及成熟期は概ね播種期早きに従ひ早きも、其の差は播種期の差に比し少なく、播種期遅るるに従ひ生育日數短縮せらる。

一、生育日數の短縮は主として出穂日數の短縮によるものにして、結實日數は短縮せらるること少なし。

一、草丈及莖數は播種期と關係少なく、穗長も「坊主六號」、「早生富國」にありては差なきも、「水稻農林十一號」、「水稻農林十五號」、「水稻農林十九號」、「走坊主二號」の各品種にありては播種期の遅延するに従ひ稍短小となる傾向あり。

一、一株の粗粒數は、「水稻農林十一號」、「水稻農林十九號」、「坊主六號」の各品種は播種期と關係少なきも、「水稻農林十五號」、「走坊主二號」、「早生富國」の各品種にありては播種期遅るるに従ひ概ね減少する傾向あり。

一、玄米収量は、「水稻農林十一號」、「水稻農林十九號」は播種期の早晚による差少なく、「坊主六號」もその差比較的小なり。然れども「水稻農林十五號」、「走坊主二號」、「早生富國」の各品種にありては五月二十五日迄に播種せるものは大差なきも、之より播種期の遅るるに従ひ収量の劣るを示せり。

一、品質は各品種共五月二十五日迄に播種せるものは大差なく概ね良好なるも、五月三十日播、六月四日播は青米、死米等の稍多き傾向あるを認めたり。

以上の成績を綜合するに、水稻の直播適期は五月二十五日迄とすべきも、「早生富國」、「走坊主二號」、「水稻農林十五號」は寧ろ播種期早きを有利とすべく、此の期間を失し播種する場合は、「水稻農林十一號」、「水稻農林十九號」等を供するの安全なるを認めたり。其の成績左の如し

美深試作場試驗成績 自昭和十三年 至同十五年

(一) 生育調査

品種名	試驗區別	播種期	發芽期	播種後		出穂		成熟		生育		草莖數	穗長	一株總粒數	一株結實粒數	結實割合	
				三十日	葉數	昭和十三年	同十四年	同十五年	平均	昭和十三年	同十四年						同十五年
水稻	五月十五日	五月二八日	五月三十一日	三、七	七、七	七月七日	七月七日	九月三日	九月三日	九月三日	九二	九二	九二	九二	九二	九二	八三
農林	五月二十日	五月三十一日	六月三日	三、九	七、三	七月七日	七月七日	九月三日	九月三日	九月三日	九二	九二	九二	九二	九二	九二	八三
林	五月二十五日	五月三十一日	六月三日	三、七	七、三	七月七日	七月七日	九月三日	九月三日	九月三日	九二	九二	九二	九二	九二	九二	八三

品種	播種期	昭和三十四年		昭和三十五年		平均	割合	重量	歩級	重量	品質	完全	青米	死米	容量	反當玄米收量
		五月十五日	五月二十日	五月二十五日	五月三十日											
五十林農稻水	五月十五日	四一三	四一三	四一三	四一三	四一三	一〇〇	三三六	七三	七九	一一	八八	八三	六六	二八	七一
	五月二十日	四二二	四二二	四二二	四二二	四二二	一〇〇	三三六	七三	七九	一一	八八	八三	六六	二八	七一
	五月二十五日	四三〇	四三〇	四三〇	四三〇	四三〇	一〇〇	三三六	七三	七九	一一	八八	八三	六六	二八	七一
	五月三十日	四三九	四三九	四三九	四三九	四三九	一〇〇	三三六	七三	七九	一一	八八	八三	六六	二八	七一
	六月四日	四四八	四四八	四四八	四四八	四四八	一〇〇	三三六	七三	七九	一一	八八	八三	六六	二八	七一

(二) 收量調査

國富生早	號六
五月十五日	五月二十五日
五月二十日	五月三十日
五月二十五日	六月四日
五月三十日	五月十五日
六月四日	五月二十日
五月十五日	五月二十五日
五月二十日	五月三十日
五月二十五日	六月四日
五月三十日	五月十五日
六月四日	五月二十日

主坊	號二	主坊走	號九十林農稻水	號五十林農稻水	號一十
五月二十日	五月十五日	五月二十日	五月十五日	五月二十日	五月十五日
五月二十五日	五月三十日	五月二十五日	五月三十日	五月二十五日	五月三十日
六月四日	五月四日	五月四日	五月四日	五月四日	五月四日
五月十五日	五月二十日	五月二十日	五月二十五日	五月三十日	六月四日
五月二十日	五月二十五日	五月三十日	六月四日	五月十五日	五月二十日
五月二十五日	六月四日	五月十五日	五月二十日	五月二十五日	五月三十日
六月四日	五月十五日	五月二十日	五月二十五日	五月三十日	六月四日

1111

1110

試験區別		品種	播種距離		歩合	昭和十三年同十四年同十五年同					平均	收量		重暈隔量		重量立一粒		品質完全米	青米	死米	反當玄米收量	
區	別		十	林		十	一	二	三	四		五	割	合	重	暈	隔				量	重
九	寸	立三種隔	九	寸	七	八	八	八	八	八	八	八	九	九	九	九	九	九	九	九	九	九
八	寸	立三種隔	八	寸	七	八	八	八	八	八	八	八	九	九	九	九	九	九	九	九	九	九
七	寸	立三種隔	七	寸	七	八	八	八	八	八	八	八	九	九	九	九	九	九	九	九	九	九
六	寸	立三種隔	六	寸	七	八	八	八	八	八	八	八	九	九	九	九	九	九	九	九	九	九

(二) 收量調査

試験區別		品種	播種距離		歩合	昭和十三年同十四年同十五年同					平均	收量		重暈隔量		重量立一粒		品質完全米	青米	死米	反當玄米收量	
區	別		十	林		十	一	二	三	四		五	割	合	重	暈	隔				量	重
八	寸	立三種隔	八	寸	七	八	八	八	八	八	八	八	九	九	九	九	九	九	九	九	九	九
七	寸	立三種隔	七	寸	七	八	八	八	八	八	八	八	九	九	九	九	九	九	九	九	九	九
六	寸	立三種隔	六	寸	七	八	八	八	八	八	八	八	九	九	九	九	九	九	九	九	九	九
五	寸	立三種隔	五	寸	七	八	八	八	八	八	八	八	九	九	九	九	九	九	九	九	九	九

試験區別		品種	播種距離		歩合	昭和十三年同十四年同十五年同					平均	收量		重暈隔量		重量立一粒		品質完全米	青米	死米	反當玄米收量	
區	別		十	林		十	一	二	三	四		五	割	合	重	暈	隔				量	重
九	寸	立三種隔	九	寸	七	八	八	八	八	八	八	八	九	九	九	九	九	九	九	九	九	九
八	寸	立三種隔	八	寸	七	八	八	八	八	八	八	八	九	九	九	九	九	九	九	九	九	九
七	寸	立三種隔	七	寸	七	八	八	八	八	八	八	八	九	九	九	九	九	九	九	九	九	九
六	寸	立三種隔	六	寸	七	八	八	八	八	八	八	八	九	九	九	九	九	九	九	九	九	九

(一) 灌溉水の深淺に関する調査成績

美深試作場に於ける灌溉水の深淺に関する調査成績に據れば、水温は午前六時及午後六時に於ては灌溉水深きものは其の淺きものに比し高く、午前十時に於ては灌溉水淺きもの高きも、八月上旬の如く氣候不順にして水温低き場合は、午前十時の地温は灌溉水深きもの却つて高きを示し、水稻の生育は灌溉水深きもの程草丈の伸長早く出穂亦稍早き傾向を有するも、成熟期は「走坊主二號」にありては差なく、「水稻農林十一號」にありては灌溉水深きもの程早きを示せり。而して收量は灌溉水の深淺による差も、氣候不順にして水稻の生育遅延の虞ある場合は灌溉水深きを得策とするを認めたり。其の成績左の如し

美深試作場調査成績 昭和十五年

(一) 水温及地温調査

調査區別 第一

水別時刻	水の深	七月		八月		九月		合全期間
		中旬	下旬	中旬	下旬	中旬	下旬	
		後半	前半	後半	前半	後半	前半	
時六前午	時十前午	時六後午	時十前午	時六後午	時十前午	時六前午	時十前午	時六前午
一五〇	一〇五	一〇五	一〇五	一〇五	一〇五	一〇五	一〇五	一〇五
一九九	一九九	一九九	一九九	一九九	一九九	一九九	一九九	一九九
二二〇	二〇五	二〇五	二〇五	二〇五	二〇五	二〇五	二〇五	二〇五
二二四	二〇三	二〇三	二〇三	二〇三	二〇三	二〇三	二〇三	二〇三
二二五	二〇三	二〇三	二〇三	二〇三	二〇三	二〇三	二〇三	二〇三
二二五	二〇三	二〇三	二〇三	二〇三	二〇三	二〇三	二〇三	二〇三
二〇四	一九七	一九七	一九七	一九七	一九七	一九七	一九七	一九七
二〇七	二〇三	二〇三	二〇三	二〇三	二〇三	二〇三	二〇三	二〇三
二二三	二〇八	二〇八	二〇八	二〇八	二〇八	二〇八	二〇八	二〇八
二二三	二〇八	二〇八	二〇八	二〇八	二〇八	二〇八	二〇八	二〇八
二一八	二二三	二二三	二二三	二二三	二二三	二二三	二二三	二二三
八二六	八四八	八四八	八四八	八四八	八四八	八四八	八四八	八四八

(二) 生育及収量調査

調査區別	品名	林農一	水一	稲一	主號	出		草		草		長	歩合	収量	割合	一立	一〇〇	品	重	量	反當	量	依	
						期	熟成	期	熟成	期	熟成													
走二	五	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八
	坊一	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇
主號	一五	一五	一五	一五	一五	一五	一五	一五	一五	一五	一五	一五	一五	一五	一五	一五	一五	一五	一五	一五	一五	一五	一五	一五
林號	一五	一〇	五	五	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八

(二) 緑肥大豆品種試験成績

十勝支場に於て施行せる緑肥大豆品種試験成績に據れば、燕麥に對し緑肥作物を間混作せる場合は、既に獎勵せる「赤クローバー」、「コンモンベツチ」及「サンドベツチ」の収量優るも、採種及その他の關係より他の緑肥作物を利用せんとする場合を考慮し、緑肥大豆十一品種、ルービン二品種を試験せる成績に據れば、乾燥収量に於ては「茶小粒」最も多く、「早生黒千石」、「黒目小粒」、「黄花ルービン」之に順次せり。採種量にありては、「黒田六尺」及「バージニアビン」多く、「黒目大豆」、「早生黒千石」、「黒目小粒」、「公五〇二」之に順次し、採種量より明年播種し得る面積を計算するに、「公五〇二」は七〇倍にして最も多く、「早生黒千石」は四五・八倍、「黒丸葉」は三四・六倍、「茶小粒」は三三・七倍にして之に順次し、他は三〇倍に達せざりき。而して緑肥大豆中「茶小粒」は熟期遅く脱實困難なれば、當地方に於ては獎勵し難く、「早生黒千石」は収量稍劣るも播種し得る面積大なれば、當地方の緑肥大豆として適當せるを以て、本年新に十勝地方の暫定的限定優良品種に決定せり。尚、「早生黒千石」（十支第五、三九九號黒千石）は従來道内の種苗店にて「黒千石」と稱し販賣し居

(三) 菜豆品種選抜試験成績

早來火山灰地試験地に於ける成績に據れば「菊地長鶉」は多收にして、且耐病性強きを以て當地方火山灰地に於ける適品種なるを認めたり。其の成績左の如し

早來火山灰地試験地試験成績 昭和十三年 同十四年

(一) 病害無防除區

品種名	草丈	開花始	成熟期	昭十三年	昭十四年	平均	收量割合	子立重量	子實重量	品質	反當收量
金時	三九八	七月二八	八月二二	二、〇四九	二、四九〇	二、二七〇	一〇〇	七六〇	五二五・四	一	五九・六
紅金時	三七・	七月二八	八月二二	二、六六三	二、七三六	二、六八〇	一〇〇	八二五	四九・五	一	七・五
手無金時	三九	七月二〇	八月二二	二、八四八	二、八六七	二、八五七	一〇〇	八二一	四九・五	一	六・六
中長鶉	七〇・四	七月二〇	八月二二	一、六〇・四	二、八八五	二、二四三	一〇〇	七七八	五〇・五	一	五九・八
丸長鶉	四〇・〇	七月二〇	八月二二	二、二二六	二、四三九	二、二八二	一〇〇	七三七	四九・五	一	五九・八
菊地長鶉	四九	七月二九	八月二九	二、七三六	三、五九八	三、一六七	九七	七二二	五〇・三	二の上	六・一
常富長鶉	四三・七	七月二八	八月三〇	一、三〇・一	二、七九八	二、〇五〇	九三	七二〇	五〇・三	二の下	八・四
手無中長鶉	五二・八	七月二九	八月三〇	一、五五三	三、二〇六	二、三六五	一〇七	七四五	四六・三	二の中	六・五

(二) 病害防除區

品種名	草丈	開花始	成熟期	昭十三年	昭十四年	平均	收量割合	子立重量	子實重量	品質	反當收量
金時	四・三	七月二五	八月三〇	二、五九八	二、八四三	二、七二〇	一〇〇	七〇〇	五二・八	一	七・五
紅金時	三九・三	七月二四	八月二九	三、〇二・四	三、〇九・〇	三、〇五七	一一一	八三三	五一・五	一	八〇・五
手無金時	四五・五	七月二六	八月二九	二、八二・六	三、四七・八	三、一五二	一一一	八二五	四九・八	一	八・四
中長鶉	七九・八	七月二六	八月二八	二、六三・九	三、三九・〇	三、〇〇六	一一一	七五三	五〇・三	二の下	八・三
丸長鶉	四四・四	七月二〇	八月二四	二、九〇・四	二、五二・〇	二、七一・二	一〇〇	七三五	四六・五	一	七・三
菊地長鶉	四四・九	七月二五	八月二七	二、七四・四	三、六八・九	三、二一・六	一一七	七二〇	四六・五	一	八・九
常富長鶉	四三・九	七月二四	八月二八	一、九二・九	三、三三・五	二、六八・二	九七	七二八	五九・〇	二の中	七・〇
手無中長鶉	五〇・六	七月二五	八月二八	一、四六・三	三、六三・〇	二、五四・一	九四	七四三	四九・四	二の中	六・〇

(三) 馬鈴薯品種選抜試験成績

美深試作場に於ける馬鈴薯品種選抜試験成績に據れば、「紅丸」は澱粉含有率稍少なきも收量多く、又、「威南白」は收量「紅丸」に比し劣るも澱粉含有率最も多く、共に澱粉用品種として優るを認めたり。其の成績次の如し

美深試作場試験成績 自昭和九年 至同十五年

品種名	開花始	莖葉枯凋	草丈	昭和九年	同十年	同十一年	同十二年	同十三年	同十四年	同十五年	平均	收量割合	澱粉含有率	反當收量
神谷薯一號	七月二七	九月二〇	九五	三、一八六	二、〇四八	三、〇四六	二、二七五	二、七〇三	二、四六八	二、四一六	一〇〇	一六・五	六四・九	
ベポ	七月二三	九月三	九三	二、〇四六	二、二八七	三、〇六八	二、五五七	二、三〇三	二、〇九三	二、〇一〇	一〇〇	一四・一	七〇・九	
金時	七月二二	九月三	九三	二、〇四六	二、二八七	三、〇六八	二、五五七	二、三〇三	二、〇九三	二、〇一〇	一〇〇	一四・一	七〇・九	
蝦夷錦時	七月二二	九月三	九三	二、〇四六	二、二八七	三、〇六八	二、五五七	二、三〇三	二、〇九三	二、〇一〇	一〇〇	一四・一	七〇・九	
男爵薯	七月二二	九月三	九三	二、〇四六	二、二八七	三、〇六八	二、五五七	二、三〇三	二、〇九三	二、〇一〇	一〇〇	一四・一	七〇・九	
紅丸	七月二二	九月三	九三	二、〇四六	二、二八七	三、〇六八	二、五五七	二、三〇三	二、〇九三	二、〇一〇	一〇〇	一四・一	七〇・九	
北海白	七月二四	九月九	九六	二、五五五	二、六八七	二、四三三	二、七二二	二、六四三	二、五八三	二、五五三	一〇五	一五・一	六七・四	

品種名	開花期		草丈	隔當薯塊收量		平均	收量		一畝七五瓦塊以上の割合	澱粉含有率	隔當澱粉收量	同上割合	反當薯塊收量
	始	期		昭和十三年	同十四年		同十五年	平均					
明星	七月二日	八月二日	七五	二六七〇	二五三〇	二五九〇	二九三	二六六	二五・七	二〇四	一〇三	六六九	
咸南白	七月四日	八月二日	七三	二四〇〇	二七五七	二九八二	二九三	二六六	二五・六	四六〇	一〇三	六六九	
本育三九三號	七月二日	八月二日	七五	二四〇〇	二七五七	二九八二	二九三	二六六	二五・七	四六〇	一〇三	六六九	
本育三九六號	七月二日	八月二日	七五	二四〇〇	二七五七	二九八二	二九三	二六六	二五・七	四六〇	一〇三	六六九	

備考 澱粉含有率及澱粉收量は自昭和十一年五箇年平均、○内数字は平均年数を示す。

(四) 馬鈴薯品種選抜試験成績

早來火山灰地試験地に於ける成績に據れば「紅丸」及「咸南白」は多收にして且澱粉收量多きを以て當地方に於ける適品種なるを認めたり。其の成績左の如し

早來火山灰地試験地試験成績 自昭和十二年 至同十五年

品種名	開花期		草丈	隔當薯塊收量		平均	收量		一畝七五瓦塊以上の割合	澱粉含有率	隔當澱粉收量	同上割合	反當薯塊收量
	始	期		昭和十二年	同十三年		同十四年	同十五年					
アメリカ大白	七月二日	八月二日	七五	二四〇〇	二七五七	二九八二	二九三	二六六	二五・七	四六〇	一〇三	六六九	
蝦夷錦	七月二日	八月二日	七五	二四〇〇	二七五七	二九八二	二九三	二六六	二五・七	四六〇	一〇三	六六九	
咸南白	七月二日	八月二日	七五	二四〇〇	二七五七	二九八二	二九三	二六六	二五・七	四六〇	一〇三	六六九	
紅丸	七月二日	八月二日	七五	二四〇〇	二七五七	二九八二	二九三	二六六	二五・七	四六〇	一〇三	六六九	
明星	七月二日	八月二日	七五	二四〇〇	二七五七	二九八二	二九三	二六六	二五・七	四六〇	一〇三	六六九	
北海白	七月二日	八月二日	七五	二四〇〇	二七五七	二九八二	二九三	二六六	二五・七	四六〇	一〇三	六六九	
ペポ	七月二日	八月二日	七五	二四〇〇	二七五七	二九八二	二九三	二六六	二五・七	四六〇	一〇三	六六九	

備考 表中②は昭和十三年及同十五年の二箇年平均、①は昭和十五年一箇年の成績なり。

(五) 馬鈴薯育成系統生産力検定試験成績

美唄泥炭地試験地の高位泥炭地（埴土客入）に於ける試験成績に據れば、薯塊收量は「北海白」、「本育三九四號」、「ペポ」、「咸南白」、「明星」、「本育三九六號」、「メークキン」、「紅丸」、澱粉含有率は「咸南白」、「本育三九三號」、「明星」、「紅丸」、「神谷薯一號」、「ペポ」、澱粉收量は「咸南白」、「明星」、「ペポ」、「北海白」、「紅丸」等夫れ夫れ相順次して優るを認めたるを以て、この種土壤に於ける馬鈴薯の栽培に當りては、澱粉用として「咸南白」、「明星」、「ペポ」、「北海白」等を適當とし、食用には「北海白」、「本育三九四號」等適し、又、「男爵薯」は收量劣るも早熟なるを以て早掘用に好適するを認めたり。其の成績左の如し

美唄泥炭地試験地試験成績 自昭和十三年 至同十五年

品種名	開花期		草丈	隔當薯塊收量		平均	收量		一畝七五瓦塊以上の割合	澱粉含有率	隔當澱粉收量	同上割合	反當薯塊收量
	始	期		昭和十三年	同十四年		同十五年	平均					
アメリカ大白	七月三日	八月三日	七五	二四〇〇	二七五七	二九八二	二九三	二六六	二五・七	四六〇	一〇三	六六九	
紅丸	七月三日	八月三日	七五	二四〇〇	二七五七	二九八二	二九三	二六六	二五・七	四六〇	一〇三	六六九	
ペポ	七月三日	八月三日	七五	二四〇〇	二七五七	二九八二	二九三	二六六	二五・七	四六〇	一〇三	六六九	
本育三九三號	七月三日	八月三日	七五	二四〇〇	二七五七	二九八二	二九三	二六六	二五・七	四六〇	一〇三	六六九	
咸南白	七月三日	八月三日	七五	二四〇〇	二七五七	二九八二	二九三	二六六	二五・七	四六〇	一〇三	六六九	
蝦夷錦	七月三日	八月三日	七五	二四〇〇	二七五七	二九八二	二九三	二六六	二五・七	四六〇	一〇三	六六九	
本育三九四號	七月三日	八月三日	七五	二四〇〇	二七五七	二九八二	二九三	二六六	二五・七	四六〇	一〇三	六六九	
北海白	七月三日	八月三日	七五	二四〇〇	二七五七	二九八二	二九三	二六六	二五・七	四六〇	一〇三	六六九	

品種	本年		前年		前々年		備考
	1933	1934	1932	1933	1931	1932	
本育三九六號	七・九	七・九	七・九	七・九	七・九	七・九	
明星一號	七・六	九・二	六・九	六・四	三・三	二・七	
神谷薯一號	七・三	八・〇	七・四	六・三	二・五	二・三	
男爵薯	七・三	八・〇	五・三	六・一	三・三	三・五	
メークキン	七・三	八・三	五・九	六・六	二・七	三・七	

(一六) 馬鈴薯培土時期試験成績

美深試作場に於ける馬鈴薯培土時期試験の概要を述べれば左の如し

- 一、培土時期の馬鈴薯生育に及ぼす影響は顯著ならず。
- 一、薯塊収量は、「アーリーローズ」、「蝦夷錦」、「神谷薯一號」等の培土早きものに比し概ね優り、殊に「蝦夷錦」、「アーリーローズ」は「神谷薯一號」に比し此の傾向顯著にして、一般に培土時期特に晩きものは培土せざるものより収量劣る傾向あるを認めたり。
- 一、澱粉含有率は「アーリーローズ」、「蝦夷錦」、「神谷薯一號」等の培土せざるものは、薯塊地表に露出し所謂陽焼薯となり劣るも、培土時期と澱粉含有率との關係は判然せず。
- 一、澱粉収量は薯塊収量の如く、培土早きものは其の晩きものに比し概ね優れるも、「アーリーローズ」、「蝦夷錦」は七月五日迄、「神谷薯一號」は七月十五日迄に培土せるものの差比較的少なし。
- 一、收穫前の圃場に於ける雜草發生狀況は、培土せざるもの最も多く、培土時期早きものは其の晩きものに比し多き傾向あり。

以上の成績を綜合するに馬鈴薯の培土時期は各品種共早きを有利とするも、「アーリーローズ」、「蝦夷錦」にありては七月

五日頃迄、「神谷薯一號」は七月十五日迄、即ち晩くも開花始前を適期とすべきを認めたり。其の成績左の如し

美深試作場試験成績

自昭和十三年
至同十五年

品種	試験區別	培土時期	開花始期		葉期	草丈	葉數	隔當薯塊収量		平均	割合	割合	割合	反當收量		培土時期に於ける薯塊の狀況
			昭和十三年	同十四年				同十五年	割量					含有率	割量	
アーリーローズ	培土せざるもの	七月十五日培土	七・四	七・六	九・四	四六	四二	一五・三	三・八	一・四	一・〇	一・〇	三・六	二・八	六〇	米粒大、種薯健全
		七月十五日培土	七・四	七・五	九・五	四六	四二	一五・三	三・八	一・四	一・〇	一・〇	三・六	二・八	六〇	米粒大、種薯健全
		七月十五日培土	七・四	七・五	九・五	四六	四二	一五・三	三・八	一・四	一・〇	一・〇	三・六	二・八	六〇	米粒大、種薯健全
		七月十五日培土	七・四	七・五	九・五	四六	四二	一五・三	三・八	一・四	一・〇	一・〇	三・六	二・八	六〇	米粒大、種薯健全
蝦夷錦	培土せざるもの	七月十五日培土	七・四	七・六	九・四	四六	四二	一五・三	三・八	一・四	一・〇	一・〇	三・六	二・八	六〇	米粒大、種薯健全
		七月十五日培土	七・四	七・五	九・五	四六	四二	一五・三	三・八	一・四	一・〇	一・〇	三・六	二・八	六〇	米粒大、種薯健全
		七月十五日培土	七・四	七・五	九・五	四六	四二	一五・三	三・八	一・四	一・〇	一・〇	三・六	二・八	六〇	米粒大、種薯健全
		七月十五日培土	七・四	七・五	九・五	四六	四二	一五・三	三・八	一・四	一・〇	一・〇	三・六	二・八	六〇	米粒大、種薯健全
神谷薯一號	培土せざるもの	七月十五日培土	七・四	七・六	九・四	四六	四二	一五・三	三・八	一・四	一・〇	一・〇	三・六	二・八	六〇	米粒大、種薯健全
		七月十五日培土	七・四	七・五	九・五	四六	四二	一五・三	三・八	一・四	一・〇	一・〇	三・六	二・八	六〇	米粒大、種薯健全
		七月十五日培土	七・四	七・五	九・五	四六	四二	一五・三	三・八	一・四	一・〇	一・〇	三・六	二・八	六〇	米粒大、種薯健全
		七月十五日培土	七・四	七・五	九・五	四六	四二	一五・三	三・八	一・四	一・〇	一・〇	三・六	二・八	六〇	米粒大、種薯健全
アーリーローズ	培土せざるもの	八月五日培土	七・四	七・五	九・五	四六	四二	一五・三	三・八	一・四	一・〇	一・〇	三・六	二・八	六〇	米粒大、種薯健全
		八月五日培土	七・四	七・五	九・五	四六	四二	一五・三	三・八	一・四	一・〇	一・〇	三・六	二・八	六〇	米粒大、種薯健全
		八月五日培土	七・四	七・五	九・五	四六	四二	一五・三	三・八	一・四	一・〇	一・〇	三・六	二・八	六〇	米粒大、種薯健全
		八月五日培土	七・四	七・五	九・五	四六	四二	一五・三	三・八	一・四	一・〇	一・〇	三・六	二・八	六〇	米粒大、種薯健全

日高試作場試験成績

自昭和十四年
至同十五年

試験區別	發芽		歩合	草丈	分枝	開始	收穫	昭和十四年	同十五年	平均	割合	生草	乾草	乾燥率	收油率	品質	反當
	期	日數															
四月十日植	五月三日	三元	稍良	四三	二六	九月一日	九月七日	三三・六〇	三〇・七三	一〇〇	一八・八五	五・五九	二九・九	〇・六三	中	〇・八九	
四月二十日植	五月十三日	三元	稍良	四三	二七	九月一日	九月七日	三三・六〇	三〇・七三	一〇〇	一八・八五	五・五九	二九・九	〇・六三	中	〇・八九	
四月三十日植	五月廿二日	三元	稍良	四三	二七	九月一日	九月七日	三三・六〇	三〇・七三	一〇〇	一八・八五	五・五九	二九・九	〇・六三	中	〇・八九	
五月十日植	五月廿九日	三元	同	四三	二七	九月一日	九月七日	三三・六〇	三〇・七三	一〇〇	一八・八五	五・五九	二九・九	〇・六三	中	〇・八九	
五月二十日植	六月六日	三元	不良	四三	二七	九月一日	九月七日	三三・六〇	三〇・七三	一〇〇	一八・八五	五・五九	二九・九	〇・六三	中	〇・八九	

備考 供試品種「英國黑薄荷」(日高種)

(三) 簡耕栽培に関する調査成績

簡耕栽培とはプラウを以て耕鋤を行はずカルチベーターか又はハローによりて耕耘を行ひその上に施肥し作物を栽培するものにして、これに關し十勝支場に於て昭和十四年及同十五年の二箇年間各種作物に就きて調査せる處に據れば、簡耕栽培の收量が、普通慣行法、即ち耕鋤區と差なしと認めらるる作物は大麥、裸麥、小麥、燕麥、亞麻にして、收量劣るもの及其の良否判定し得ざるもの、豌豆、大豆、小豆、菜豆、玉蜀黍、馬鈴薯、甜菜なり。而して馬鈴薯は收量大差なきも、澱粉含量劣り、甜菜は、年により根部の形状著しく不良となり收量劣るを見たり。

生育狀況は、各種作物共稚苗時に於て簡耕區僅かに淡色なりし外、耕鋤區と大差なく、雜草は簡耕區其の發生繁茂稍多きも、主作物の生育に及ぼす影響は認めざりき。

又十勝支場幸震高丘地試験地に於ける調査成績に據れば、燕麥の簡耕栽培は耕鋤區と大差なきも菜豆は稍劣るを見たり。而して耕鋤、整地迄の勞力に就き一、二例を示せば、上士幌經營試驗農場(昭和十四年及同十五年二箇年平均)亞麻一町歩

當、簡耕栽培、男七・五時間、馬七・五時間にして耕鋤區(燕麥栽培區整地迄の勞力を比較用とす)男一七・五時間、馬一七・五時間に對するに、男一〇時間、馬一〇時間の減少を見、幸震經營試驗農場五反歩當、簡耕栽培、男六時間、馬六時間、耕鋤栽培は、男一時間、馬一七時間にして、簡耕栽培は、男五時間、馬一時間の減少を見たり。

以上の成績に據り、十勝國の如く土地輕鬆にして、冬季土壤凍結し早春播作物の播種適期短かき地方にありては、亞麻及麥類は簡耕栽培をなすことに依り播種期を早め、勞力の節減を圖り、他作物の播種期を早め、且除草時期をも早め得ることを認めたり。故に、大豆の如き前作を選び、除草を良好にし、亞麻、麥類の簡耕栽培を行ふは勞力不足の一對策なるべし。其の成績左の如し

十勝支場調査成績

自昭和十四年
至同十五年

(一) 麥類
生育並に收量調査

調査區別	出穗期	成熟期	草丈	莖數	穗長	隔當子實收量		平均	收量	割合	子實重量	品質	隔當莖重量
						昭和十四年	同十五年						
裸麥(丸實)	七月二日	八月三日	七九・六	四本	三八	一・三九	九・五〇	一・〇〇	一〇〇	六・七五	各區	一・八八九	
大麥(札幌六角)	七月六日	八月三日	八三	三本	四二	一・三三	一・一五	一・三三	一〇〇	六・八五	同	一・九〇七	
小麥(農林二九號)	七月六日	八月八日	八八	三本	六〇	一・八三	一・六八	一・七六	一〇〇	七・〇九	同	三・三三八	

燕 (ビクトリ) 耕鋤區 七月六日 八月六日 一月四日 二月一日 三月八日 四月五日 五月二日 六月九日 七月六日 八月三日 九月一日 十月八日 十一月五日 十二月二日

玉蜀黍 (札幌八行) 耕鋤區 八月八日 八月八日 九月五日 九月五日 十月二日 十月二日 十月二十九日 十月二十九日 十一月六日 十一月六日 十一月十三日 十一月十三日 十一月二十日 十一月二十日 十二月七日 十二月七日

大豆 調查區別 開花始 成熟期 草丈 枝椹數 莢數 隔當子實收量 平均 割收量 子實量 品質 隔當莖重

大豆 (石狩白一號) 耕鋤區 八月六日 八月六日 九月六日 九月六日 九月六日 九月六日 九月六日 九月六日 九月六日 九月六日 九月六日 九月六日 九月六日 九月六日 九月六日 九月六日

小豆 (早生大粒一號) 耕鋤區 七月八日 七月八日 八月八日 八月八日 八月八日 八月八日 八月八日 八月八日 八月八日 八月八日 八月八日 八月八日 八月八日 八月八日 八月八日 八月八日

菜豆 (手無金時) 耕鋤區 七月七日 七月七日 八月七日 八月七日 八月七日 八月七日 八月七日 八月七日 八月七日 八月七日 八月七日 八月七日 八月七日 八月七日 八月七日 八月七日

菜豆 (中長鶉) 耕鋤區 七月七日 七月七日 八月七日 八月七日 八月七日 八月七日 八月七日 八月七日 八月七日 八月七日 八月七日 八月七日 八月七日 八月七日 八月七日 八月七日

豌豆 (札幌青手無) 耕鋤區 七月六日 七月六日 八月六日 八月六日 八月六日 八月六日 八月六日 八月六日 八月六日 八月六日 八月六日 八月六日 八月六日 八月六日 八月六日 八月六日

馬鈴薯 (明星) 耕鋤區 七月八日 七月八日 八月八日 八月八日 八月八日 八月八日 八月八日 八月八日 八月八日 八月八日 八月八日 八月八日 八月八日 八月八日 八月八日 八月八日

馬鈴薯 調查區別 開花期 莖葉凋落期 草丈 莖數 隔當薯塊收量 平均 割收量 澱粉含有率 同上

甜菜 (本育一九三號) 耕鋤區 十月二日 十月二日 十一月二日 十一月二日 十一月二日 十一月二日 十一月二日 十一月二日 十一月二日 十一月二日 十一月二日 十一月二日 十一月二日 十一月二日 十一月二日 十一月二日

甜菜 調查區別 收穫期 草丈 葉數 根周 隔當菜根收量 平均 割收量 隔當可製糖量 同上

甜菜 (本育一九二號) 耕鋤區 十月二日 十月二日 十一月二日 十一月二日 十一月二日 十一月二日 十一月二日 十一月二日 十一月二日 十一月二日 十一月二日 十一月二日 十一月二日 十一月二日 十一月二日 十一月二日

甜菜 調查區別 收穫期 草丈 葉數 根周 隔當菜根收量 平均 割收量 隔當可製糖量 同上

亞麻 (ベルノ一號) 耕鋤區 八月三日 八月三日 九月三日 九月三日 九月三日 九月三日 九月三日 九月三日 九月三日 九月三日 九月三日 九月三日 九月三日 九月三日 九月三日 九月三日

亞麻 調查區別 收穫期 草丈 間莖數 隔當莖收量 平均 割收量 子實重量 品質 隔當子實重量

備考 一、前作物 大豆
 二、耕鋤區はブラウにて約四寸に耕鋤後播種前日縦横に數回ハローを掛け、更に除草ハローを用ひて地均を行ひ、播種當日畜力用畦立器を用ひて作條を切り施肥せり。
 三、カルチベーター區は播種前日カルチベーターを横二回掛け(土裏よりすれば一回カルチベーターの耕耘を受けたるなり)播種當日畦立器を用ひて作條を切り施肥せり。
 四、各區共施肥量、畦幅、株間、播種量、播種法等は標準耕種法によれり。

幸震高丘地試験地調査成績

自昭和十四年
至同十五年

生育並に收量調査

(一) 燕麥「ピクトリー」一號

調査區別	出穂期	成熟期	草丈	莖數	隔當子實收量		平均	割收合量	立子實一重量	隔當莖重量
					昭和十四年	十五年				
地跡薯鈴馬	春 耕 を 行 ぶ	七月九日	八二八	一三六	二七	一八九八	二〇四三	一九七	四三三	二〇三
	春季除草器を掛け直ちに播種	七月九日	八二八	一三六	二七	一九七	二〇三	四三三	二〇三	二〇三
	春耕を行はず直ちに播種	七月九日	八二八	一三六	二七	一九七	二〇三	四三三	二〇三	二〇三
地跡豆大	春 耕 を 行 ぶ	七月九日	八二八	一三六	二七	一八九八	二〇四三	一九七	四三三	二〇三
	春季除草器を掛け直ちに播種	七月九日	八二八	一三六	二七	一九七	二〇三	四三三	二〇三	二〇三
	春耕を行はず直ちに播種	七月九日	八二八	一三六	二七	一九七	二〇三	四三三	二〇三	二〇三
地跡燕麥	春 耕 を 行 ぶ	七月九日	八二八	一三六	二七	一八九八	二〇四三	一九七	四三三	二〇三
	春季除草器を掛け直ちに播種	七月九日	八二八	一三六	二七	一九七	二〇三	四三三	二〇三	二〇三
	春耕を行はず直ちに播種	七月九日	八二八	一三六	二七	一九七	二〇三	四三三	二〇三	二〇三

(二) 菜豆「手無鶏金時」

調査區別	開花始	成熟期	草丈	莖數	隔當子實收量		平均	割收合量	立子實一重量	隔當莖重量
					昭和十四年	十五年				
地跡薯鈴馬	春 耕 を 行 ぶ	七月八日	四六六	一四	一〇二	一〇二	一〇二	一〇〇	六三	七二
	春季除草器を掛け直ちに播種	七月八日	四六六	一四	一〇二	一〇二	一〇二	一〇〇	六三	七二
	春耕を行はず直ちに播種	七月八日	四六六	一四	一〇二	一〇二	一〇二	一〇〇	六三	七二
地跡豆大	春 耕 を 行 ぶ	七月八日	四六六	一四	一〇二	一〇二	一〇二	一〇〇	六三	七二
	春季除草器を掛け直ちに播種	七月八日	四六六	一四	一〇二	一〇二	一〇二	一〇〇	六三	七二
	春耕を行はず直ちに播種	七月八日	四六六	一四	一〇二	一〇二	一〇二	一〇〇	六三	七二
地跡燕麥	春 耕 を 行 ぶ	七月八日	四六六	一四	一〇二	一〇二	一〇二	一〇〇	六三	七二
	春季除草器を掛け直ちに播種	七月八日	四六六	一四	一〇二	一〇二	一〇二	一〇〇	六三	七二
	春耕を行はず直ちに播種	七月八日	四六六	一四	一〇二	一〇二	一〇二	一〇〇	六三	七二

備考 一、前作物 大豆、馬鈴薯、燕麥
 二、各區共畜力用畦立器を用ひて作條を切り施肥せり。
 三、施肥量、畦幅、株間、播種量、播種法等は標準耕種法によれり。
 四、表中の「春季除草器を掛け直ちに播種」區は昭和十四年度はハローを掛けたるものなり。

乙、園藝に関する試験及調査成績

(一) セルリー栽植密度に関する試験成績

本場に於けるセルリー栽培法試験成績に據れば、栽植密度の大なるもの程收量多きも、生食用を目的とする場合は六〇糎×三〇糎區、罐装詰加工用を目的とする場合は三〇糎×二二・五糎區收量品質共優り夫々最適なるを認めたり。其の成績左の如し

本場試験成績

(一) 收量調査 自昭和十四年 至同十五年

(イ) 「トール ゴールデン セルフ プランチング」

Table with columns for experimental area (試験區別), spacing (畦幅 株間), planting density (反當栽 植株數), and yield (收量). It includes sub-columns for yield per layer (上, 中, 下) and total yield (計), as well as damage (被 腐敗病 缺株) and softening (軟白法).

(ロ) 「ホワイト プルーム」

Table with columns for experimental area (試験區別), spacing (畦幅 株間), planting density (反當栽 植株數), and yield (收量). It includes sub-columns for yield per layer (上, 中, 下) and total yield (計), as well as damage (被 腐敗病 缺株) and softening (軟白法).

(二) 品質調査 昭和十五年

(イ) 「トール ゴールデン セルフ プランチング」

Table with columns for experimental area (試験區別), spacing (畦幅 株間), harvest time (收穫時の調査), processing time (粗調整時の調査), softening (軟白葉柄), and final yield (分 葉 重量 歩止).

試験區別別		収穫時の調査				粗調製時の調査				軟白葉柄			分薬		
畦幅	株間	草丈	太さ	莖数	重量	草丈	太さ	莖数	重量	長さ	太さ	除葉数	本数	重量	歩止
三〇〇	三〇〇	七六〇	一四六	二〇六	一八九	七六〇	一四六	二〇六	一八九	二〇〇	一三〇	一〇	〇〇	〇	七三〇
三〇〇	三〇〇	七六〇	一四六	二〇六	一八九	七六〇	一四六	二〇六	一八九	二〇〇	一三〇	一〇	〇〇	〇	七三〇
三〇〇	三〇〇	七六〇	一四六	二〇六	一八九	七六〇	一四六	二〇六	一八九	二〇〇	一三〇	一〇	〇〇	〇	七三〇
三〇〇	三〇〇	七六〇	一四六	二〇六	一八九	七六〇	一四六	二〇六	一八九	二〇〇	一三〇	一〇	〇〇	〇	七三〇
三〇〇	三〇〇	七六〇	一四六	二〇六	一八九	七六〇	一四六	二〇六	一八九	二〇〇	一三〇	一〇	〇〇	〇	七三〇
三〇〇	三〇〇	七六〇	一四六	二〇六	一八九	七六〇	一四六	二〇六	一八九	二〇〇	一三〇	一〇	〇〇	〇	七三〇
三〇〇	三〇〇	七六〇	一四六	二〇六	一八九	七六〇	一四六	二〇六	一八九	二〇〇	一三〇	一〇	〇〇	〇	七三〇
三〇〇	三〇〇	七六〇	一四六	二〇六	一八九	七六〇	一四六	二〇六	一八九	二〇〇	一三〇	一〇	〇〇	〇	七三〇

試験區別別		収穫時の調査				粗調製時の調査				軟白葉柄			分薬		
畦幅	株間	草丈	太さ	莖数	重量	草丈	太さ	莖数	重量	長さ	太さ	除葉数	本数	重量	歩止
三〇〇	三〇〇	七六〇	一四六	二〇六	一八九	七六〇	一四六	二〇六	一八九	二〇〇	一三〇	一〇	〇〇	〇	七三〇
三〇〇	三〇〇	七六〇	一四六	二〇六	一八九	七六〇	一四六	二〇六	一八九	二〇〇	一三〇	一〇	〇〇	〇	七三〇
三〇〇	三〇〇	七六〇	一四六	二〇六	一八九	七六〇	一四六	二〇六	一八九	二〇〇	一三〇	一〇	〇〇	〇	七三〇
三〇〇	三〇〇	七六〇	一四六	二〇六	一八九	七六〇	一四六	二〇六	一八九	二〇〇	一三〇	一〇	〇〇	〇	七三〇
三〇〇	三〇〇	七六〇	一四六	二〇六	一八九	七六〇	一四六	二〇六	一八九	二〇〇	一三〇	一〇	〇〇	〇	七三〇
三〇〇	三〇〇	七六〇	一四六	二〇六	一八九	七六〇	一四六	二〇六	一八九	二〇〇	一三〇	一〇	〇〇	〇	七三〇
三〇〇	三〇〇	七六〇	一四六	二〇六	一八九	七六〇	一四六	二〇六	一八九	二〇〇	一三〇	一〇	〇〇	〇	七三〇
三〇〇	三〇〇	七六〇	一四六	二〇六	一八九	七六〇	一四六	二〇六	一八九	二〇〇	一三〇	一〇	〇〇	〇	七三〇

備考 數字は一株平均、太さは直径を示す。

二、加工用としての調査
(イ)「トールゴールドンセルフブランチング」

試験區別別		粗調製原料				加工用調製品				同上品質			長莖割合		全収量に對する		摘要
畦幅	株間	莖数	重量	莖数	重量	歩止	重量	歩止	重量	長さ	太さ	莖数	重量	歩止	歩止	加工用として	
三〇〇	三〇〇	二八	八三	九	一九	二〇	四四	二二	四四	四	四	一〇	八	〇	同	過大	同
三〇〇	三〇〇	二八	八三	九	一九	二〇	四四	二二	四四	四	四	一〇	八	〇	同	過大	同
三〇〇	三〇〇	二八	八三	九	一九	二〇	四四	二二	四四	四	四	一〇	八	〇	同	過大	同
三〇〇	三〇〇	二八	八三	九	一九	二〇	四四	二二	四四	四	四	一〇	八	〇	同	過大	同
三〇〇	三〇〇	二八	八三	九	一九	二〇	四四	二二	四四	四	四	一〇	八	〇	同	過大	同
三〇〇	三〇〇	二八	八三	九	一九	二〇	四四	二二	四四	四	四	一〇	八	〇	同	過大	同
三〇〇	三〇〇	二八	八三	九	一九	二〇	四四	二二	四四	四	四	一〇	八	〇	同	過大	同
三〇〇	三〇〇	二八	八三	九	一九	二〇	四四	二二	四四	四	四	一〇	八	〇	同	過大	同

(ロ)「ホワイトブルーム」

試験區別別		粗調製原料				加工用調製品				同上品質			長莖割合		全収量に對する		摘要
畦幅	株間	莖数	重量	莖数	重量	歩止	重量	歩止	重量	長さ	太さ	莖数	重量	歩止	歩止	加工用として	
三〇〇	三〇〇	九三	五七	八	七	三〇	六六	二一	六六	〇	〇	二〇	一	〇	同	加工用として大	同
三〇〇	三〇〇	九三	五七	八	七	三〇	六六	二一	六六	〇	〇	二〇	一	〇	同	加工用として大	同
三〇〇	三〇〇	九三	五七	八	七	三〇	六六	二一	六六	〇	〇	二〇	一	〇	同	加工用として大	同
三〇〇	三〇〇	九三	五七	八	七	三〇	六六	二一	六六	〇	〇	二〇	一	〇	同	加工用として大	同
三〇〇	三〇〇	九三	五七	八	七	三〇	六六	二一	六六	〇	〇	二〇	一	〇	同	加工用として大	同
三〇〇	三〇〇	九三	五七	八	七	三〇	六六	二一	六六	〇	〇	二〇	一	〇	同	加工用として大	同
三〇〇	三〇〇	九三	五七	八	七	三〇	六六	二一	六六	〇	〇	二〇	一	〇	同	加工用として大	同
三〇〇	三〇〇	九三	五七	八	七	三〇	六六	二一	六六	〇	〇	二〇	一	〇	同	加工用として大	同

(一) 後志國磯谷郡南尻別村大字大谷地 第四紀新層土埴土

供試作物 水稻「坊主五號」

本場試驗成績

自昭和十三年
至同十五年

試驗區別	昭和十三年					昭和十四年					昭和十五年					總量	收量割合
	總	均	當	收	量	總	均	當	收	量	總	均	當	收	量		
無肥	九三六	七〇六	四三三	四三三	四三三	七〇六	六八八	四六八	四六八	四六八	四三三	三三六	三三六	三三六	三三六	三三六	三三六
無窒素	八六六	八三八	四三七	四三七	四三七	八三八	七〇六	四三三	四三三	四三三	四三三	三三六	三三六	三三六	三三六	三三六	三三六
無磷	六九九	二六八	一〇八	一〇八	一〇八	二六八	九三六	四三三	四三三	四三三	四三三	三三六	三三六	三三六	三三六	三三六	三三六
無加里	九〇六	二二八	二〇八	二〇八	二〇八	二二八	一〇八	六六六	六六六	六六六	六六六	三三六	三三六	三三六	三三六	三三六	三三六
三要素	九〇六	一三三	二〇八	二〇八	二〇八	一三三	一〇八	四七四	四七四	四七四	四七四	三三六	三三六	三三六	三三六	三三六	三三六
總量	九〇六	一三三	二〇八	二〇八	二〇八	一三三	一〇八	四七四	四七四	四七四	四七四	三三六	三三六	三三六	三三六	三三六	三三六
收量割合	一〇〇	八〇	九二	六六	六六	一〇〇	八〇	九二	六六	六六	一〇〇	八〇	九二	六六	六六	一〇〇	八〇

(口) 窒素の肥效最も大にして磷酸、加里の肥效相順次せり。

(二) 後志國磯谷郡南尻別村字下賀老 扇狀堆土(火山岩)埴土

供試作物 水稻「坊主五號」

本場試驗成績

自昭和十三年
至同十五年

試驗區別	昭和十三年					昭和十四年					昭和十五年					總量	收量割合
	總	均	當	收	量	總	均	當	收	量	總	均	當	收	量		
無肥	八五三	七〇七	四三〇	四三〇	四三〇	七〇七	六八七	四三〇	四三〇	四三〇	四三〇	三三六	三三六	三三六	三三六	三三六	三三六
無窒素	八九三	七〇七	四三〇	四三〇	四三〇	八九三	七〇七	四三〇	四三〇	四三〇	四三〇	三三六	三三六	三三六	三三六	三三六	三三六
無磷	八九三	七〇七	四三〇	四三〇	四三〇	八九三	七〇七	四三〇	四三〇	四三〇	四三〇	三三六	三三六	三三六	三三六	三三六	三三六
無加里	八九三	七〇七	四三〇	四三〇	四三〇	八九三	七〇七	四三〇	四三〇	四三〇	四三〇	三三六	三三六	三三六	三三六	三三六	三三六
三要素	一一三九	一一三〇	九八五	九八五	九八五	一一三〇	九八五	八〇二	八〇二	八〇二	八〇二	三三六	三三六	三三六	三三六	三三六	三三六
總量	一一三九	一一三〇	九八五	九八五	九八五	一一三〇	九八五	八〇二	八〇二	八〇二	八〇二	三三六	三三六	三三六	三三六	三三六	三三六
收量割合	一〇〇	八六	七七	六六	六六	一〇〇	八六	七七	六六	六六	一〇〇	八六	七七	六六	六六	一〇〇	八六

(ハ) 窒素並に磷酸の肥效共に顯著なるも加里の肥效は比較的少なし

(三) 後志國磯谷郡南尻別村字島居澤 第三紀層土 埴土

供試作物 水稻「坊主五號」

本場試驗成績

自昭和十三年
至同十五年

試驗區別	昭和十三年					昭和十四年					昭和十五年					總量	收量割合
	總	均	當	收	量	總	均	當	收	量	總	均	當	收	量		
無肥	六七三	五三八	三九六	三九六	三九六	五三八	五三六	三三六	三三六	三三六	三三六	三三六	三三六	三三六	三三六	三三六	三三六
無窒素	七六七	六三七	四七七	四七七	四七七	六三七	六二七	四三三	四三三	四三三	四三三	三三六	三三六	三三六	三三六	三三六	三三六
無磷	六二四	七七八	四七七	四七七	四七七	六二四	六二七	四三三	四三三	四三三	四三三	三三六	三三六	三三六	三三六	三三六	三三六
無加里	八二二	一〇四五	六二八	六二八	六二八	八二二	六二七	四三三	四三三	四三三	四三三	三三六	三三六	三三六	三三六	三三六	三三六
三要素	八一三	一〇二七	九三五	九三五	九三五	一〇二七	九三五	八二二	八二二	八二二	八二二	三三六	三三六	三三六	三三六	三三六	三三六
總量	八一三	一〇二七	九三五	九三五	九三五	一〇二七	九三五	八二二	八二二	八二二	八二二	三三六	三三六	三三六	三三六	三三六	三三六
收量割合	一〇〇	九七	七三	六八	六八	一〇〇	九七	七三	六八	六八	一〇〇	九七	七三	六八	六八	一〇〇	九七

(ニ) 加里並に窒素の肥效相伯仲して大にして磷酸の肥效之に亞ぎその肥效共に比較的著し

(四) 後志國磯谷郡南尻別村字志根津川 第四紀新層土 埴土

供試作物 水稻「坊主五號」

本場試驗成績

自昭和十三年
至同十五年

試驗區別	昭和十三年					昭和十四年					昭和十五年					總量	收量割合
	總	均	當	收	量	總	均	當	收	量	總	均	當	收	量		
無肥	八四七	五六一	三一九	三一九	三一九	五六一	五七六	四三六	四三六	四三六	四三六	三三六	三三六	三三六	三三六	三三六	三三六
無窒素	九三〇	七〇七	五五五	五五五	五五五	七〇七	七三二	四三六	四三六	四三六	四三六	三三六	三三六	三三六	三三六	三三六	三三六
無磷	八六三	八七八	七三七	七三七	七三七	八六三	八二六	四三六	四三六	四三六	四三六	三三六	三三六	三三六	三三六	三三六	三三六
無加里	九五二	九一六	四三七	四三七	四三七	九五二	七六八	四三六	四三六	四三六	四三六	三三六	三三六	三三六	三三六	三三六	三三六
三要素	九五二	九一六	四三七	四三七	四三七	九五二	七六八	四三六	四三六	四三六	四三六	三三六	三三六	三三六	三三六	三三六	三三六
總量	九五二	九一六	四三七	四三七	四三七	九五二	七六八	四三六	四三六	四三六	四三六	三三六	三三六	三三六	三三六	三三六	三三六
收量割合	一〇〇	八〇	七〇	六九	六九	一〇〇	八〇	七〇	六九	六九	一〇〇	八〇	七〇	六九	六九	一〇〇	八〇

三要素	九九〇	一一六五	九九七	一〇三七	五二二	六八〇	五七三	五八八	一〇〇	一〇〇
-----	-----	------	-----	------	-----	-----	-----	-----	-----	-----

(ホ) 窒素の肥効最も顯著にして、加里の肥効これに順次せり

(五) 後志國磯谷郡南尻別村字大谷地 第四紀新層土 埴土
本場試験成績 自昭和十三年 至同十五年

供試作物 燕麥「ピクトリー」一號

試験區別	昭和十三年					昭和十四年					昭和十五年					均	子	實	均	子	實	總	子	實
	總	平	均	子	實	總	平	均	子	實	總	平	均	子	實									
無肥料	六二二	五五五	四三二	五三六	三〇〇	六二二	五五五	四三二	五三六	三〇〇	六二二	五五五	四三二	五三六	三〇〇	六二二	五三六	二六二	一九七	二五三	四九	五五	五一	
無窒素	六七二	五八五	四六一	五六一	三〇六	六七二	五八五	四六一	五六一	三〇六	六七二	五八五	四六一	五六一	三〇六	六七二	五六一	二六五	一九七	二五六	四九	五五	五一	
無加里	一一五五	九九八	八三八	九九七	九〇七	一一五五	九九八	八三八	九九七	九〇七	一一五五	九九八	八三八	九九七	九〇七	一一五五	八三八	四二七	三二六	四五〇	九一	九五	九五	
無磷酸	一一九六	一〇八五	八四九	一〇四三	一〇四三	一一九六	一〇八五	八四九	一〇四三	一〇四三	一一九六	一〇八五	八四九	一〇四三	一〇四三	一一九六	八四九	四二七	三二六	四五〇	九一	九五	九五	
三要素	一二三六	一一四〇	九三二	一〇九九	五四三	一二三六	一一四〇	九三二	一〇九九	五四三	一二三六	一一四〇	九三二	一〇九九	五四三	一二三六	九三二	四四八	四九七	四九七	一〇〇	九五	九五	

(ハ) 磷酸の肥効最も大にして、窒素の肥効之に亞ぎて共に著しく加里の肥効も相當なり

(六) 後志國磯谷郡南尻別村字貝殼澤 第三紀層土 埴土
本場試験成績 自昭和十三年 至同十五年

供試作物 燕麥「ピクトリー」一號

試験區別	昭和十三年					昭和十四年					昭和十五年					均	子	實	均	子	實	總	子	實
	總	平	均	子	實	總	平	均	子	實	總	平	均	子	實									
無肥料	六二〇	三五五	三〇一	四二五	二九九	六二〇	三五五	三〇一	四二五	二九九	六二〇	三五五	三〇一	四二五	二九九	六二〇	二九九	一五四	一三二	一九五	三七	四〇	四〇	
無窒素	八二三	五九〇	三三三	六四五	三三八	八二三	五九〇	三三三	六四五	三三八	八二三	五九〇	三三三	六四五	三三八	八二三	三三八	二五二	一三二	二七五	三七	五七	四〇	
無加里	一一〇〇	九八八	八一七	一〇三五	五七二	一一〇〇	九八八	八一七	一〇三五	五七二	一一〇〇	九八八	八一七	一〇三五	五七二	一一〇〇	八一七	三九四	二四三	四五一	九一	九五	九五	
無磷酸	一一四六	一〇六一	九九六	一一三四	五七三	一一四六	一〇六一	九九六	一一三四	五七三	一一四六	一〇六一	九九六	一一三四	五七三	一一四六	九九六	四七〇	三三二	四九三	九一	九五	九五	
三要素	一一三〇	九八八	八一七	一〇三五	五七二	一一三〇	九八八	八一七	一〇三五	五七二	一一三〇	九八八	八一七	一〇三五	五七二	一一三〇	八一七	三九四	二四三	四五一	九一	九五	九五	

無加里	一一〇〇	九八八	八一七	一〇三五	五七二	一一〇〇	九八八	八一七	一〇三五	五七二	一一〇〇	九八八	八一七	一〇三五	五七二	一一〇〇	九八八	八一七	一〇三五	五七二	一一〇〇	九八八	八一七	一〇三五	五七二
-----	------	-----	-----	------	-----	------	-----	-----	------	-----	------	-----	-----	------	-----	------	-----	-----	------	-----	------	-----	-----	------	-----

(ト) 磷酸並に窒素の肥効共に顯著なるも加里の肥効は當分認め難し

(七) 後志國磯谷郡南尻別村字上目國內 扇狀堆土(火山岩)埴土
本場試験成績 自昭和十三年 至同十五年

供試作物 燕麥「ピクトリー」一號

試験區別	昭和十三年					昭和十四年					昭和十五年					均	子	實	均	子	實	總	子	實
	總	平	均	子	實	總	平	均	子	實	總	平	均	子	實									
無肥料	七三八	一八四	一七二	三六五	三四六	七三八	一八四	一七二	三六五	三四六	七三八	一八四	一七二	三六五	三四六	七三八	一七二	七二	七二	一六四	四七	四九	四九	
無窒素	七八五	三五六	四四六	五二九	三四六	七八五	三五六	四四六	五二九	三四六	七八五	三五六	四四六	五二九	三四六	七八五	三四六	一四一	六八	一六四	四七	四九	四九	
無加里	九六〇	三三七	四三六	四七四	四四四	九六〇	三三七	四三六	四七四	四四四	九六〇	三三七	四三六	四七四	四四四	九六〇	四四四	九八	一〇九	二二七	六二	六八	六八	
無磷酸	一一三八	五〇五	六九八	七八〇	五二八	一一三八	五〇五	六九八	七八〇	五二八	一一三八	五〇五	六九八	七八〇	五二八	一一三八	五二八	二〇七	九八	二二七	六二	六八	六八	
三要素	一一九九	四八〇	六三六	七七二	五二九	一一九九	四八〇	六三六	七七二	五二九	一一九九	四八〇	六三六	七七二	五二九	一一九九	五二九	一九八	一〇九	二二七	六二	六八	六八	

(チ) 磷酸並に窒素の肥効相伯仲して共に顯著にして加里の肥効も相當なり

(八) 後志國磯谷郡南尻別村字メンコツ 火山岩土 埴土
本場試験成績 自昭和十三年 至同十五年

供試作物 燕麥「ピクトリー」一號

試験區別	昭和十三年					昭和十四年					昭和十五年					均	子	實	均	子	實	總	子	實
	總	平	均	子	實	總	平	均	子	實	總	平	均	子	實									
無肥料	八二六	四四五	三二五	五三二	三五八	八二六	四四五	三二五	五三二	三五八	八二六	四四五	三二五	五三二	三五八	八二六	三五八	二〇一	二〇一	三三二	四四	四五	四五	
無窒素	八四五	四四五	三二五	五三二	三五八	八四五	四四五	三二五	五三二	三五八	八四五	四四五	三二五	五三二	三五八	八四五	三五八	二〇一	二〇一	三三二	四四	四五	四五	
無加里	五五九	三二五	三二五	五三二	三五八	五五九	三二五	三二五	五三二	三五八	五五九	三二五	三二五	五三二	三五八	五五九	三五八	二〇一	二〇一	三三二	四四	四五	四五	
無磷酸	八四五	四四五	三二五	五三二	三五八	八四五	四四五	三二五	五三二	三五八	八四五	四四五	三二五	五三二	三五八	八四五	三五八	二〇一	二〇一	三三二	四四	四五	四五	
三要素	八四五	四四五	三二五	五三二	三五八	八四五	四四五	三二五	五三二	三五八	八四五	四四五	三二五	五三二	三五八	八四五	三五八	二〇一	二〇一	三三二	四四	四五	四五	

(リ) 磷酸の肥効特に顯著にして窒素の肥効之に亞ぎて著しく加里の肥効も相當なり

(九) 後志國磯谷郡南尻別村字南部川 火山性土 埴土

本場 試驗成績 自昭和十三年 至同十五年

供試作物 燕麥「ビクトリー一號」

試驗區別	總			鉢			當			子			收			實			收量割合	
	昭十三	同十四	同十五	昭十三	同十四	同十五	昭十三	同十四	同十五	昭十三	同十四	同十五	昭十三	同十四	同十五	昭十三	同十四	同十五	總	子
無	110.9	110.9	110.9	37.5	37.5	37.5	175.5	175.5	175.5	46.7	46.7	46.7	139.9	139.9	139.9	27.2	27.2	100	93	53
加	125.7	125.7	125.7	46.0	46.0	46.0	218.6	218.6	218.6	52.5	52.5	52.5	150.0	150.0	150.0	46.7	46.7	100	93	53
磷	134.6	134.6	134.6	52.7	52.7	52.7	218.6	218.6	218.6	52.5	52.5	52.5	150.0	150.0	150.0	46.7	46.7	100	93	53
三	134.6	134.6	134.6	52.7	52.7	52.7	218.6	218.6	218.6	52.5	52.5	52.5	150.0	150.0	150.0	46.7	46.7	100	93	53

(又) 窒素の肥効最も大にして磷酸の肥効之に亞ぎて著しく加里の肥効も相當なり

(ロ) 後志國磯谷郡磯谷村横間 第三紀層土 埴土

本場 試驗成績 自昭和十三年 至同十五年

供試作物 燕麥「ビクトリー一號」

試驗區別	總			鉢			當			子			收			實			收量割合	
	昭十三	同十四	同十五	昭十三	同十四	同十五	昭十三	同十四	同十五	昭十三	同十四	同十五	昭十三	同十四	同十五	昭十三	同十四	同十五	總	子
無	37.5	37.5	37.5	175.5	175.5	175.5	46.7	46.7	46.7	139.9	139.9	139.9	27.2	27.2	27.2	100	100	100	100	100
加	58.3	58.3	58.3	218.6	218.6	218.6	52.5	52.5	52.5	150.0	150.0	150.0	46.7	46.7	46.7	100	100	100	100	100
磷	44.3	44.3	44.3	190.0	190.0	190.0	47.7	47.7	47.7	142.3	142.3	142.3	47.7	47.7	47.7	100	100	100	100	100
三	114.8	114.8	114.8	95.8	95.8	95.8	102.7	102.7	102.7	48.3	48.3	48.3	144.5	144.5	144.5	100	100	100	100	100

石狩、渡島及釧路國に於ける磷酸施用試験成績 (現地試験)

(一) 石狩國空知郡岩見澤町字係別 洪積層土 埴土

本試験の結果に據れば磷酸の效果顯著にして、磷酸を増施するに従ひ收量も増加し、共通肥料 (反當加里一〇貫) に磷酸反當一〇貫を施用する場合、收量、差引收益共に最も優るを示せり、而して施用磷酸に對する增收割合は共通肥料を増施するに従ひ反つて漸減する傾向を示し、更に堆肥を併用する場合には增收割合は一層減少する傾向あるを認めたり。

其の成績左の如し

委託試驗成績 自昭和十四年 至同十五年

供試作物 燕麥「ビクトリー一號」

一區面積 三三・一平方米

試驗區別	總			鉢			當			子			收			實			收量割合	
	昭十三	同十四	同十五	昭十三	同十四	同十五	昭十三	同十四	同十五	昭十三	同十四	同十五	昭十三	同十四	同十五	昭十三	同十四	同十五	總	子
無	65.7	65.7	65.7	48.2	48.2	48.2	37.1	37.1	37.1	50.3	50.3	50.3	26.9	26.9	26.9	17.3	17.3	100	47	49
加	96.7	96.7	96.7	52.7	52.7	52.7	43.0	43.0	43.0	64.1	64.1	64.1	42.6	42.6	42.6	16.7	16.7	100	60	59
磷	114.7	114.7	114.7	69.9	69.9	69.9	52.0	52.0	52.0	101.2	101.2	101.2	46.3	46.3	46.3	35.9	35.9	100	94	93
三	123.7	123.7	123.7	106.8	106.8	106.8	92.7	92.7	92.7	107.7	107.7	107.7	50.8	50.8	50.8	40.5	40.5	100	100	100

試驗區別	總			鉢			當			子			收			實			收量割合	
	昭十三	同十四	同十五	昭十三	同十四	同十五	昭十三	同十四	同十五	昭十三	同十四	同十五	昭十三	同十四	同十五	昭十三	同十四	同十五	總	子
加	123.9	123.9	123.9	50.4	50.4	50.4	34.5	34.5	34.5	47.8	47.8	47.8	35.7	35.7	35.7	16.4	16.4	100	100	100
同	131.9	131.9	131.9	60.0	60.0	60.0	48.5	48.5	48.5	70.0	70.0	70.0	51.5	51.5	51.5	23.0	23.0	100	100	100
同	133.6	133.6	133.6	67.0	67.0	67.0	52.2	52.2	52.2	73.9	73.9	73.9	55.5	55.5	55.5	25.4	25.4	100	100	100
加	120.9	120.9	120.9	57.9	57.9	57.9	36.2	36.2	36.2	48.0	48.0	48.0	37.7	37.7	37.7	15.4	15.4	100	100	100
同	128.9	128.9	128.9	67.0	67.0	67.0	48.5	48.5	48.5	70.0	70.0	70.0	51.5	51.5	51.5	23.0	23.0	100	100	100
同	133.6	133.6	133.6	67.0	67.0	67.0	52.2	52.2	52.2	73.9	73.9	73.9	55.5	55.5	55.5	25.4	25.4	100	100	100
加	120.9	120.9	120.9	57.9	57.9	57.9	36.2	36.2	36.2	48.0	48.0	48.0	37.7	37.7	37.7	15.4	15.4	100	100	100
同	128.9	128.9	128.9	67.0	67.0	67.0	48.5	48.5	48.5	70.0	70.0	70.0	51.5	51.5	51.5	23.0	23.0	100	100	100
同	133.6	133.6	133.6	67.0	67.0	67.0	52.2	52.2	52.2	73.9	73.9	73.9	55.5	55.5	55.5	25.4	25.4	100	100	100

試驗區別	草丈	莖數	總重量	子實(反)		子實重量	子實容積	子實割合	子實重量	子實容積	子實割合	子實重量	子實容積	子實割合	子實重量	子實容積	子實割合	子實重量	子實容積	子實割合	
				昭十四年	同十五年																
望素〇・五貫 加里〇・五貫 同 一〇貫	二八・六	二七・〇	六二・五	三三・一	三三・一	三三・一	三三・一	一三二	九〇・六	三三・一	一三二	九〇・六	三三・一	一三二	九〇・六	三三・一	一三二	九〇・六	三三・一	一三二	九〇・六
望素一〇貫 加里一〇貫 同 一〇貫	二九・四	二六・三	五八・三	二九・六	二九・五	二九・五	二九・五	一〇〇	九〇・二	二九・五	一〇〇	九〇・二	二九・五	一〇〇	九〇・二	二九・五	一〇〇	九〇・二	二九・五	一〇〇	九〇・二
望素一〇貫 加里一〇貫 同 一〇貫	二九・七	二六・六	六四・〇	三二・〇	三二・〇	三二・〇	三二・〇	一〇六	九二・六	三二・〇	一〇六	九二・六	三二・〇	一〇六	九二・六	三二・〇	一〇六	九二・六	三二・〇	一〇六	九二・六
望素一〇貫 加里一〇貫 同 一〇貫	二九・八	二六・六	七〇・六	三〇・〇	三〇・〇	三〇・〇	三〇・〇	一一五	九二・二	三〇・〇	一一五	九二・二	三〇・〇	一一五	九二・二	三〇・〇	一一五	九二・二	三〇・〇	一一五	九二・二
望素一〇貫 加里一〇貫 同 一〇貫	二九・八	二六・六	六三・七	二九・〇	二九・〇	二九・〇	二九・〇	一〇三	九二・〇	二九・〇	一〇三	九二・〇	二九・〇	一〇三	九二・〇	二九・〇	一〇三	九二・〇	二九・〇	一〇三	九二・〇
望素一〇貫 加里一〇貫 同 一〇貫	二九・八	二六・六	六三・七	二九・〇	二九・〇	二九・〇	二九・〇	一〇三	九二・〇	二九・〇	一〇三	九二・〇	二九・〇	一〇三	九二・〇	二九・〇	一〇三	九二・〇	二九・〇	一〇三	九二・〇
望素一〇貫 加里一〇貫 同 一〇貫	二九・八	二六・六	六三・七	二九・〇	二九・〇	二九・〇	二九・〇	一〇三	九二・〇	二九・〇	一〇三	九二・〇	二九・〇	一〇三	九二・〇	二九・〇	一〇三	九二・〇	二九・〇	一〇三	九二・〇
望素一〇貫 加里一〇貫 同 一〇貫	二九・八	二六・六	六三・七	二九・〇	二九・〇	二九・〇	二九・〇	一〇三	九二・〇	二九・〇	一〇三	九二・〇	二九・〇	一〇三	九二・〇	二九・〇	一〇三	九二・〇	二九・〇	一〇三	九二・〇
望素一〇貫 加里一〇貫 同 一〇貫	二九・八	二六・六	六三・七	二九・〇	二九・〇	二九・〇	二九・〇	一〇三	九二・〇	二九・〇	一〇三	九二・〇	二九・〇	一〇三	九二・〇	二九・〇	一〇三	九二・〇	二九・〇	一〇三	九二・〇
望素一〇貫 加里一〇貫 同 一〇貫	二九・八	二六・六	六三・七	二九・〇	二九・〇	二九・〇	二九・〇	一〇三	九二・〇	二九・〇	一〇三	九二・〇	二九・〇	一〇三	九二・〇	二九・〇	一〇三	九二・〇	二九・〇	一〇三	九二・〇
望素一〇貫 加里一〇貫 同 一〇貫	二九・八	二六・六	六三・七	二九・〇	二九・〇	二九・〇	二九・〇	一〇三	九二・〇	二九・〇	一〇三	九二・〇	二九・〇	一〇三	九二・〇	二九・〇	一〇三	九二・〇	二九・〇	一〇三	九二・〇

(二) 釧路國阿寒郡鶴居村字中雪裡 火山性土 埴土

本試験の結果に據れば、磷酸の效果特に顯著にして、磷酸を増施するときは、收量亦著しく増加し、更に堆肥を併用するときは、收量一層大となり、共通肥料(反當望素〇・五貫、加里〇・五貫)に堆肥を併用し、反當磷酸一・〇貫を施用する場合、收量並に收量最も優るを示せり、尙施用磷酸に對する増收割合は共通肥料を増施するに従ひ漸減する傾向を示し、堆肥を併用する場合には更に一層低減する傾向あるを認めたり。

其の成績左の如し

委託試験成績 自昭和十四年 至同十五年

供試作物 燕麥「ビクトリー」一號

一區面積 三三・一平方米

試驗區別	草丈	莖數	總重量	子實(反)		子實重量	子實容積	子實割合	子實重量	子實容積	子實割合	子實重量	子實容積	子實割合	子實重量	子實容積	子實割合	子實重量	子實容積	子實割合	
				昭十四年	同十五年																
望素一〇貫 加里一〇貫 同 一〇貫	二八・六	二七・〇	六二・五	三三・一	三三・一	三三・一	三三・一	一三二	九〇・六	三三・一	一三二	九〇・六	三三・一	一三二	九〇・六	三三・一	一三二	九〇・六	三三・一	一三二	九〇・六
望素一〇貫 加里一〇貫 同 一〇貫	二九・四	二六・三	五八・三	二九・六	二九・五	二九・五	二九・五	一〇〇	九〇・二	二九・五	一〇〇	九〇・二	二九・五	一〇〇	九〇・二	二九・五	一〇〇	九〇・二	二九・五	一〇〇	九〇・二
望素一〇貫 加里一〇貫 同 一〇貫	二九・七	二六・六	六四・〇	三二・〇	三二・〇	三二・〇	三二・〇	一〇六	九二・六	三二・〇	一〇六	九二・六	三二・〇	一〇六	九二・六	三二・〇	一〇六	九二・六	三二・〇	一〇六	九二・六
望素一〇貫 加里一〇貫 同 一〇貫	二九・八	二六・六	七〇・六	三〇・〇	三〇・〇	三〇・〇	三〇・〇	一一五	九二・二	三〇・〇	一一五	九二・二	三〇・〇	一一五	九二・二	三〇・〇	一一五	九二・二	三〇・〇	一一五	九二・二
望素一〇貫 加里一〇貫 同 一〇貫	二九・八	二六・六	六三・七	二九・〇	二九・〇	二九・〇	二九・〇	一〇三	九二・〇	二九・〇	一〇三	九二・〇	二九・〇	一〇三	九二・〇	二九・〇	一〇三	九二・〇	二九・〇	一〇三	九二・〇
望素一〇貫 加里一〇貫 同 一〇貫	二九・八	二六・六	六三・七	二九・〇	二九・〇	二九・〇	二九・〇	一〇三	九二・〇	二九・〇	一〇三	九二・〇	二九・〇	一〇三	九二・〇	二九・〇	一〇三	九二・〇	二九・〇	一〇三	九二・〇
望素一〇貫 加里一〇貫 同 一〇貫	二九・八	二六・六	六三・七	二九・〇	二九・〇	二九・〇	二九・〇	一〇三	九二・〇	二九・〇	一〇三	九二・〇	二九・〇	一〇三	九二・〇	二九・〇	一〇三	九二・〇	二九・〇	一〇三	九二・〇
望素一〇貫 加里一〇貫 同 一〇貫	二九・八	二六・六	六三・七	二九・〇	二九・〇	二九・〇	二九・〇	一〇三	九二・〇	二九・〇	一〇三	九二・〇	二九・〇	一〇三	九二・〇	二九・〇	一〇三	九二・〇	二九・〇	一〇三	九二・〇
望素一〇貫 加里一〇貫 同 一〇貫	二九・八	二六・六	六三・七	二九・〇	二九・〇	二九・〇	二九・〇	一〇三	九二・〇	二九・〇	一〇三	九二・〇	二九・〇	一〇三	九二・〇	二九・〇	一〇三	九二・〇	二九・〇	一〇三	九二・〇
望素一〇貫 加里一〇貫 同 一〇貫	二九・八	二六・六	六三・七	二九・〇	二九・〇	二九・〇	二九・〇	一〇三	九二・〇	二九・〇	一〇三	九二・〇	二九・〇	一〇三	九二・〇	二九・〇	一〇三	九二・〇	二九・〇	一〇三	九二・〇

(三) 渡島國龜田郡龜田村字枯梗 火山岩質洪積層土 埴壤土

本試験の結果に據れば、反當望素一・〇貫、加里一・〇貫、磷酸一・〇貫を施用する場合、玄米收量並に差引收益最も優り、更に玄米收量に於ては、反當望素一・〇貫、加里一・〇貫、磷酸一・〇貫を施用の場合、之に亞ぎ、又差引收益に於ては、反當堆肥三〇貫、加里一・〇貫、磷酸一・〇貫を施用し、磷酸不施用の場合、相亞ぐを示せり。而して堆肥を施用せざる場合は、磷酸増施の效果概して顯著なるも、堆肥を併用する場合

は本地土壤に於ては燐酸の施用効果著しからざるを認めたり。

委託試験成績

自昭和十四年
至同十五年

供試作物 水稻「南 光」
一區面積 三三・一平方米

試験區別	草丈	莖數	總重量	1/10 陌 (反) 當收量		容玄米量	割玄米重量	合量	升玄米一價	生産物額	施用肥料額	收差	同割合
				昭和十四年	同十五年								
窒素一〇五貫 燐酸	八三六	一六	七三・五	三三・三	三三・三	二・〇七	一〇〇	一〇〇	一・五〇	八三・〇	二・六	七九・三	一〇〇
同 燐酸〇・五貫	八三〇	一七	七六・九	三六・一	三三・三	二・三〇	一〇〇	一〇〇	一・五〇	八八・六	三・三	八五・三	一〇七
同 同 一〇貫	八七八	一九	八三・三	三六・六	三三・三	二・四四	一〇〇	一〇〇	一・五〇	九三・四	四・九	八八・五	一一一
窒素一〇五貫 燐酸	八八七	一八	八三・三	三九・七	三三・三	二・三三	一一三	一〇〇	一・五〇	九三・三	三・五	八八・〇	一一一
同 燐酸〇・五貫	九一三	一九	八四・九	三九・〇	三三・三	二・四三	一一七	一〇〇	一・五〇	九三・六	四・九	九〇・七	一一五
同 同 一〇貫	八九七	一八	八四・七	三七・六	三三・三	二・四〇	一一六	一〇〇	一・五〇	九三・〇	四・八	九〇・九	一一三
窒素一〇五貫 燐酸	八七三	一八	八三・三	三九・〇	三三・三	二・三三	一一〇	一〇〇	一・五〇	八八・四	四・二	八四・三	一一〇
同 燐酸〇・五貫	八八八	一九	八三・八	三九・五	三三・三	二・四三	一一八	一〇〇	一・五〇	九三・二	四・七	九三・四	一一〇
同 同 一〇貫	八九四	一九	八三・三	四一・六	三三・三	二・四七	一二三	一〇〇	一・五〇	九三・九	五・四	九三・四	一一六
反當堆肥三〇〇貫併用	八七五	二〇	八三・〇	四〇・三	三三・三	二・四三	一二七	一〇〇	一・五〇	九三・二	二・五	九三・三	一一八
同 燐酸	八八六	一九	八三・三	三九・五	三三・三	二・四三	一二三	一〇〇	一・五〇	九三・〇	三・三	九三・三	一一八
同 同 一〇貫	八八六	一九	八三・三	三八・七	三三・三	二・三六	一二三	一〇〇	一・五〇	九三・〇	三・三	九三・三	一一八
同 同 一〇貫	八七一	一九	八三・三	三八・七	三三・三	二・三六	一二三	一〇〇	一・五〇	九三・〇	三・三	九三・三	一一八

備考

- 一、共通肥料 窒素は硫酸アンモニア、燐酸は精過燐酸石灰、加里は硫酸加里にて施給す。
- 一、肥料價格は昭和十四年三月並に同年十二月に於ける小樽驛源平均價格にして三七・五疋(一〇貫匁)に付硫酸アンモニア三圓九四錢、精過燐酸石灰二圓六五錢、硫酸加里六圓八五錢なりとす。
- 但し堆肥の價格は計算に加へず。
- 一、燕麥價格は昭和十五年十一月に決定せられたる公定價格(二等品)にして四〇疋に付七圓四一錢なりとす。
- 一、玄米價格は昭和十五年十一月に決定せられたる公定價格(三等品)にして一五〇疋(一石)に付三九圓四二錢なりとす。
- 一、肥料含有三要素量中燐酸は水溶性燐酸を以て示せり。

(二) 後志國土壤、肥料配合試験成績

(現地試験)

後志國に於ける代表的土壤に就きて、各種肥料配合の効果を査察し、以て適當なる標準肥料を知らんが爲、本場監督の下に現地試験を委託施行せるが、其の結果の判明せるもの左の如し

(一) 後志國太櫛郡太櫛村字サカリカンナイ 沖積層土 埴壤土

本試験の成績に據れば本土壤にありては水稻に對し窒素質肥料として、硫酸アンモニアに鱈粕又は石灰窒素を配せるもの成績優り、尙之に堆肥を併用せば更に一層優良なる成績を示すものなるを認めたり。而して施肥量は増施區及(一)四、(二)の程度に施用せば有利なりと認む。

其の成績左の如し

委託試験成績

自昭和十四年
至同十五年

供試作物 水稻「富國」
一區面積 三三・一平方米

同 (三)				同 (二)				増施區 (一)				同 (四)			
精	硫	大	堆	精	硫	鯉	大	精	硫	鯉	堆	硫	精	硫	石
過	安	豆	肥	過	安	粕	粕	過	安	粕	肥	加	過	安	空
一四六	九四	二六六	1,135,000	一四六	六四	一三九	一七六	一四六	九四	一〇六	1,135,000	一九	一四六	九四	九八
(三九)	(二五)	(七一)	(三〇〇)	(三九)	(一七)	(三七)	(四七)	(三九)	(二五)	(五五)	(三〇〇)	(〇五)	(三九)	(二五)	(二六)
	七八・七				二七九	八二・二			三〇・九	七三・二			二〇・五	七五・五	
	三九〇〇				三〇八〇				三六六	二六・四			三二六		
	三〇・四				三七六				三〇・四	三二六			三二六		
	二九六・七				八三・四	三二・八			八六六	二八九・五			七三・三	二八九・五	
	七九・一				二二六	二八・七			三・三三	四〇〇・八			一九七六	三五六・五	
	二〇三六				二二	一九七六			二二	一九七六			二〇	一九七六	
	一一				二七	二七			一三	一三			一〇	一〇	
	三九〇				三九五	一四八〇			三九〇	一四六三			三九三	一四六九	
	三九				三九	三九			三九	三九			三九	三九	
	三下				三中	三中			三下	三下			三上	三上	

同 (三)				同 (二)				標準區 (一)				慣用肥料區				試驗區別	
硫	精	硫	大	硫	精	硫	鯉	硫	精	硫	鯉	硫	精	硫	鯉	1/10 陌(反) 當施肥量	
加	過	安	豆	加	過	安	粕	加	過	安	粕	加	過	安	粕		
一九	一四六	九四	二六六	一九	一四六	九四	二六六	一九	一四六	九四	二六六	一九	一四六	九四	二六六		
(〇五)	(三九)	(二五)	(七一)	(〇五)	(三九)	(二五)	(七一)	(〇五)	(三九)	(二五)	(七一)	(〇五)	(三九)	(二五)	(七一)		
	七三・三				七三・三				七三・三				七三・三				
	二八六九				二八六九				二八六九				二八六九				
	二八三六				二八三六				二八三六				二八三六				
	七三・三				七三・三				七三・三				七三・三				
	一八五〇				一八五〇				一八五〇				一八五〇				
	一〇				一〇				一〇				一〇				
	一四七〇				一四七〇				一四七〇				一四七〇				
	三九三				三九三				三九三				三九三				
	三中				三下				三上				三中				

三、肥料含有三要素量中磷酸は便宜上水溶性磷酸を以て示せり。以下倣之。
四、肥料含有三要素量に於て括弧内の数字は堆肥以下の肥料に含まれる三要素量を示す。以下倣之。

(二) 後志國瀨棚郡東瀨棚村字丹羽 沖積層土 低位泥炭土

本試験の成績に據れば本土壌にありては水稻に對し堆肥を基本肥料として、硫酸アンモニア及鱈粕を配合せるもの、玄米收量最も大にして、硫酸アンモニア及石灰窒素を施用せるもの之に亞ぐも、差引收益に於ては硫酸アンモニア及石灰窒素を施用せるもの最も優るを認めたり。而して施肥量は増施肥區(三)及同(一)の程度に施用せば有利なりと認む。其の成績左の如し

委託試験成績

自昭和十四年
至同十五年

供試作物 水稻「富國」
一區面積 三三・一平方米

試験區別	慣用肥料區	標準區 (一)	同 (二)	110 陌 (反) 當肥量		110 陌 (反) 當收量		收量	玄米一升重量	品質
				總重量	玄米重量	總重量	玄米重量			
鱈粕	二五 (三〇)	二〇 (二八)	二五 (二八)	六二・七	三三・四	六二・七	三三・四	二九・八	一四・六	三等上
硫酸安	五六 (一五)	三八 (五〇)	三八 (五〇)	六二・七	三三・四	六二・七	三三・四	二九・八	一四・六	三等上
精加	一六九 (四五)	一八八 (五〇)	一八八 (五〇)	六二・七	三三・四	六二・七	三三・四	二九・八	一四・六	三等上
石	三三 (五九)	二〇 (二八)	二〇 (二八)	六二・七	三三・四	六二・七	三三・四	二九・八	一四・六	三等上
同	一八八 (五〇)	一〇五 (二八)	一〇五 (二八)	六二・七	三三・四	六二・七	三三・四	二九・八	一四・六	三等中

試験區別	減施肥區	増施肥區 (一)	同 (二)	同 (三)	110 陌 (反) 當肥量		110 陌 (反) 當收量		收量	玄米一升重量	品質
					總重量	玄米重量	總重量	玄米重量			
鱈粕	七五 (二〇)	一三三・〇 (三〇〇・〇)	一三三・〇 (三〇〇・〇)	七五 (二〇)	一三三・〇 (三〇〇・〇)	七五 (二〇)	一三三・〇 (三〇〇・〇)	二九・八	一四・六	三等下	
硫酸安	七二 (一九)	一〇五 (二八)	一〇五 (二八)	七二 (一九)	一〇五 (二八)	七二 (一九)	一〇五 (二八)	二九・八	一四・六	三等下	
精加	三八 (一〇)	一八八 (五〇)	一八八 (五〇)	三八 (一〇)	一八八 (五〇)	三八 (一〇)	一八八 (五〇)	二九・八	一四・六	三等下	
石	七五 (二〇)	一三三・〇 (三〇〇・〇)	一三三・〇 (三〇〇・〇)	七五 (二〇)	一三三・〇 (三〇〇・〇)	七五 (二〇)	一三三・〇 (三〇〇・〇)	二九・八	一四・六	三等下	
同	一八八 (五〇)	一〇五 (二八)	一〇五 (二八)	一八八 (五〇)	一〇五 (二八)	一八八 (五〇)	一〇五 (二八)	二九・八	一四・六	三等下	

右試験成績に據り定めたる施肥標準量、其の三要素量並に收支計算の概要左の如し

試驗區別	慣用肥料區	肥料含有三要素量		施用肥料價額	1/10反當玄米收量	同價額	差引收入	同割合
		窒素	磷酸加里					
(一)甲 各試驗區中最大差	堆肥 113.50(300.0) 石 7.5 安 7.1 過 1.8 加 1.9	8.76 2.36 1.95 0.80	7.00 1.95 1.93 0.45	3.09	2.93 (1.35)	6.03	7.14	1.29
(二)甲 各試驗區中第二位なるもの	堆肥 113.50(300.0) 石 10.5 安 10.5 過 1.8 加 1.9	9.93 2.68 2.17 0.33	8.14 2.04 0.33	8.26	3.88 2.12	8.76	7.56	1.27
(三)甲 各試驗區中第三位なるもの	堆肥 113.50(300.0) 石 10.5 安 10.5 過 1.8 加 1.9	10.06 2.67 1.88 0.35	7.00 1.88 1.95 0.35	3.70	3.05 2.09	6.77	7.37	1.26

試驗區別	慣用肥料區	肥料含有三要素量		施用肥料價額	1/10反當玄米收量	同價額	差引收入	同割合
		窒素	磷酸加里					
(一)甲 各試驗區中最大差	堆肥 113.50(300.0) 石 7.5 安 7.1 過 1.8 加 1.9	8.76 2.36 1.95 0.80	7.00 1.95 1.93 0.45	3.09	2.93 (1.35)	6.03	7.14	1.29
(二)甲 各試驗區中第二位なるもの	堆肥 113.50(300.0) 石 10.5 安 10.5 過 1.8 加 1.9	9.93 2.68 2.17 0.33	8.14 2.04 0.33	8.26	3.88 2.12	8.76	7.56	1.27
(三)甲 各試驗區中第三位なるもの	堆肥 113.50(300.0) 石 10.5 安 10.5 過 1.8 加 1.9	10.06 2.67 1.88 0.35	7.00 1.88 1.95 0.35	3.70	3.05 2.09	6.77	7.37	1.26

(三) 後志國瀨棚郡東瀨棚村字鍋坂 沖積層土 壤土

本試験の成績に據れば、本土壤にありては、水稻に對し堆肥を基本肥料とし、之に窒素質肥料として硫酸アンモニア及石灰窒素を施用せるもの玄米收量最も大にして、鰯粕に硫酸アンモニア或は大豆粕及鰯粕に硫酸アンモニアを配せるもの相順次して優るを認めたり。而して施肥量は増施區(四)及同(一)、(二)の程度に施用せば相當の収益を擧げ得るものなるを認む。其の成績左の如し

委託試験成績 自昭和十四年
至同十五年

供試作物 水稻「富國」
一區面積 三三・一平方米

試験區別	慣用肥料區	標準區	同	同	10反(反)當施肥量		10反(反)當收量		玄米容量	玄米重量割合	玄米一升重量	品質
					昭和十四年	十五年	昭和十四年	十五年				
慣用肥料區	精 硫 鰹 過 安 粕	精 硫 鰹 過 安 粕	同	同	150(400)	150(400)	694.5	709.2	325.5	100	1,466	三等下
					94(25)	94(25)	684	709.2	325.5		1,466	
標準區	精 硫 鰹 過 安 粕	精 硫 鰹 過 安 粕	同	同	101(27)	101(27)	748.7	748.7	357.4	100	1,488	三等中
					31(35)	31(35)	748.7	748.7	357.4		1,488	
同	精 硫 鰹 過 安 粕	精 硫 鰹 過 安 粕	同	同	101(27)	101(27)	704	704	357.4	100	1,488	三等中
					31(35)	31(35)	704	704	357.4		1,488	
同	精 硫 鰹 過 安 粕	精 硫 鰹 過 安 粕	同	同	101(27)	101(27)	704	704	357.4	100	1,488	三等中
					31(35)	31(35)	704	704	357.4		1,488	
同	精 硫 鰹 過 安 粕	精 硫 鰹 過 安 粕	同	同	101(27)	101(27)	704	704	357.4	100	1,488	三等中
					31(35)	31(35)	704	704	357.4		1,488	
同	精 硫 鰹 過 安 粕	精 硫 鰹 過 安 粕	同	同	101(27)	101(27)	704	704	357.4	100	1,488	三等中
					31(35)	31(35)	704	704	357.4		1,488	
同	精 硫 鰹 過 安 粕	精 硫 鰹 過 安 粕	同	同	101(27)	101(27)	704	704	357.4	100	1,488	三等中
					31(35)	31(35)	704	704	357.4		1,488	
同	精 硫 鰹 過 安 粕	精 硫 鰹 過 安 粕	同	同	101(27)	101(27)	704	704	357.4	100	1,488	三等中
					31(35)	31(35)	704	704	357.4		1,488	
同	精 硫 鰹 過 安 粕	精 硫 鰹 過 安 粕	同	同	101(27)	101(27)	704	704	357.4	100	1,488	三等中
					31(35)	31(35)	704	704	357.4		1,488	

試験區別	慣用肥料區	同	同	10反(反)當施肥量		10反(反)當收量		玄米容量	玄米重量割合	玄米一升重量	品質
				昭和十四年	十五年	昭和十四年	十五年				
同	精 硫 鰹 過 安 粕	同	同	150(400)	150(400)	881	881	385.5	100	1,488	四等中
				68(18)	68(18)	881	881	385.5		1,488	
同	精 硫 鰹 過 安 粕	同	同	101(27)	101(27)	838	838	361.7	100	1,488	四等中
				31(35)	31(35)	838	838	361.7		1,488	

右試験成績に據る施肥標準量及其の三要素量、並に收支計算の概要左の如し

試験區別	慣用肥料區	同	肥料含有三要素量		施用肥料額	10反(反)當收量	同上價額	差引收入	同上割合
			窒素	燐酸					
同	精 硫 鰹 過 安 粕	同	29.7	35.1	281.8	369.6	1.3	1,488	三等下
			29.7	35.1	281.8	369.6	1.3	1,488	三等下
同	精 硫 鰹 過 安 粕	同	29.7	35.1	281.8	369.6	1.3	1,488	三等下
			29.7	35.1	281.8	369.6	1.3	1,488	三等下
同	精 硫 鰹 過 安 粕	同	29.7	35.1	281.8	369.6	1.3	1,488	三等下
			29.7	35.1	281.8	369.6	1.3	1,488	三等下
同	精 硫 鰹 過 安 粕	同	29.7	35.1	281.8	369.6	1.3	1,488	三等下
			29.7	35.1	281.8	369.6	1.3	1,488	三等下
同	精 硫 鰹 過 安 粕	同	29.7	35.1	281.8	369.6	1.3	1,488	三等下
			29.7	35.1	281.8	369.6	1.3	1,488	三等下
同	精 硫 鰹 過 安 粕	同	29.7	35.1	281.8	369.6	1.3	1,488	三等下
			29.7	35.1	281.8	369.6	1.3	1,488	三等下

丙 各試驗區中堆肥を施用せるもの中での最大なるもの	乙 各試驗區中子實量の最もなるもの	甲(三) 各試驗區中差引收入の第三位なるもの	甲(二) 各試驗區中差引收入の第二位なるもの
堆肥	堆肥	堆肥	堆肥
石窒肥	石窒肥	大豆粕肥	鰵粕肥
硫酸安窒	硫酸安窒	大豆粕肥	鰵粕肥
精過	精過	精過	精過
1,135.0(100.0)	1,135.0(100.0)	1,135.0(100.0)	1,135.0(100.0)
10.1(2.7)	10.1(2.7)	10.1(2.7)	10.1(2.7)
10.1(2.7)	10.1(2.7)	10.1(2.7)	10.1(2.7)
13.1(3.5)	13.1(3.5)	13.1(3.5)	13.1(3.5)
99.3	99.3	100.0	99.3
264.6	264.6	266.9	263.8
(1.26)	(1.26)	(1.29)	(0.98)
59.3	59.3	63.4	69.8
156.3	156.3	169.3	186.6
(0.73)	(0.73)	(0.83)	(0.96)
63.0	63.0	69.3	66.0
166.0	166.0	186.3	176.0
(1)	(1)	(0.83)	(0.90)
28.9	28.9	67.1	73.6
31.8	31.8	29.5	30.9
(2.26)	(2.26)	(2.87)	(2.04)
81.9	81.9	76.8	80.9
79.5	79.5	74.7	75.0
28	28	26	28

乙、肥料に関する試験成績

一 石灰對三要素天然供給量試験成績

水田

本場水田(土性埴壤土)に於て石灰不施用區及石灰施用區に就き自昭和五年至同十三年九年間施行したる三要素試験の成績に據れば、石灰不施用區及施用區は昭和五年及同六年に於ては磷酸の肥效最も大にして窒素、加里相順次せるも、昭和七年以後に於ては窒素の肥效最も大となり、磷酸之に次ぎ、加里の肥效も相當認められたり。更に各年の收穫物を分析し作物の肥料三要素吸收量を査定せるに、年により相違あるも石灰不施用區及同施用區は窒素最も大にして磷酸、加里は伯仲して相次ぐと雖も、それらの吸收量は昭和六年及同七年の異例を除けば窒素は逐年漸減の傾向を示し磷酸、加里は大差なきを認む。而して石灰不施用區と同施用區との三要素吸收量を比較するに、石灰施用區は石灰不施用區に比し窒素、磷酸、加里共に大なるを示し、石灰施用區は石灰不施用區に比し九箇年平均にて窒素五・八疔、磷酸三・三疔、加里六・九疔に相當する天然供給量の増加を認めたり。尙石灰施用による三要素天然供給増加量は窒素は年による差少なく、磷酸は昭和八年以後に於て増加を認めらるるも、之に反し加里は昭和八年迄は増加顯著なりしも昭和九年以後に於ては著しからざる結果を示せり。其の成績次の如し

(一) 玄米收量

試驗區別	昭和												平均
	五年	六年	七年	八年	九年	十年	十一年	十二年	十三年	同	同	同	
無肥料	2,385	4,077	1,976	2,107	1,438	2,340	2,557	2,694	1,955	2,694	2,557	2,385	2,385
無窒素	2,835	1,036	2,334	2,273	1,358	2,553	2,693	2,340	2,557	2,694	2,557	2,385	2,385
無磷酸	2,553	4,521	3,083	3,236	2,680	2,644	3,101	3,795	3,140	3,795	3,140	2,385	2,385
無加里	3,433	1,388	3,108	3,278	2,680	2,644	3,101	3,795	3,140	3,795	3,140	2,385	2,385
三要素	3,941	1,476	3,633	4,087	3,558	3,010	3,539	4,521	3,539	4,521	3,539	2,385	2,385
窒素	3,104	2,74	2,348	2,655	2,267	2,267	2,267	2,267	2,267	2,267	2,267	2,385	2,385
磷酸	1,265	933	2,922	2,955	2,403	2,627	2,769	3,636	3,543	3,636	3,543	2,385	2,385
加里	2,385	2,385	2,385	2,385	2,385	2,385	2,385	2,385	2,385	2,385	2,385	2,385	2,385
平均	2,385	2,385	2,385	2,385	2,385	2,385	2,385	2,385	2,385	2,385	2,385	2,385	2,385

